
**H29 高等教育機関と連携した地域公共交通の推進
報告書**

平成 30 年 3 月
国土交通省 九州運輸局

－ 目 次 －

1. 事業の基本事項	1-1
1.1. 事業目的.....	1-1
1.2. 事業項目.....	1-2
1.3. 事業の対象範囲.....	1-2
1.4. 事業の実施フロー.....	1-2
1.5. 事業の実施方針.....	1-3
2. 学生を主体とした地域公共交通の利用促進に関する事例整理	2-1
2.1. 方法と支援のタイプ分類別事例整理.....	2-1
2.2. 利用促進の事例整理.....	2-2
2.2.1. 先生による助言型.....	2-3
2.2.2. 研究アプローチ型.....	2-4
2.2.3. 一般プロジェクト型.....	2-6
2.2.4. 学生プロジェクト型.....	2-7
2.3. 支援のタイプ別による効果・期待と課題.....	2-10
3. 実施主体の募集	3-1
3.1. 実施フィールドの選定.....	3-1
3.2. 実施フィールドへのアプローチ.....	3-2
4. 地域及び高等教育機関と取組みの計画に対する支援	4-1
4.1. 実施フィールドの概要.....	4-1
4.2. 水俣、行橋、国東での支援の方法と実施体制.....	4-6
4.3. 水俣：多モード結節点の改善と公共交通を活用した市内観光の提案.....	4-7
4.3.1. 概要とプログラム.....	4-7
4.3.2. 水俣のプロジェクトのポイント.....	4-10
4.3.3. 九州運輸局への参画意向表明（6月）.....	4-15
4.3.4. 水俣市とコンサルタントの協議（7/31）.....	4-16
4.3.5. 熊本高専への連携依頼（8/10）.....	4-17
4.3.6. 学生募集（8月下旬）.....	4-19
4.3.7. キックオフ会議（9/11）.....	4-20
4.3.8. 現地調査（9/29）.....	4-23
4.3.9. プレスリリースと熊本日日新聞への掲載（9月）.....	4-28
4.3.10. 高専生による企画書案の作成（10月上旬）.....	4-29
4.3.11. 企画会議①（10/19）.....	4-31
4.3.12. 企画会議②（12/14）.....	4-35
4.3.13. 現地での企画テスト（1/20）.....	4-38
4.3.14. モニターツアーの実施（2/25）.....	4-44
4.3.15. 市長への提言、交通関係者への発表（3/29）.....	4-49
4.3.16. インスタグラムでの観光情報・公共交通の情報発信.....	4-50
4.4. 行橋：バスラッピング、バス内装、バス停のデザイン.....	4-52
4.4.1. 概要とプログラム.....	4-52
4.4.2. 行橋のプロジェクトのポイント.....	4-55
4.4.3. 九州運輸局への参画意向表明（6月）.....	4-60
4.4.4. 行橋市との協議（7/21）.....	4-61
4.4.5. 西日本工業大学への連携依頼（8/4）.....	4-62
4.4.6. 西日本工業大学との協議(9/19).....	4-63
4.4.7. 授業①キックオフ会議（10/4）.....	4-65
4.4.8. 授業②現地調査準備（10/19）.....	4-67
4.4.9. 現地調査（10/28）.....	4-68
4.4.10. 授業③課題整理と企画会議（11/2）.....	4-71
4.4.11. 授業④企画検討（11/9）.....	4-74

4.4.12.	授業⑤企画検討 (11/16)	4-75
4.4.13.	授業⑥模型試作 (11/30)	4-78
4.4.14.	授業⑦模型試作 (12/7)	4-79
4.4.15.	太陽交通への中間プレゼン (12/14)	4-80
4.4.16.	授業⑧ブラッシュアップ (12/21)	4-82
4.4.17.	授業⑨ブラッシュアップ (1/11)	4-83
4.4.18.	授業⑩ブラッシュアップ (1/18)	4-84
4.4.19.	授業⑪⑫ブラッシュアップ (1/30-2/1)	4-85
4.4.20.	行橋市地域公共交通活性化協議会での成果発表 (3/19)	4-88
4.4.21.	毎日新聞・読売新聞・朝日新聞への掲載 (3/20)	4-92
4.5.	国東：広域観光における公共交通の活用	4-95
4.5.1.	概要とプログラム	4-95
4.5.2.	国東のプロジェクトのポイント	4-97
4.5.3.	大分県観光・地域振興課と大井准教授の協議 (7月)	4-101
4.5.4.	大分県によるガイダンス (7/18)	4-101
4.5.5.	大分県と大井ゼミによる六郷満山視察 (9/30)	4-102
4.5.6.	本事業の実施フィールドとして大井准教授に打診 (9月)	4-103
4.5.7.	ゼミ：コンサルタントとのキックオフ会議 (10/3)	4-103
4.5.8.	ゼミ：現地調査内容の検討 (10/10)	4-104
4.5.9.	現地調査 (10/13)	4-105
4.5.10.	ゼミ：現地調査振り返り (10/17)	4-108
4.5.11.	ゼミ：公共交通機関の接続検討 (10/24)	4-109
4.5.12.	ゼミ：論文執筆 (10/31, 11/7, 11/14)	4-113
4.5.13.	ゼミ：論文執筆 (11/21)	4-114
4.5.14.	日本観光研究学会九州・韓国南部支部学生論文での発表 (12/9)	4-115
4.5.15.	ゼミ：学内懸賞論文執筆 (12/12, 12/19, 12/26, 1/9, 1/16)	4-119
4.5.16.	ゼミ：ゼミ内論文発表 (1/23)	4-120
4.5.17.	大分県と大井ゼミとの連携	4-125
5.	<u>効果の検証、結果の整理</u>	5-1
5.1.	水俣、行橋、国東での実施スケジュール	5-2
5.2.	水俣、行橋、国東での実施フロー別 実施事項、対応、結果・効果	5-3
5.3.	水俣、行橋、国東でのプロジェクトの効果	5-5
5.4.	3地域合同意見交換会の実施	5-6
6.	<u>学生プロジェクトのマニュアル</u>	6-1
6.1.	学生プロジェクトとマニュアルについて	6-1
6.2.	学生プロジェクトの効果	6-3
6.3.	実施体制	6-7
6.4.	学生プロジェクトのフロー	6-8
6.5.	学生による企画検討のポイント	6-10
6.6.	学生プロジェクトの年間フローと役割分担	6-13
6.7.	フロー毎のチェックリスト	6-14
6.8.	学生プロジェクトの開始前における留意点	6-16
7.	<u>連携推進フライヤー「学生が動かすバスプロ!! 求むまちと学校」</u>	7-1

1. 事業の基本事項

1.1. 事業目的

地域の公共交通を取り巻く環境は、利用者が減ることによる公共交通のサービス低下、サービス低下による利用者減という負のスパイラルに陥り、交通事業者だけでは改善できない状況に陥っている。そのため、自治体は補助金による事業者支援やコミュニティバスの運行に取り組んでおり、公共交通に対する自治体の役割が増大している。

しかし、平成 28 年度九州管内における公共交通基礎調査によると「公共交通の専任担当者がいない」とする市町村は 83.2%に上る。これらの専任担当者は減少傾向にあり、自治体におけるマンパワーの不足が問題となっている。このような状況下においては、公共交通施策の現状分析や評価、利用促進、企画立案等に専門的な知識を持った職員が注力していくことは困難であると考えられる。

一方、大学においては平成 19 年 6 月の学校教育基本法改正の中で大学が果たすべき役割として教育研究の成果を広く社会に提供することが新たに位置づけられており、各大学による地域貢献活動や地域に入り込んでの研究活動が活発に実施されている。また、平成 25 年度からは文部科学省が「地（知）の拠点整備事業」を立ち上げ、大学、短期大学及び高等専門学校（以下、高等教育機関という）を地域の課題解決に資する情報・技術拠点として機能強化していくことを求められている。

今回の調査においては、学生を主体とした地域公共交通の利用促進に焦点を当てつつ、高等教育機関の知識・技術の活用や学生の主体的な主体的な参加による高等教育機関と自治体が協働した公共交通推進のあり方を検討し、今後の取り組みの参考となり得る公表用資料を作成することを目的とする。



図 1-1 3者の課題と高等教育機関と連携したプロジェクトの効果

1.2. 事業項目

- (1) 学生を主体とした地域公共交通の利用促進に関する事例整理
- (2) 実施主体の募集
- (3) 地域及び高等教育機関と取組みの計画に対する支援
- (4) 効果の検証、結果の整理

1.3. 事業の対象範囲

実施主体の募集と取組みの支援は九州内（事例収集は全国）

1.4. 事業の実施フロー

本業務の実施フローを図 1-1 に示す。

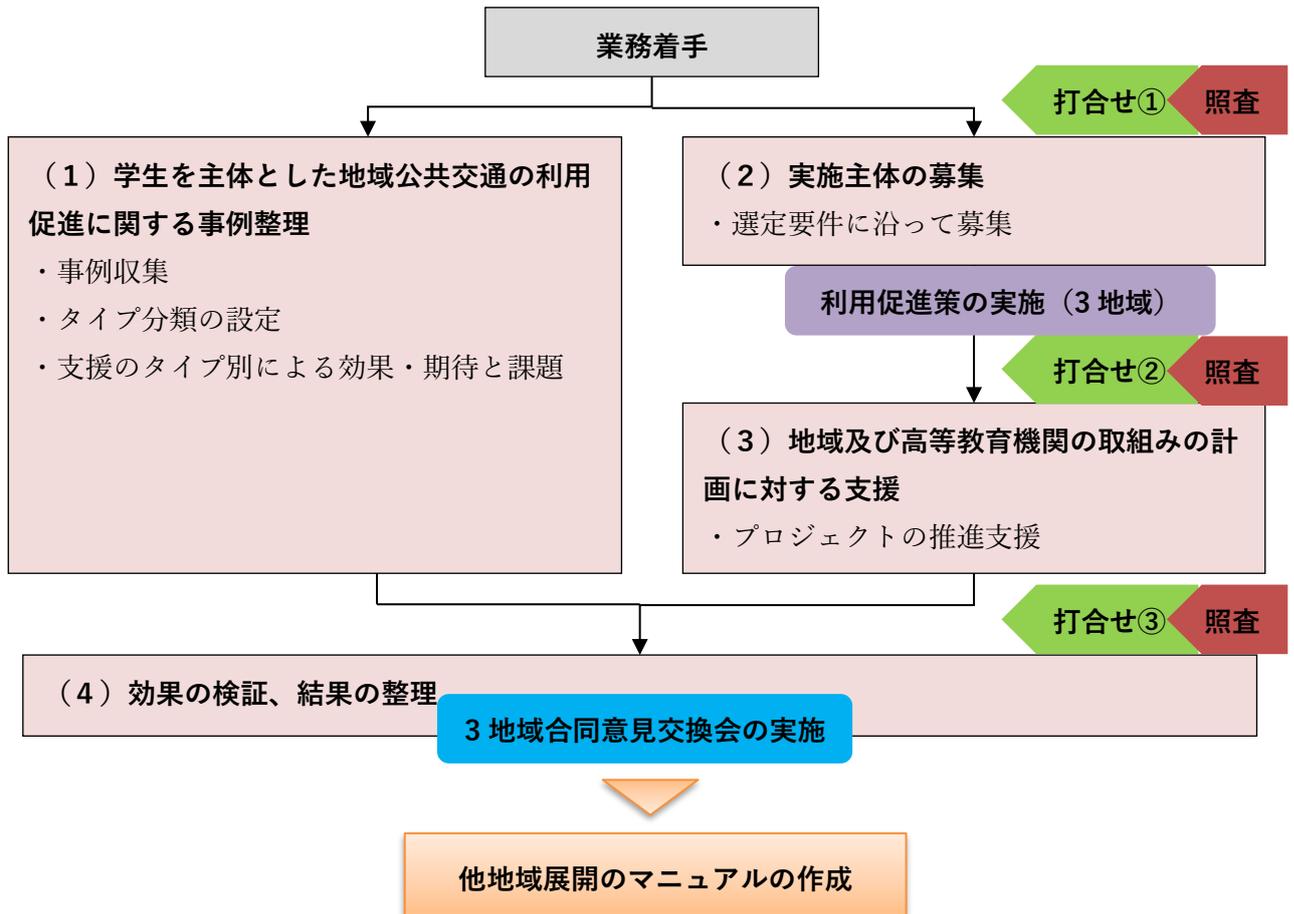


図 1-2 事業の実施フロー

1.5. 事業の実施方針

実施方針① 高等教育機関の支援のタイプ別に事例整理することで他地域展開を促進

- ▶ 高等教育機関と自治体の協働を進めるにあたっては、当該地域の高等教育機関の有無、交通政策の研究・地域まちづくりの研究を行っている学部・研究室の有無、自治体の状況、公共交通の状況等によりそれぞれ異なっている
- ▶ そこで、高等教育機関の支援のあり方をタイプ別に分類し、事例を整理することにより、その地域がどういう高等教育機関の支援を得ることが可能なのか、把握できるようにすることで、利用促進事例を他地域にも展開できるようにする

実施方針② 実施主体の募集及び計画に対する支援におけるフィールドの確実な確保

- ▶ 高等教育機関と自治体の協働による利用促進策の実施は、高等教育機関の事情（研究費の確保等）、自治体の事情（利用促進予算の確保等）、公共交通の状況（利用低迷、交通事業者との良好な関係等）といった各条件が揃わないと実現できない困難な課題である
- ▶ すでに豊後大野市では高等教育機関と連携した「大人の社会見学」（大分大学の協力）事業を継続実施されており、既に事業を実施されている関係者にも協力を打診しながら実施フィールドを確保
- ▶ その他、計画推進事業に採択されている自治体等への協力依頼を行い、高等教育機関とのネットワークを活かしたマッチングを行い、3か所程度の実施フィールドを確保する

実施方針③ 実績や有識者とのネットワークを活かした効果の検証

- ▶ 豊後大野市での実績を踏まえ、高等教育機関と自治体の協働による利用促進策の効果と課題について、「時間軸」「人的体制」「コスト」等の視点から整理する
- ▶ 豊後大野市の事例では、手厚い体制でコストもかけて実施することにより、参加者の満足度は高くその後の利用増加にもつながり、事業効果は高かった反面、運営側からは人的・コスト的課題と他地域への展開の困難性が浮かび上がったことから、多様な支援のあり方とその効果・課題を分析することが重要
- ▶ その他、都市計画学会や交通工学研究会等、学会における大学・有識者とのネットワーク等も活用して効果の検証を行う

2. 学生を主体とした地域公共交通の利用促進に関する事例整理

学生を主体とした地域公共交通の利用促進事例等について整理を行い、それぞれの特徴について整理した。

2.1. 方法と支援のタイプ分類別事例整理

インターネットや有識者等から収集した事例の整理より、高等教育機関の支援を4タイプに分類した。支援のタイプは学生の参加の有無とプロジェクトの企画検討・提案段階と実施段階で2軸に分けて、「先生による助言型」「研究アプローチ型」「一般プロジェクト型」「学生プロジェクト型」とした。

学生プロジェクト型は、一般プロジェクト型と比較して、学生が主体性を発揮することで様々な効果が期待され、利用促進事業の推進力を高めると考えられる。

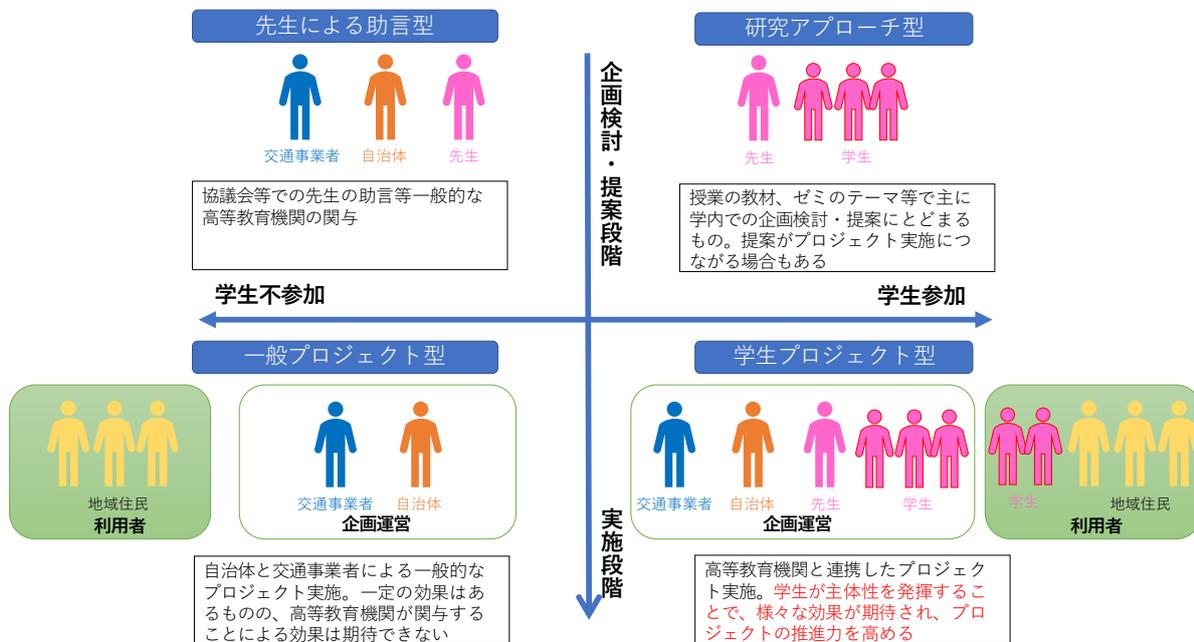


図 2-1 支援のタイプ分類

2.2. 利用促進の事例整理

支援のタイプ分類毎に事例を整理して、1. 実施体制、2. 地域公共交通の推進の取り組み内容・特徴、3. 取組みに至る経緯、4. 取組みの成果・課題について整理した。整理した事例の概要を以下の表に記載する。

表 2-1 支援のタイプ別事例整理表

支援のタイプ	利用促進の事例	自治体・高等教育機関・事業者
先生による助言型	協議会での先生によるアドバイス等	各地域での公共交通協議会・交通会議など
研究アプローチ型	授業での路線改善の議論・提案	九州大学(昭和バス・西の浦線)
	バスの利用促進を考える座談会	沖縄県、県内の高校生
一般プロジェクト型	バストリガー制度による利用促進	石巻市・バス事業者
学生プロジェクト型	「大人の社会見学」(学生主体による高齢者のバス体験試乗イベント)	豊後大野市・大分大学大井ゼミ・三重総合高校・コミバス事業者
	夏休み限定の無料シャトルバスの提案・実現	熊本高専トラフィックデザイン部、産交バス、おれんじ鉄道
	市バスの利用促進(情報発信、バス絵画コンテスト、ポスター制作)	富士市、南山大学石川ゼミ、コミバス事業者

2.2.1. 先生による助言型

協議会等のアドバイザー	
1. 対象自治体・高等教育機関（大学等）	
自治体名	各自治体
事業者	路線バス事業者等
高等教育機関名	高等教育機関の先生のみ（学生不参加）
2. 地域公共交通の推進の取り組み内容・特徴	
<ul style="list-style-type: none">・ 高等教育機関の先生が交通関係の会議にアドバイザーとして参加する一般的な事例・ 例：地域公共交通網形成計画や地域公共交通再編実施計画の作成等に伴い、大学の先生が学識者として地域交通協議会に参加・ 協議会の開催毎に事務局が作成した網形成計画案に関する意見を学識者から伺い、その内容を反映する	
	
3. 取組みに至る経緯	
<ul style="list-style-type: none">・ 各自治体から先生への打診や運輸支局の紹介等により、先生が有識者として協議会に参加する	
4. 取組みの成果・課題	
<ul style="list-style-type: none">・ 学識者の助言により、具体的で専門的な内容について議論を深め、その内容が網形成計画に反映される	

2.2.2. 研究アプローチ型

授業での路線改善の議論・提案	
1. 実施体制	
自治体名	福岡市
事業者	路線バス事業者
高等教育機関名	九州大学景観研究室
2. 地域公共交通の推進の取り組み内容・特徴	
<ul style="list-style-type: none">九州大学のまちづくり授業の一環として、福岡市西の浦の路線・ダイヤの改善に取り組み、地域住民へ提案した。テーマは「北崎を元気にするためのバスの在り方を考える～北崎を通るバス交通の見直し～」42名の学生が4班に分かれ、事例調査、現地ヒアリング、アンケート調査、検討などを行い、各班内で議論を重ね、バス改善策を提案発表会当日は、北崎地区の住民、西の浦線利用者、バス事業者、自治体30名が集まる中で発表	
	
3. 取組みに至る経緯	
<ul style="list-style-type: none">九州大学景観研究室が福岡市北崎地区のまちづくりに参加していることがきっかけで、まちづくり授業が行われている際の題材にあがった。	
4. 取組みの成果・課題	
<ul style="list-style-type: none">利用者が減少している北崎地区のバス改善策を提案した。提案した内容はその後実現には至っていない。	

バスの利用促進を考える座談会	
1. 実施体制	
自治体名	沖縄県
事業者	バス事業者
高等教育機関名	沖縄県内の高校生
2. 地域公共交通の推進の取り組み内容・特徴	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域住民が自身のバスに関する考えについて意見交換をして、その内容を学生、バス事業者、行政が一緒になりバス利用環境の課題について整理する。 ・ 課題が解決された状態を想定し、現在から課題解決までのシナリオを考える。 ・ ワークショップで出された意見を基に、実際に解決策を考え全参加者の統一した方向性を定める。 	
3. 取組みに至る経緯	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 沖縄に拠点を置く実現型ディスカッション企業「がちゆん」と沖縄タイムス社による教育イベント「夏の政治キャンプ2016」に参加した学生が請願書を沖縄県に提出した。請願書は以下の内容である。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 公共交通利用増加へ向けた割引及び特典に関する請願 ➢ 沖縄全県を運行するバス停・案内に対する利便性の充実に関する請願 ➢ 路線バスのユニバーサルデザイン化に関する請願 ➢ そこで、現在のバス利用における課題を見つけ、バス利用増加へ向けた取り組みについて考える。 	
4. 取組みの成果・課題	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 各組織とバス会社が反発しあうのではなく、「協働」することで新たなサービスや利用促進に繋がるという事実を参加者全体で共有できた。 ・ 各組織(高校 PTA、老人クラブ、商工会議所など)がバス会社に対して出来そうな事、検討できる事を考え、バス会社も出来そうな事、検討できる事を考えた。 ・ 両者意見をすり合わせ、お互いが一致して協働できることを見つけ、今後話しあっていく事とした。 ・ 全体で価値観を定めることにより、バラバラだった方向性を定めることが出来た。設定した価値観は以下の通りである。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ バスの良さをもっとアピールして Win-Win の関係を築く ➢ バスを利用することが社会貢献 	
	
ディスカッションの成果の一部	

2.2.3. 一般プロジェクト型

バストリガー制度											
1. 対象自治体・高等教育機関（大学等）											
自治体名	石巻市										
事業者	路線バス事業者										
高等教育機関名	不参加										
2. 地域公共交通の推進の取り組み内容・特徴											
<ul style="list-style-type: none"> 鮎川線の上限運賃を1,190円から700円に引き下げるバストリガー制度 バストリガー制度とは、バス事業者と利用者が、努力と責任を担い、双方に利点が生じるシステム 予め、沿線の住民等に協力していただく「利用目標ライン」を設定 「利用目標ライン」を下回った場合は、減便や乗継運行への変更等を実施する(トリガーを引く)が、上回った場合は、値下げ料金を維持したまま減便等も実施しない 											
<table border="1" style="margin: auto;"> <tr> <td>営業キロ</td> <td>30.0 キロ</td> </tr> <tr> <td>平日運行</td> <td>約16 往復</td> </tr> <tr> <td>輸送人員</td> <td>約20 万人/年</td> </tr> <tr> <td>乗車密度</td> <td>3.3 人 ※</td> </tr> <tr> <td>最高運賃</td> <td>1,190 円</td> </tr> </table> <p>※特急便の乗車密度は5.3人</p>		営業キロ	30.0 キロ	平日運行	約16 往復	輸送人員	約20 万人/年	乗車密度	3.3 人 ※	最高運賃	1,190 円
営業キロ	30.0 キロ										
平日運行	約16 往復										
輸送人員	約20 万人/年										
乗車密度	3.3 人 ※										
最高運賃	1,190 円										
上限700円のバストリガー制度											
3. 取組みに至る経緯											
<ul style="list-style-type: none"> 幹線軸である鮎川線を沿線の住民や企業等で支える公共交通機関にして、来訪者が予約なしで海岸部の観光名所に行ける「観光路線バス」にするために自治体とバス事業者で協力して社会実験を実施 											
4. 取組みの成果・課題											
<ul style="list-style-type: none"> 開始当初より利用者は少なくなったものの、トリガー制度により一定の利用者数を維持している。 											
上限700円のバストリガー制度											

2.2.4. 学生プロジェクト型

大人の社会見学（バスの試乗体験イベント）	
1. 実施体制	
自治体名	豊後大野市
事業者	コミュニティバス事業者
高等教育機関名	大分大学大井研究室、三重総合高校
2. 地域公共交通の推進の取り組み内容・特徴	
<ul style="list-style-type: none"> 豊後大野市のコミュニティバスの利用促進事業の一環として、学生が高齢者のバス試乗体験を支援する取り組み「大人の社会見学」。 大分大学大井研究室、三重総合高校の学生が企画検討から実施まで主体的に参加 大学側では研究、高校側では授業として取り組まれることで、平成26年より毎年継続して4年間実施。 	
3. 取組みに至る経緯	
<ul style="list-style-type: none"> 豊後大野市では、平成23年3月に豊後大野市地域公共交通連携計画を策定し、路線改正、及び新たなコミュニティバスの運行を計画した。本計画の利用促進の一環として、コミュニティバスの試乗体験イベントを大分大学、三重総合高校とともに実施。 	
4. 取組みの成果・課題	
<ul style="list-style-type: none"> 参加された高齢者と大学生・高校生が活発なコミュニケーションをとり楽しみながら試乗体験イベントに参加して、今後自身でのコミュニティバスの利用につながる。 「大人の社会見学」は4年目を迎えたが、事業として安定的に実施できるようになった半面、話題性や継続性の観点から、改善が必要である。 	
	
コミュニティバスに乗り、高校生によるイベントや買い物をする	

夏休み限定の無料シャトルバスの提案・実現

1. 実施体制

自治体名	熊本県葦北町
事業者	おれんじ鉄道、産交バス
高等教育機関名	熊本高等専門学校八代キャンパス トラフィックデザイン部

2. 地域公共交通の推進の取り組み内容・特徴

- 夏の人気スポットである御立岬海水浴場はたのうら御立岬公園駅から歩いて約 30 分の距離にあり、海水浴場に来る方や熊本高専生にとって不便な立地にあった。
- 熊本工専の Traffic Design 研究会（以下、トラフィックデザイン部）は、たのうら御立岬公園駅から御立岬海水浴場までのシャトルバスを平成 17 年にバス事業者に提案して、その提案内容が実現している。

3. 取組みに至る経緯

平成 17 年 3 月	トラフィックデザイン部が熊本市で開催された「地域の夢大賞」にて無料シャトルバスの提案発表
平成 17 年 5 月	トラフィックデザイン部がおれんじ鉄道へ企画書を提出
平成 17 年 6 月下旬	シャトルバス運行が認可
平成 17 年 7 月	シャトルバス運行開始
平成 17 年 7 月	効果検証のためのアンケート調査実施
平成 17 年 8 月	シャトルバスの運行終了
平成 18 年度以降	バス事業者により現在まで継続して運行

4. 取組みの成果・課題

- 提案されたシャトルバスは、毎年夏休み期間に「たのうら御立岬公園駅」と「御立岬海水浴場」間を運行されている。9 時 45 分から 17 時まで、およそ一時間に一本の運行（1 日/9 本）。

平成29年度 御立岬公園駅～御立岬海水浴場 無料シャトルバス運行時刻表【期間:16.7.15～17.7.22～8.20】

御立岬公園駅		海水浴場		御立岬公園駅	
バス発車時刻	バス到着時刻	バス発車時刻	バス到着時刻	バス発車時刻	バス到着時刻
9:37	9:45	10:31	10:40	15:59	16:08
10:31	10:40	11:44	11:53	17:10	17:19
10:53	11:02	12:44	12:53	18:00	18:09
11:44	11:53	13:38	13:47		
12:44	12:53	14:46	14:55		
13:38	13:47	15:25	15:34		
14:46	14:55	16:20	16:29		
15:25	15:34	17:00	17:09		
15:59	16:08				
17:10	17:19				

●表中には、**土日祝日のみ**運行する快速列車「スーパーおれんじ」となります。
 ●乗車定員に限りがあり、ご乗車にならない場合もございますのでご了承ください。
 ●天候等の関係で、おれんじ鉄道の運行状況に遅延・変更等が生じた場合、シャトルバスの運行時刻も変更が生じる可能性があります。



出典:おれんじ鉄道 HP

出典: 芦北町観光協会

たのうら御立岬公園駅から海水浴場までの夏休み限定の無料シャトルバス

富士市特定バス路線利用促進策

1. 実施体制

自治体名	富士市
高等教育機関名	南山大学総合政策学部石川ゼミ

2. 地域公共交通の推進の取り組み内容・特徴

- ・ 南山大学総合政策学部石川研究室の学生が「無料情報誌班」「利用促進イベント班」「時刻表ポスター絵画コンテスト班」に分かれて市と協働で利用促進の取り組みを実施。
 - 無料情報誌の発行による沿線世帯への情報発信
 - 子供やその家族に地元のバスを身近に感じてもらうため、バス絵画コンテストの実施
 - バスを身近なものに感じてもらうため、お祭りのような利用促進イベントを開催
 - バス沿線の施設別にポスターを制作することによる、施設利用者のバス利用促進

3. 取組みに至る経緯

- ・ 富士市にひまわりバス(右回り、左回り)が走行しており、市内の商業施設や病院等を網羅している。しかし、1便当たりの乗車人数は7.8人と少ない。
- ・ そこで、主な利用者である高齢者や就学前後の子供を持つ女性をターゲットにイベントを実施し、今後の利用促進に繋げるために企画された。

4. 取組みの成果・課題

- ・ 富士市役所と連携し、円滑な事業運営ができた。
- ・ 各事業間(4つの取り組み)の連携を図ることにより、イベントへの来場者を増やすなど、事業全体の成功を導くことができた。
- ・ 事業実施後に行われたアンケートでは、約9割の方が今後ひまわりバスを使おうと思うといった前向きな意見が見られた。
- ・ 今回の事業は一時的なものであると考えられるため、より継続的な効果を発揮するためには今後も継続して同じような取り組みを行う必要があると考えられる。
- ・ モビリティマネジメント (MM) は一時的な取組みであったため、より継続的な効果を期待するには継続して取り組みにする必要がある。
- ・ 石川研究室と富士市役所が主体となり取り組んだMMで、これからより利用促進を図っていくためには、運営主体である富士急静岡バスとの連携が必要となる。



バス絵画コンテスト



バス利用によるおでかけプランの提示

2.3. 支援のタイプ別による効果・期待と課題

事例整理の結果に基づき、支援のタイプ別に効果と課題を洗い出した。

先生による助言型：効果として長期的に専門的なアドバイス等を受けられ、作業時間やコストは小さい。

研究アプローチ型：事業の新たなアイデア等が期待され、授業や研究などで取り組まれば自治体としてのコストはあまりかからない。

一般プロジェクト型：利用促進への一定の効果が得られるものの、学生が主体的に参加することによる効果は期待できない。

学生プロジェクト型：学生が主体的に活躍することで、事業実施の推進力として多くの効果が期待される。一方で、実施体制、作業時間、コストなどの課題が最も大きい。

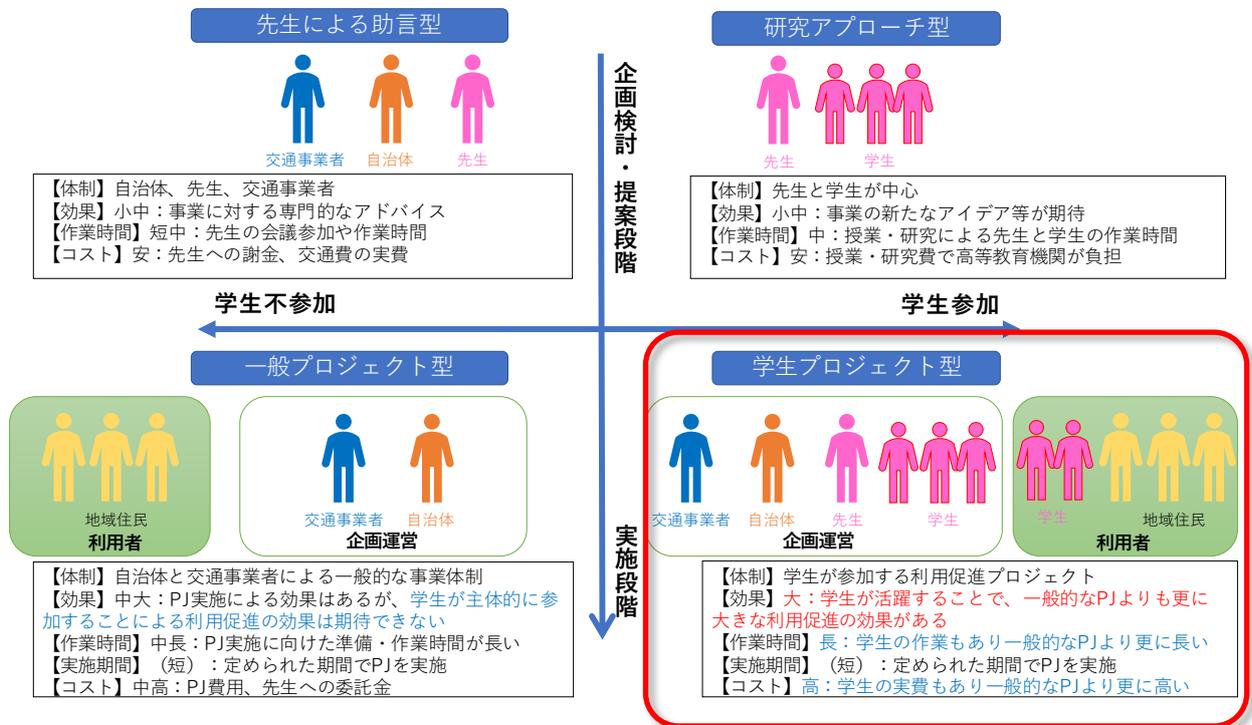


図 2-2 支援のタイプ別効果と課題

本事業では、「学生プロジェクト型」の効果、課題、プロセスの洗い出しを行うために3つの実施フィールドでのプロジェクトを支援した。実施フィールドでの成果や課題をもとに、利用促進の効果を大きく、課題を軽減するためのマニュアルを作成する。このマニュアルは、今後、公共交通の利用促進で困っている自治体が高等教育機関と連携したプロジェクトを開始・推進するためのマニュアルである。

3. 実施主体の募集

3.1. 実施フィールドの選定

学生を主体とした地域公共交通の利用促進の実施主体は、他地域へのプロジェクト展開も見据えて、選定要件（地域バランス、取り組むテーマ、高等教育機関の種類）の異なる実施フィールドを選定した。

実施フィールド	水俣市	行橋市	国東半島
都道府県	・熊本県	・福岡県	・大分県
自治体	・水俣市総務課	・行橋市都市政策課	・大分県観光・地域振興課
取り組むテーマ	・多モード結節点の改善 ・公共交通を活用した市内観光の提案	・バスラッピングデザイン ・バス内装デザイン ・バス停デザイン	・広域観光における公共交通の活用
高等教育機関	・熊本高等専門学校 八代キャンパス	・西日本工業大学（私立大学）	・大分大学（公立大学）
専門性	・建築デザイン学科	・情報デザイン学科 ・建築学科	・経営システム学科（文系）
先生	・橋本准教授、川口助教	・中島教授、梶谷講師	・大井准教授

図 3-1 実施フィールドの選定

3.2. 実施フィールドへのアプローチ

まず九州運輸局から参加自治体の募集を行ったところ、水俣市、行橋市の2自治体が参加することとなった。水俣市と行橋市においては、自治体と高等教育機関によるマッチングが難しいため、まずコンサルタントによる自治体ヒアリングを行い、取り組むテーマの具体化や連携先を検討した。その後、自治体、コンサルタントで高等教育機関に協力依頼をして、プロジェクトを開始した。

大分大学大井ゼミと大分県は、開山1300年を迎える六郷満山や国東半島を対象とした広域観光の協働研究を進めており、本事業の選定要件や豊後大野市での大人の社会見学での実績を踏まえ、本事業への協力要請をして、本事業へ参加することとなった。

上記のようにして、水俣、行橋、国東の3か所の実施フィールドを確保した。

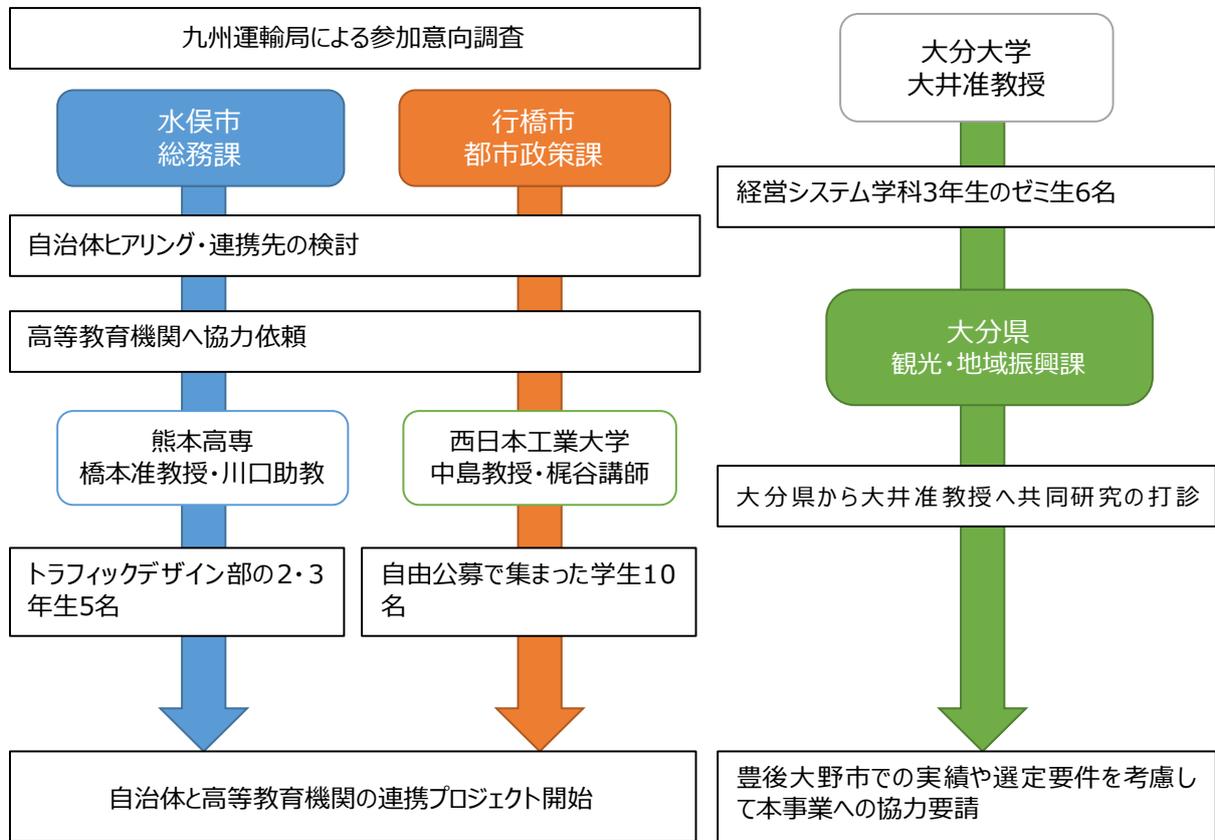


図 3-2 実施フィールドへのアプローチ

4. 地域及び高等教育機関と取組みの計画に対する支援

実施主体の現状を加味しながら、企画や準備等について必要に応じて支援を行うとともにプロジェクトの課題と効果について把握した。

4.1. 実施フィールドの概要

実施フィールドである水俣市、行橋市、国東地域の概要と、各自治体が当初想定していた企画を示す。

表 4-1 3つの実施フィールドのテーマと関係者

実施フィールド	水俣市	行橋市	国東半島
自治体	・水俣市総務課	・行橋市都市政策課	・大分県観光・地域振興課
取り組むテーマ	・多モード結節点の改善 ・公共交通を活用した市内観光の提案	・バスラッピングデザイン ・バス内装デザイン ・バス停デザイン	・広域観光事業における公共交通の活用
高等教育機関	・熊本高専 八代キャンパス	・西日本工業大学（私立大学）	・大分大学（公立大学）
専門性	・建築デザイン学科	・情報デザイン学科 ・建築学科	・経営システム学科（文系）
先生	・橋本准教授、川口助教	・中島教授、梶谷講師	・大井准教授
学生	・トラフィックデザイン部の2年3名、3年2名の計5名	・学部2年4名、3年6名の計10名	・学部3年のゼミ生6名
企画への関与の仕方	・放課後の課外活動	・公募型の授業	・前期と後期のゼミ
事業者	・路線バス事業者 ・コミバス事業者 ・JR ・第三セクター(鉄道)	・路線バス事業者	・広域ライナー事業者 ・乗合タクシー事業者

(1) 水俣市の概況

水俣市は、熊本県の最南端に位置し、面積 163.29km²、人口 25,411 人（平成 27 年国勢調査）の市である。

市内を九州新幹線が通過し、新水俣駅を有する。また第 3 セクター鉄道の肥薩おれんじ鉄道（以下、おれんじ鉄道）が通過し、新水俣駅、水俣駅、袋駅を有する。バスは、市のコミュニティバス「みなくるバス」が 5 路線存在しており、民間バス会社が 2 社「産交バス」「南国交通」存在する。

新水俣駅には、上記の新幹線、おれんじ鉄道、みなくるバス、民間バス事業者 2 社やその他にもタクシー、レンタサイクル、観光協会が結節しており、本プロジェクトでは「多モード結節点の改善」とこれらの「公共交通を活用した市内観光」が取り組むテーマとなった。



図 4-1 水俣市の位置



図 4-2 みなくるバス路線図

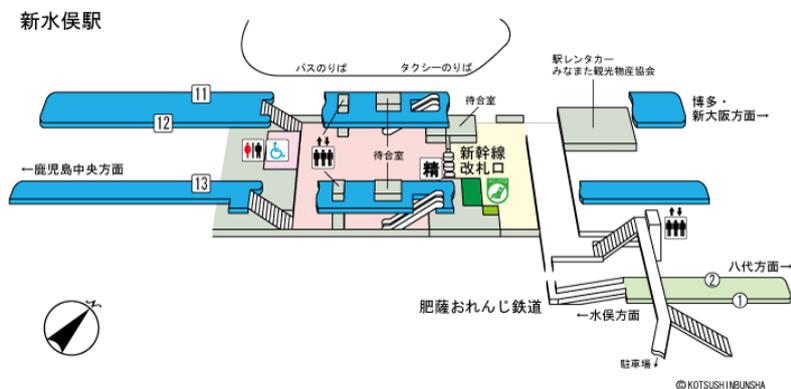


図 4-3 新水俣駅の構内（肥薩おれんじ鉄道・バス・タクシー・レンタサイクルに接続）

(2) 行橋市の概況

行橋市は、福岡県の東部に位置し、面積 70.06km²、人口 70,601 人（平成 27 年国勢調査）の市である。

市内を JR 日豊本線が通過し、行橋駅を有する。市内のバスは、民間バス事業者「太陽交通」が行橋駅から放射状に 10 路線を運行している。かつては「西鉄バス」が市内の路線バスを運行していたが平成 20 年の路線廃止に伴い、市内のタクシーを運行していた太陽交通が「地域の足」を維持するために路線バス事業を開始して、現在まで運行を続けている。

本プロジェクトでは、行橋市が太陽交通を支援するために、市街地の「バス停の改善」「バスラッピングデザイン」が取り組むテーマとなった。



図 4-4 行橋市の位置

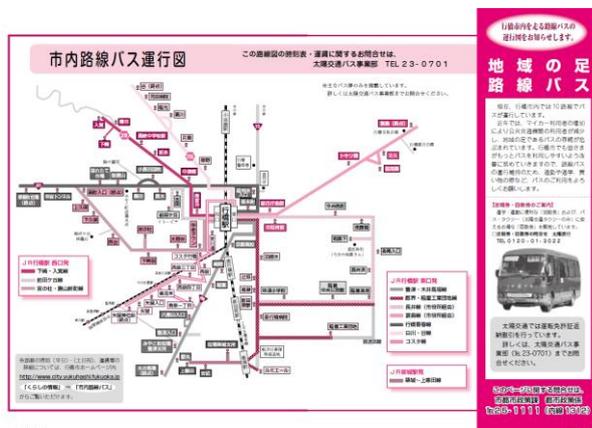


図 4-5 太陽交通の路線図

(3) 国東半島の概況

国東半島は、大分県の北東部に位置し、面積 877.74km²、人口 109,789 人（平成 27 年国勢調査）の豊後高田市、国東市、杵築市、日出町で構成される半島である。

半島の東海岸沿いには大分空港を有し、国内線では東京、大阪、名古屋に、国際線ではソウル（仁川）、台湾に接続している。大分空港からはライナーで大分市、別府市、由布市、中津市、臼杵市、佐伯市等の周辺市町村に接続する。半島の西部には JR 日豊本線が通過し、宇佐駅や杵築駅等が存在する。路線バスは大分交通の国大線を筆頭に、様々な民間路線バスや各自自治体のコミュニティバスが存在する。港は、伊美港（国東市～姫島村）、竹田津港（国東市～周南市）が存在する。

国東半島は、大分空港を有しているにも関わらず、周辺の別府市、由布市へ観光客が素通りしている課題があり、一方で神仏習合の原点となる山岳宗教「六郷満山」が開山 1,300 年の節目を迎えることを踏まえ、本プロジェクトでは「国東半島の観光振興」が取り組むテーマとなった。



図 4-6 国東半島の位置

大分空港									
中津・宇佐 豊後高田	別府駅前	大分駅前	大分駅前	大分 臼杵～バー基地	佐伯・臼杵	湯布院	杵築駅	国東バス ターミナル	
● 安岐町夜場 ● 大田支所前 田辺中村 33分 ● 小浜 ● 佐野 ● 森西口 ● 豊後高田 45分 ● 宇佐八幡 55分 ● 松下電器前 ● 宇佐市役所前 ● 志賀町 65分 ● 勤労青少年ホーム前 ● 佐野 ● 杵築 ● 中津市民病院前 ● JF中津駅前 90分 ● 大員車庫前 103分	● 特急インター 16分 ● 日出 22分 ● 別府港口イナルホテル※1 28分 ● 臼杵市 30分 ● JF臼杵駅前 32分 ● 六津屋 35分 ● 別府観光港 39分 ● 関ヶ原 41分 ● 別府北浜 43分 ● JF別府駅前 45分 ● 生石 50分 ● 大分駅II 55分 ● 杵築駅 58分 ● JF大分駅前 60分	● 空港連絡路 ● 大分自動車道 ● 大分自動車道 ● ノンストップ便	● 杵築バスターミナル 30分 ● 杵築駅 41分	● 国東バスターミナル 28分	● 臼杵IC 81分 ● 佐伯コスモタウン前 106分 ● 大手前 113分 ● JF佐世駅前 118分				

図 4-7 大分空港のエアライナー

表 4-2 3つの実施フィールドの当初想定企画

自治体	自治体の当初想定企画	連携先（高等教育機関）
水俣市 総務課	<p>※九州運輸局へ参画意向調査書提出</p> <p>【高等教育機関との連携により実施したい取り組み】 学生と共に、保育園・幼稚園・小学生を対象とした公共交通利用促進に係る取り組みを行いたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門知識を生かしてもらい、新幹線との接続を行ったバス路線の利用促進の取り組みを行いたい ・導入後に、利用が低迷している乗合タクシー路線の利用促進に取り組みたい（廃止も含めた検討を行っており、その際の代替手段の検討も行いたい） <p>【想定される連携先】 これまで会議への専門家の参加などの実績がないが、この機会に県内大学・高専等とも連携を図っていききたい</p>	<p>【高等教育機関】 ・熊本高等専門学校 八代キャンパス</p> <p>【先生】 橋本准教授、川口助教</p> <p>【専門性】 建築社会デザイン工学科</p> <p>【学生】 先生が顧問を務めているトラフィックデザイン部の学生5名 (3年生2名、2年生3名)</p>
行橋市 都市 政策課	<p>※九州運輸局へ参画意向調査書提出</p> <p>【高等教育機関との連携により実施したい取り組み】 ・学生と共に、誰にでもわかりやすく、街の活性化、バスの利用促進につながるようなバス停のトータルデザイン及び、ラッピングバスのデザインを考えたい。</p> <p>【公共交通における現状や課題】 ・市内を運行する路線バスのバス停が小さくわかりにくい。 ・路線バス事業者がラッピングを希望しているバスが1両ある。 ・現在、駅前通り（行橋停車場線）の拡幅（県事業平成27～33年度）、中心市街地活性化の取り組み（都市再生整備事業 平成27～31年度）、公共交通網形成計画策定事業（平成28～32年度）を実施しているため、それに併せた取り組みを行いたい。</p> <p>【想定される連携先】 西日本工業大学、九州工業大学、北九州市立大学 様々な委員会や会議で有識者として、教授に参画していただいている。</p>	<p>【高等教育機関】 ・西日本工業大学</p> <p>【先生】 中島教授、梶谷講師</p> <p>【専門性】 情報デザイン学科、建築学科</p> <p>【学生】 上記学科の有志10名 (情報デザイン学科2年生4名、3年生5名) (建築学科3年生1名)</p>
大分県 観光・ 地域 振興課	<p>※豊後大野市との連携実績「大人の社会見学」を踏まえて、本実施フィールドに選定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大分県観光・地域振興課は、国東半島の広域観光検討を大井研究室に打診 ・公共交通に関する内容は当初含まれていなかった 	<p>【高等教育機関】 大分大学</p> <p>【先生】 大井准教授</p> <p>【専門性】 交通経済学・交通政策</p> <p>【学生】 経済学部3年のゼミ生6名</p>

4.2. 水俣、行橋、国東での支援の方法と実施体制

プロジェクトの計画に対する支援については、チェック項目を定めて、その項目を満たしているかどうか、実現可能なものになっているかどうかなどを、実施主体と定期的に連絡・調整しながら支援を行った。また企画検討会議や利用促進の実施日には、大学及びコンサルが直接現地に訪問して、その内容の企画支援をするとともに、そのプロセスや成果を記録した。

4.3. 水俣：多モード結節点の改善と公共交通を活用した市内観光の提案

4.3.1. 概要とプログラム

水俣市では、熊本高専八代キャンパスの橋本准教授、川口助教、トラフィックデザイン部の学生とともに「多モード結節点の改善と公共交通を活用した市内観光の提案」を実施した。①新幹線、おれんじ鉄道、路線バス、コミュニティバス、レンタサイクルなど複数の交通モードが結節する新水俣駅の案内表示の改善案の試行（改札前サイン・バス停時刻表）と、②高専生・高校生をターゲットに公共交通を活用したモデル観光の試行とインスタグラムによる情報発信に取り組んだ。

平成30年度は、水俣市で予算を確保して、提案内容を具体化する予定である。

表 4-3 年間プログラムとコンサルタントの参加・支援実施日

日付	取り組み	実施項目	結果	参加支援
6月	九州運輸局への参画意向表明	・参画意向表明の作成	・水俣市が高等教育機関と連携して取り組む当初想定企画を定めた	
7/31	水俣市とコンサルタントの協議	・テーマ設定と連携先の検討	・連携して取り組む課題と企画の具体化した	●
8/10	熊本高専への連携依頼	<ul style="list-style-type: none"> ・企画書案の作成 ・連携依頼 ・今後の進め方について協議 ・学生募集 ・作業時間の確保 ・先生の関わり方 	<ul style="list-style-type: none"> ・企画案を可視化した ・橋本准教授が承諾した ・トラフィックデザイン部から学生を募集する ・課外活動としてプロジェクト実施する ・学生主体のプロジェクトのため、先生は随時助言する関わり方とする 	●
8月下旬	学生募集	<ul style="list-style-type: none"> ・トラフィックデザイン部への呼びかけ ・プロジェクトを課外活動の単位として認定するように先生が調整 	・トラフィックデザイン部の5名の学生が参加した	

9/11	キックオフ会議	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己紹介 ・ 水俣市や公共交通について理解が浅い学生が多いためガイダンス ・ 水俣市の概要と公共交通について ・ 取り組むテーマの説明 ・ 企画アイデアについて自由意見交換 ・ 現地調査の日程調整 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生が自治体や公共交通について理解した ・ 学生と取り組むテーマを共有した ・ 学生のやりたい企画に仕立てる ・ 夏休み期間(9月)に現地調査を実施する 	●
9/26	事前調査	<ul style="list-style-type: none"> ・ 9/29 現地調査に向けての事前調査 		●
9/29	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題の認識を深め、企画案を検討するために現地調査を実施 ・ JR 新水俣駅、産交バス水俣営業所、エコパーク・道の駅みなまた、水俣駅見学 ・ 自治体からバス、JR などの事業者、観光課等関係各社へ現地調査の協力を要請 ・ 現地調査の諸経費はコンサルタントが負担 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題認識が深まり企画案が決定した ・ 企画案を元に学生が企画案を作成する ・ バスの試乗、JR 駅構内の見学できた(大人の積極的な支援) ・ 熊本高専に金銭的負担をかけずに現地調査を実施した 	●
9月	プレスリリースと熊本日日新聞掲載	<ul style="list-style-type: none"> ・ プレスリリース 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 熊本日日新聞に掲載された(マスコミによるプロジェクト周知) 	●
10月上旬	高専生による企画書案の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現地調査結果の振り返り ・ 高専生自身による企画書作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企画書案が作成された 	
10/19	企画会議①	<ul style="list-style-type: none"> ・ 9/29 現地調査振り返り ・ 高専生による企画書案の発表 ・ 企画書案をベースに自治体、コンサルタント、熊本高専で協議 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 提案内容がブラッシュアップされた 	●

12/14	企画会議②	<ul style="list-style-type: none"> ・高専生による企画書案の発表 ・企画書案をベースに自治体、コンサルタント、熊本高専で協議 	<ul style="list-style-type: none"> ・提案内容がブラッシュアップされた 	●
1/20	現地で企画テスト	<ul style="list-style-type: none"> ・改札前サイン・バス総合時刻表の試し貼り ・モデル観光ルートの検証・インスタグラム用の写真撮影 	<ul style="list-style-type: none"> ・提案内容がブラッシュアップされるとともに、実現化に向けたイメージが生まれた ・モニターツアーを実施する 	●
2/25	モニターツアーの実施	<ul style="list-style-type: none"> ・企画チームの友人を誘いモニターツアーを実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで水俣に来ていなかった若い世代が観光に訪問（若い世代の利用促進） ・効果と実現化に向けた課題を確認した 	●
3/29 予定	市長への提言 交通関係者への発表	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの成果を市長や交通関係者へ発表して次年度の実施に繋げる 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの成果と提案内容について高専生より市長・交通関係者に発表 ・次年度も継続して企画を実施・実現化する 	●
平成 30年 度	企画の実施・実現化	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度の進め方について協議（活動内容・体制・スケジュール） 	<ul style="list-style-type: none"> ・企画の実施・実現化する 	

4.3.2. 水俣のプロジェクトのポイント

時期	内容
<p>学生の最終成果</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 多モード結節点である新幹線駅でのおれんじ鉄道、路線バス、コミュニティバス、レンタサイクルへの案内表示が分かりにくい バス会社2社とコミュニティバスの時刻表・路線図がばらばらで分かりにくい <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="507 504 949 833"> </div> <div data-bbox="1002 504 1257 833"> </div> </div> <p style="text-align: center;">各モードへの案内</p> <p style="text-align: center;">バス会社2社とコミュニティバスによる統一されていない案内</p>
	<p>【企画】</p> <ul style="list-style-type: none"> 多モード結節点（新水俣駅）における駅構内サインとバス案内板の作成 公共交通を活用した市内観光案内の提案とインスタグラムによる情報発信 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="462 1064 906 1505"> </div> <div data-bbox="957 1064 1300 1505"> </div> </div> <p style="text-align: center;">各モードへの案内サイン</p> <p style="text-align: center;">バスの総合時刻表</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div data-bbox="462 1601 742 1971"> </div> <div data-bbox="798 1601 1300 1971"> </div> </div> <p style="text-align: center;">インスタグラム「みなくるバス」</p> <p style="text-align: center;">若い世代の市内観光</p>

<p>九州運輸局 に提出した 当初企画 (7月)</p>	<p>【高等教育機関と連携して実施したい取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生と共に、保育園・幼稚園・小学生を対象とした公共交通利用促進に係る取り組みを行いたい ・ 専門知識を生かしてもらい、新幹線との接続を行ったバス路線の利用促進の取り組みを行いたい ・ 導入後に、利用が低迷している乗合タクシー路線の利用促進に取り組みたい（廃止も含めた検討を行っており、その際の代替手段の検討も行いたい）
<p>水俣市とコ ンサルタン トの協議 (7/31)</p>	<p>【テーマ1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新水俣駅での新幹線と接続した路線バス・コミュニティバスのダイヤ検討とその情報提供のあり方 <p>【テーマ2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ バスまたはレンタサイクルを活用した市内観光モデルコースの検討及びモニターツアーの実施 <div data-bbox="903 779 1356 902" style="border: 1px solid orange; border-radius: 15px; padding: 5px; text-align: center;"> <p>Point 協議による取り組み テーマと連携先の具体化</p> </div>
<p>熊本高専へ の連携依頼 (8/10)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ プロジェクト案（目的、概要、体制、スケジュール）をもとに、熊本高専に協力を依頼して、橋本准教授が承諾 ・ 学生の募集方法、プロジェクトの進め方、先生の関わり方について協議。先生は<u>学生主体の取り組みによる学生への影響、地域への影響について適宜コメント</u> ・ <u>橋本准教授が顧問の「トラフィックデザイン部」</u>の学生に呼びかけ、2・3年生5名が参加表明 ・ 「トラフィックデザイン部」では<u>副顧問の川口助教は学生の頃に、たのうら御立岬公園駅からビーチまでの夏休み限定の無料シャトルバスを提案。その提案内容が実現化して現在も運行中</u> <div data-bbox="687 1312 1219 1413" style="border: 1px solid orange; border-radius: 15px; padding: 5px; text-align: center;"> <p>Point 先生による温かい見守り</p> </div>
<p>キックオフ 会議 (9/11)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生とのキックオフ会議では、まず水俣市や公共交通の現況、取り組むテーマについてガイダンス ・ その後、<u>公共交通や企画アイデアについて自由意見交換</u> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 課題：駅前には関係者が多く案内サインが乱立しており、利用者にとって分かりにくい状況 ➢ 企画アイデア：みんなが集まる場所での情報提供、有名人の看板による案内、インスタグラムの活用、路線図・時刻表・運賃を示す張り紙等 <div data-bbox="373 1765 1066 2018"> </div> <div data-bbox="991 1816 1398 1939" style="border: 1px solid orange; border-radius: 15px; padding: 5px; text-align: center;"> <p>Point テーマの共有・学生の やりたい企画に仕立てる</p> </div>

現地調査
(9/29)

【課題】

- ・ おれんじ鉄道、路線バス、コミュニティバス、レンタサイクルの案内表示が駅構内に無い
- ・ レンタサイクルの案内が隠れている
- ・ 自転車市民共同利用システムの表記ではレンタサイクルと分らない
- ・ レンタサイクルの借り方が分らない
- ・ バスの路線図が分かりにくい

【テーマ1】

- ・ 企画案1 場所を決めて案内を出す
- ・ 企画案2 路線情報をまとめた案内
- ・ 企画案3 情報の出し方を考える
- ・ 企画案4 多言語化

Point プロジェクトの周知

【テーマ2】

- ・ 企画アイデア おれんじ鉄道の感謝デー（片道 1,130 円→300 円）を活用
- ・ 企画アイデア インスタグラムによる情報発信



熊本日日新聞への掲載(平成 29 年 9 月 30 日)



みなくるバス



バスの試乗体験



レンタサイクル

企画案や企画アイデアを元に、学生自身が企画書を作成した。

Point 学生自身による企画検討

企画会議
(10/19)

【企画1】

具体案①改札前サイン

- ・ 改札前サイン案が示された。大人では考えつかない問いかけるサインはデザインもかわいく、ピクトグラム等を追加することでブラッシュアップする。

具体案②バス停表示

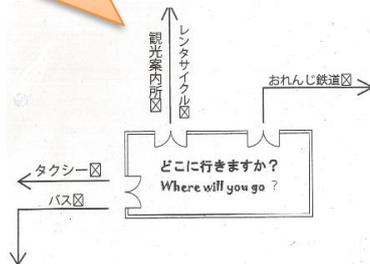
- ・バス停表示作成に当たり、「みなくるバス、産交バス、南国バスを統合した時刻表を作成可能か」高専生より質問があり、市から可能であるという回答があった。今後統合した時刻表を作成する。
- ・上記改札前サイン、バス停表示のデザインに向けて、具体的な寸法を市役所より、サイン作成ガイドラインをコンサルタントより高専生に送付する。

【企画2】

具体案③観光ルート

- ・秘境ツアー、歴史ツアー、フォトスポットツアーなどが提案され、Instagramの公式アカウントを開設可能か市で確認することと、モデルツアーを具体化する。

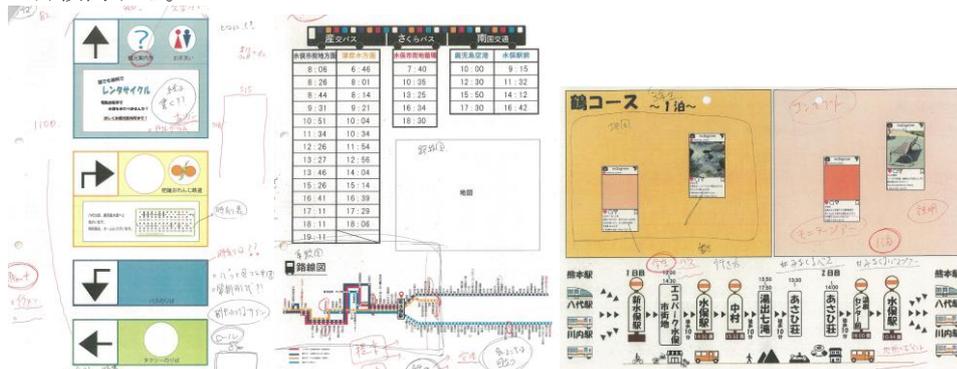
Point 世の中にもない新たなアイデア



改札前の問いかけるサイン Instagramで minamata と検索した結果

企画会議
(12/14)

- ・改札前サインはピクトグラム等の検討により、従来の大人が考えるデザインに近いサイン案になったため、「かわいい、シンプル」で当初案を基本に再検討する。
- ・バス総合時刻表は、路線図、表記方法を修正して、実物大で印刷して調整する。
- ・ターゲットを高専・高校生に絞り、日帰りをメインに学生による水俣の楽しみ方を再検討する。



改札前のサイン バスの総合時刻表 Instagramでの情報発信

Point 企画会議が2か月空いた事による作業の手戻りが発生

現地での企画テスト
(1/20)

【企画1】

- ・改札前サインは新水俣駅に、バス停時刻表は外の既存のバス時刻表において試験貼りをして、改善案を協議した。

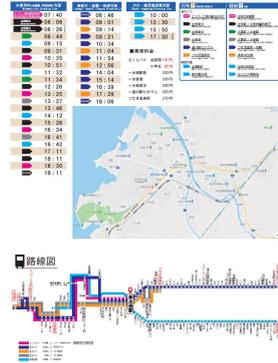
【企画2】

- ・季節により周ることができるコースが異なり、次回おれんじ鉄道の感謝デー（1 乗

車 300 円と運賃が格安) に合わせて鶴コースでモニターツアーを実施することとした。モニターツアー参加者は高専生の友人を誘う。



改札前サイン



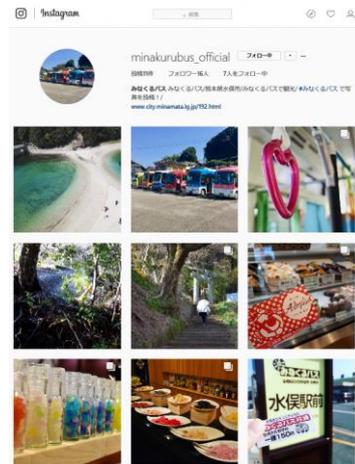
バスの統合路線図、時刻表

モニターツアー(2/25)

【企画2】

- ・ 友人達を誘ってモニターツアーを実施
- ・ オレンジ鉄道感謝デー (豊後肥後駅-水俣駅 片道運賃 1130 円→300 円) やみなくるバス (運賃 150 円)、無料のレンタサイクルを活用することで、交通費を少額で抑えた観光が可能になる
- ・ 交通費を少額に抑えることで、モニターツアー参加者を募集しやすく、学生目線のインスタグラムによる情報発信をより充実させることが可能 (観光コンテンツや公共交通の利用方法等)

Point : 学生がインスタグラムを使い情報発信



モニターツアーの実施 インスタグラム公式アカウント「みなくるバス」



Point : 友人を誘う事による公共交通の利用促進



4.3.3. 九州運輸局への参画意向表明（6月）

水俣市が九州運輸局へ提出した参画意向調査書の当初企画を示す。

表 4-4 水俣市の当初企画

自治体	当初想定企画	想定される連携先
水俣市 総務課	【高等教育機関との連携により実施したい取り組み】 学生と共に、保育園・幼稚園・小学生を対象とした公共交通利用促進に係る取り組みを行いたい。 ・専門知識を生かしてもらい、新幹線との接続を行ったバス路線の利用促進の取り組みを行いたい ・導入後に、利用が低迷している乗合タクシー路線の利用促進に取り組みたい（廃止も含めた検討を行っており、その際の代替手段の検討も行いたい）	これまで会議への専門家の参加などの実績がないが、この機会に県内大学・高専等とも連携を図っていきたい。

4.3.4. 水俣市とコンサルタントの協議（7/31）

水俣市から提出された平成 29 年度運輸局直轄調査への参画意向調査票を元に、取り組むテーマと連携先を具体化するために水俣市とコンサルタントで協議した。

協議の結果、具体的な企画書案を作成して、熊本高専の橋本准教授に連携の相談に伺うこととした。具体的な企画案として、「新幹線と接続したバスのダイヤ検討」「市内観光のモデルコースづくりとモニターツアー」「接続案内の情報提供のあり方（新水俣駅での情報揭示の仕方等）」などのアイデアがあがった。

コンサルタントが簡単な企画書を作成して、8月中に先生に依頼しに行くこととした。

実施期日	平成 29 年 7 月 31 日（月）10:00～11:00
実施場所	水俣市役所
実施状況	<p>・平成 29 年度運輸局直轄調査への参画意向調査票を元に、<u>コンサルタントと水俣市で企画の具体化と今後の進め方について協議</u>した。</p> <p style="text-align: center;">【議事】</p> <p style="text-align: center;">1) 具体的な取組について 2) 今後の進め方</p> <p>1) 具体的な取組について</p> <p>・現在検討している取組みとしては、以下の 3 つ。</p> <p style="margin-left: 20px;">①保育園、幼稚園、小学生を対象とした利用促進の取組み ②新幹線との接続を行ったバス路線の利用促進の取組み ③乗合タクシー（定時定路線）の利用促進（廃止も含めた検討）</p> <p>→①は産交バスと保育園・幼稚園を対象に「バスの乗り方教室」を既に実施しており、また③は今後、デマンド化や減便・タクシー補助等別の運行形態を検討するという、運行水準低減の話であるため、今回は、②を中心に検討を進める。（②については、網形成計画でも言及）。</p> <p>・具体的な企画案としては、<u>新幹線と接続したバスのダイヤ検討以外に、実際にバスを利用して、市内の観光スポット等を巡る企画の検討や、新幹線とレンタサイクル（及びバス）の組合せでのスポット巡りなど、市内観光のモデルコースづくりとモニターツアーを、学生とともに検討したり、接続案内の情報提供のあり方（新水俣駅での情報揭示の仕方等）を検討したりするなど。</u></p> <p>・高等教育機関との連携については、以下の順番で進める。</p> <p style="margin-left: 20px;">A まず、熊本高専の橋本淳也准教授にご相談 B A が難しい場合、熊本大学の溝上教授にご相談 C A・B が難しい場合、九州内の別の先生にご相談</p> <p>2) 今後の進め方</p> <p>・今日の打合せを踏まえて、<u>簡単な企画書を作成、8月中に先生にご相談。</u>（連携する機関を確定）</p> <p>・9月以降、学生と具体的な企画案について検討を進める。</p> <p>・今回のプロジェクトに、産交バス水俣営業所にも参画していただく。</p> <p>【出席者】 水俣市総務課：大川、山田 日本工営：白石、高峯</p>

※記述の仕方について※
プロセスや企画に関する重要な点・良い点
プロセスや企画に関する課題・反省点

4.3.5. 熊本高専への連携依頼（8/10）

水俣市とコンサルタントは、熊本高専八代キャンパス橋本准教授を訪問して、企画書案（プロジェクトの目的、概要、体制、スケジュール）をもとに、企画への協力を依頼して、橋本先生に承諾いただいた。

その後、学生の募集の方法、進め方と作業時間の確保、先生の関わり方等について協議を行い、8月中に先生から学生に呼びかけを行い、夏休み期間（9月）中にキックオフミーティング会議を実施することとした。

実施期日	平成 29 年 8 月 10 日（木） 14:00～15:00
実施場所	熊本高専八代キャンパス
実施状況	<p>・水俣市とコンサルタントは、熊本高専八代キャンパス橋本准教授を訪問して、<u>企画書案をもとに、取組への協力を依頼しに伺った。</u></p> <p>【議事】</p> <p>1) 具体的な取組について</p> <p>2) 今後の進め方</p> <p>1) 具体的な取組について</p> <p>・今回の取組みに対するご協力を、橋本先生からご了承をいただいた。</p> <p>・<u>学生の関わりとして、現時点では、2 年生 3 人程度、3 年生 3 人程度、4 年生 3 人程度の最大 10 人程度の学生が参加の可能性がある</u>とのこと。</p> <p>・プロジェクトチームとして、5 人 1 グループ程度を想定（今回は、参加学生の数により、1 ないし 2 グループでの活動となる想定）。</p> <p>・<u>現時点で考えられる課題としては、活動時間の確保が難しい点が挙げられる。平日は授業、土日は部活をしている学生は他の部活があり、その中で時間を確保していくしかない（平日では、早く終わる日や放課後、土日も部活のない時間などを調整）。</u></p> <p>・現地への旅費等の実費はコンサルタントで負担する。</p> <p>・<u>橋本先生には、今回の取り組みの効果について、地域への影響、学生への影響、こうした活動を行う上での課題などについて、適宜コメント等をいただく。</u></p> <p>2) 今後の進め方</p> <p>・今日の打合せを踏まえて、企画書（特にスケジュール等）を精査する。</p> <p>・9 月中（夏休み中）に、学生とのキックオフミーティングを実施する。（座学による説明のみか、または現地での調査等も含めて実施するかは、参加希望の学生のスケジュールを確認いただいた上で調整する）</p> <p>・10 月以降、1 カ月に 1～2 回程度、学生（及び地元）とのミーティングにより、企画を検討・進めていく。</p> <p>【出席者】 水俣市総務課：山田 熊本高専：橋本准教授 日本工営：白石、高峯</p>

「高等教育機関と連携した地域公共交通の推進」
水俣市における具体的取組み・企画（たたき台）

2017.8/10

■目的

- ①自治体と高等教育機関（大学等）との連携による公共交通の利用促進（事例づくり）
- ②学生を主体とした取組みによる話題性の訴求
- ③地域の巻き込みによる持続的な活動への展開

■概要

- ①新水俣駅での新幹線と接続した路線バス・コミュニティバスのダイヤ検討とその情報提供のあり方
→現状では、新幹線と路線バスの接続はあまり考慮されていない
新幹線とコミュニティバスは接続を図っているが、コミバスの本数が少ない
→接続を考慮したダイヤの検討とともに、その情報提供の検討（新水俣駅での情報提供、ネット等）
- ②バスまたはレンタサイクルを活用した市内観光モデルコースの検討及びモニターツアーの実施
→学生と地元住民の共同による観光モデルコースの検討（ワークショップ等）
→実際に、新幹線から接続したバス（またはレンタサイクル）を活用したモニターツアーの実施など

（確認・質問事項等）

- ・熊本高専（八代キャンパス）だけでご対応いただけるか
- ・広く他の大学・高専を巻き込む可能性はあるか
- ・この分野で協力してもらえる学生はいるか

■体制（案）

水俣市
熊本高専
産交バス(株)水俣営業所
日本工営(株)
九州運輸局

■スケジュール（想定）

- 8～9月：企画内容を固める
10～12月：企画の実施
1～2月：効果検証、意見交換会（実施3自治体・地域）
3月：まとめ

企画書素案

4.3.6. 学生募集（8月下旬）

熊本高専橋本准教授の呼びかけにより、橋本准教授が顧問を務めるトラフィックデザイン部3年生2名、2年生3名の計5名が取り組みに参加することとなった。その内1名は、地元水俣市出身の学生であった。

なお、准教授は本取組みが課外活動の単位として認定されるように調整している。

4.3.7. キックオフ会議 (9/11)

橋本准教授が呼びかけたトラフィックデザイン部の学生とともに、熊本高専、水俣市、コンサルタントでキックオフ会議を行った。

公共交通や自治体に対する学生の理解不足が懸念されたため、まずガイダンスをした後、テーマ1「新水俣駅での新幹線と接続した路線バス・コミュニティバスのダイヤ検討とその情報提供のあり方」について自由意見交換を行った。

自由意見の結果、みんなが集まる場所で情報提供、有名人の看板等による情報提供、Instagramの活用、駅前には関係者が多く案内サインが乱立しているため分かりにくいのが課題、路線図・時刻表・運賃を示す張り紙等のアイデア等の意見があがった。

次回は、夏休み期間(9/29)に現地調査を実施することとした。

実施期日	平成 29 年 9 月 11 日 (月) 11:00~12:30
実施場所	熊本高専八代キャンパス
実施状況	<p>・橋本准教授が呼びかけたトラフィックデザイン部の学生 4 名とともに、熊本高専、水俣市、コンサルタントでキックオフ会議を行った。</p> <p>・<u>公共交通や自治体に対する学生の理解不足が懸念されたため、まずガイダンス</u>を行い、その後テーマ1「新水俣駅での新幹線と接続した路線バス・コミュニティバスのダイヤ検討とその情報提供のあり方」について自由意見交換を行った。</p> <p>【議事】</p> <ol style="list-style-type: none">1) 自己紹介2) 公共交通について3) 水俣市の概要・公共交通4) 具体的な企画の話し合い <p>4) 具体的な企画の話し合い</p> <p>・テーマ1について様々な課題や解決アイデアが挙げられた。</p> <p>・<u>みんなが集まる場所で情報提供、有名人の看板等による情報提供、Instagramの活用、駅前には関係者が多く案内サインが乱立しているため分かりにくいのが課題、路線図・時刻表・運賃を示す張り紙等のアイデア</u>があがった。</p> <p>・次回は、<u>夏休み期間(9/29)に現地調査を行い</u>より詳細な問題点を確認して、企画案につき協議する。</p> <p>【出席者】 水俣市総務課：大川、山田 熊本高専：橋本准教授、川口助教 3年生：小田、大塚 2年生：生魚、市原、(松下欠席) 日本工営：白石、高峯、行徳</p>

■今日のプログラム（ワークショップ的に実施予定） 11:00~12:30 (90分)

①自己紹介 (10分=1人1分×10人)

○参加者（予定）：熊本高专・学生（5名）、水俣市（2名）、日本工営（3名） ※橋本先生、川口先生
○話す内容：名前、学年、出身、出身地の自慢、今の興味・関心事または専攻内容・業務内容

②公共交通について (10分)

- ・乗ったことのある公共交通は？ ・乗ったときの感想や問題と感じたこと
- ・乗ったことがない場合、乗らない理由 など →公共交通の現状と利用促進の必要性

③水俣市の概要・公共交通 (10分) ※水俣市よりご説明

- ・今回のプロジェクトのフィールドである水俣市の概要及び公共交通について

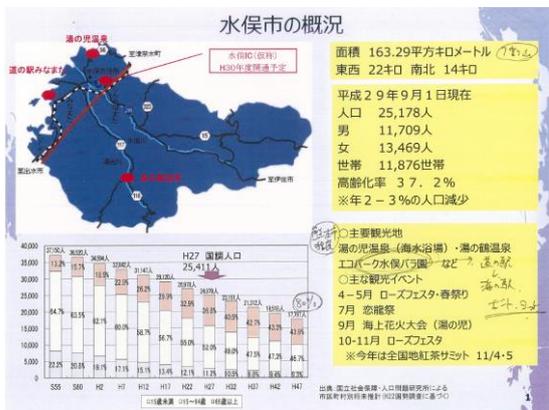
④具体的な企画についての話し合い (60分)

- ・公共交通を利用しやすくする方法は？
- ・どういった対象に対して実施すればよいか？ など

企画アイデア① 新水俣駅での新幹線と接続した路線バス・コミュニティバスのダイヤ検討とその情報提供のあり方

企画アイデア② バスまたはレンタサイクルを活用した市内観光モデルコースの検討及びモニターツアーの実施

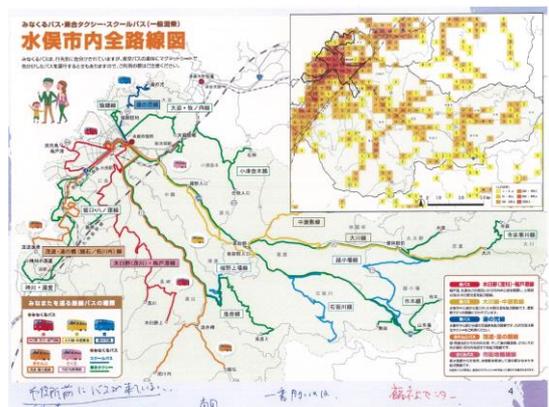
キックオフ会議進行表



水俣市の概況



みなくるバス



みなくるバス路線



キックオフ会議

4.3.8. 現地調査（9/29）

水俣市の公共交通、観光について、現状と課題の認識を深め、企画内容を具体化するために現地調査を実施した。熊本高専に金銭的負担をかけずに現地調査を実施するため、諸経費はコンサルタントが負担して、水俣市からバス会社、JR への協力要請、事業者訪問や駅構内等の見学が可能になった。

現地調査の結果、課題認識が深まり、テーマ1とテーマ2の企画案や企画アイデアが挙げられ、その内容を元に高専生自身で企画書を作成して、次回の打合せすることとした。

実施期日	平成 29 年 9 月 29 日（土）8:00～17:00
実施場所	水俣市
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・水俣市の公共交通、観光について・<u>現状と課題の認識を深め、企画内容を具体化するために現地調査を実施</u>した。 ・<u>熊本高専に金銭的負担をかけずに現地調査を実施するため、諸経費はコンサルタントが負担</u>した。 ・<u>自治体からバス、JR などの事業者、観光課等関係各社へ現地調査の協力を要請して、事業者訪問や駅構内等も見学させてもらった。</u> <p style="text-align: center;">【行程】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) JR 新水俣駅・観光案内所見学 2) 産交バス水俣営業所見学・説明 3) レンタサイクルでのエコパーク・道の駅みなまた観光 4) 水俣駅で昼食 5) 市役所で企画会議 <p>5) 市役所で企画会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>現地調査の結果、課題認識が深まり、テーマ1とテーマ2について下記の企画案が検討された。</u> ・課題： <ul style="list-style-type: none"> ➢ おれんじ鉄道、路線バス、コミュニティバス、レンタサイクルの案内表示が駅構内に無い ➢ レンタサイクルの案内が隠れている ➢ 自転車市民共同利用システムの表記ではレンタサイクルと分からない。環境モデル都市である熊本県水俣市で、環境省の「環境保全型の地域づくりの推進支援事業」として、電動自転車無人コミュニティサイクルシステム F-rents（フレンツ）を利用した自転車市民共同利用システム事業が 2012 年より開始されている。 ➢ レンタサイクルの借り方が分からない ➢ バスの路線図が分かりにくい ・テーマ1「新水俣駅における企画案」 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 企画案1 場所を決めて案内を出す ➢ 企画案2 路線情報をまとめた案内

- 企画案3 情報の出し方を考える
- 企画案4 多言語化
- ・テーマ2「高専、高校生をターゲットにした水俣市内観光、モデルコース案」
- 企画アイデア おれんじ鉄道の感謝デー（片道1,130円→300円）に活用
- 企画アイデア インスタグラムによる情報発信
- ・上記の企画アイデアをもとに高専生自身で企画書を作成して、再度協議する。

【出席者】水俣市総務課：大川、山田
 みなまた観光物産協会：西川事務局長
 産交バス：蓑田所長、齋藤主任
 熊本高専：橋本准教授、川口助教
 3年生：小田
 2年生：生魚、市原、松下
 日本工営：白石、高峯、行徳

日付・時間	予定	備考
9/28(木) -18:33 着	肥薩おれんじ鉄道・水俣駅 18:33 着の便で熊本高専、市役所、日本工営 水俣駅合流 レンタカーと公用車でホテルへ移動 (ニコニコレンタカー<新水俣駅> 0966-63-5888、7人乗り)	■熊本高専（移動方法別途確認済み） 肥後高田 17:38 発→水俣駅 18:33 着他 ■日本工営（白石、行徳） 博多 17:17（新幹線）→新水俣 18:21 着 新水俣駅→水俣駅（レンタカー）
19:00-	スーパーホテル水俣チェックイン ※水俣駅で自転車3台をレンタカーに搬入 夕食：「ブラッスリー・ハル」（11人）	夕食会場まで、中心部を歩いて探索 ※徳富蘇峰蘆花生家近く
9/29(金) 8:00-	朝食@ホテル	
9:09 - 9:21	産交バス 9:09(旭町商店街)→9:21(新水俣駅)	高峯 9:02 新水俣着で合流
9:30 - 10:30	JR 新水俣駅・観光案内所見学 ※新水俣駅で自転車3台を公用車に搬入	新幹線とバスの接続、レンタサイクル、案内サイン等を確認。
10:35 - 11:00	みなくるバス(さくらバス)移動 10:35(新水俣駅)→11:00 回送:水俣営業所	利用状況、バスの運行ルートや車内設備等を確認。
11:00 - 11:30	産交バス水俣営業所見学・説明	
11:45 - 12:15	エコパーク・道の駅みなまた観光	※恋人の聖地なども合わせて見学
12:15 - 13:15	学生チーム：自転車(6台)で水俣駅へ メンバー：熊本高専生徒4名、大川氏、行徳 道の駅みなまた～水俣駅で途中自由に市内見学 (※自転車6台を車2台から搬入)	社会人チーム：レンタカー、公用車で水俣駅へ メンバー：熊本高専先生、水俣市役所 日本工営
13:15 - 14:15	昼食：「水俣屋」（水俣駅内） 水俣駅見学（水戸岡氏デザイン）	
14:15 - 14:30	全員（高専6、市2、工営3、計11人）：レンタカー（7人）、公用車（4人）に分乗して水俣市役所へ ※自転車は水俣駅に残したまま（水俣市で返却処理）	
14:30 - 16:30	企画会議@市役所 副市長ご挨拶（5分） 今日の調査内容のまとめ（45分） 具体的な利要促進企画等の検討（60分） 今後の予定等（10分） ※次回打合せ 10/19（木）16時～18時（想定）	プロジェクター、ネット環境準備 （資料）新幹線とバスの接続状況、さくらバス利用状況、レンタサイクル貸出状況 提案書にまとめて市に提案予定 年度末の交通会議にて発表予定
16:40 - 16:55	レンタカー、公用車で移動 (市役所→新水俣駅)	
17:00	新水俣駅解散	必要に応じて、新水俣駅確認等。 ※17:10 新水俣→18:14 博多（日本工営）

現地調査スケジュール



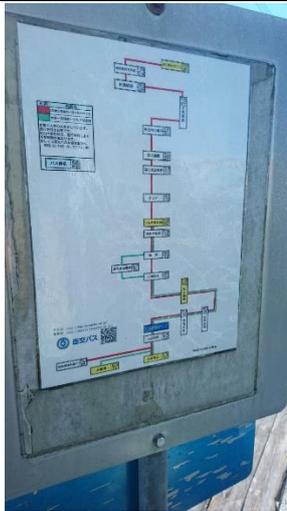
他の看板に隠れているレンタサイクルの看板



多モードが結節する新水俣駅



おれんじ鉄道時刻表



産交バス路線図



みなくるバス路線図



自転車市民共同利用システムという表記が分かりにくい



バスの案内板に気づきにくい



コミュニティバス：みなくるバス運賃 150 円



バスの試乗体験

産交バス水俣営業所



水俣駅



レンタサイクルは無料



恋人の聖地

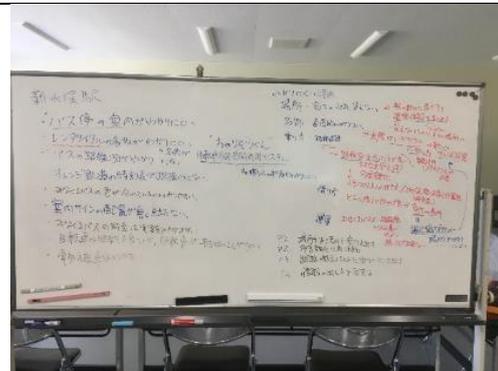
・JR 新水俣駅：交通結節点における課題とプロジェクト案

課題	解決の方向性	プロジェクト案
場所： 案内が見えない	駅の出口に表示 路線情報を 1 箇所にまとめる 見えないものは別の場所へ	PJ1: 場所を決めて案内を出す
名称： 直感的に分からない	レンタサイクルに統一 新しいサイン設置 観光用レンタサイクルが必要	PJ2: 路線情報をまとめた案内
乗り方： 路線情報	路線図を作ったほうが良い (大きな文字、多言語化) 人気スポットへの行き方 (地図、乗換位置図、時刻表)	PJ3: 情報の出し方を考える
レンタサイクル： 借り方	「受付」は観光案内所だが、位置が分かりにくい	PJ4: 多言語化に取り組む
運賃	みなくるバスと一般路線で統一できない	

JR 新水俣駅：交通結節点における課題とプロジェクト案



調査後の企画会議の様子



企画とりまとめ

4.3.9. プレスリリースと熊本日日新聞への掲載（9月）

現地調査2週間前にはプレスリリースをして、平成29年9月30日の熊本日日新聞に掲載された。

九州運輸局「高等教育機関と連携した地域公共交通の推進」事業
熊本高専生が初めての試みとして実践！「バスチャリみなまた～水俣市公共交通 利用促進プロジェクト」(仮)



水俣市と熊本高専の学生のみなさんが連携して、利用が減少している水俣市の公共交通を、学生が主体となって考える「バスチャリみなまた」(仮称)プロジェクトに、初めての試みとして取り組みます！
 ※9/29(金)に事前の企画準備として、水俣市内を視察する予定です。(別紙参照)

実施内容(予定)
 熊本高専建築社会デザイン工学科の橋本淳也准教授、川口彩希助教の指導の下、熊本高専3年生2名、2年生3名計5名の学生とともに、次の内容に取り組みます。

- 目的
 - ①自治体と高等教育機関(大学等)との連携による公共交通の利用促進(事例づくり)
 - ②学生を主体とした取り組みによる話題性の訴求
 - ③地域の巻き込みによる持続的な活動への展開
- 取り組み内容
 - ①新水俣駅での新幹線と接続した路線バス・コミュニティバスのダイヤ検討とその情報提供のあり方
 - ②バスまたはレンタサイクルを活用した市内観光モデルコースの検討及びモニターツアーの実施
- 体制
 - 熊本高専、水俣市、産交バス(株)水俣営業所、日本工営株式会社、その他
- スケジュール(予定)
 - 9～10月：企画立案
 - 10～12月：企画の実施
 - 1～2月：効果検証、意見交換会(実施3自治体・地域)
 - 3月：まとめ

問い合わせ先

○水俣市総務部総務課・0966-61-1607 担当：山田 大悟
 ○日本工営福岡支店・092-475-7569 担当：高峰 高

図 4-8 現地調査前のプレスリリース



図 4-9 熊本日日新聞の記事（平成29年9月30日）

4.3.10.高専生による企画書案の作成 (10月上旬)

現地調査後に、高専生自身による現地調査の振り返りが行われ、その結果に基づき企画書案が作成された。企画案として、①改札前のサイン、②バス停の表示、③観光ルート、④提言書が挙げられた。

実施期日	平成 29 年 10 月初旬
実施場所	熊本高専八代キャンパス
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 高専生自身による現地調査の振り返りが行われ、その結果に基づき企画書案が作成された。 現地調査の整理に基づき、<u>企画案として、①改札前のサイン、②バス停の表示、③観光ルート、④提言書</u>が挙げられた。 <p>【出席者】熊本高専：橋本准教授、川口助教 3 年生：小田、大塚 2 年生：生魚、市原、松下</p>



現地調査の整理 (課題と今後進めるプロジェクト)

テーマ	課題	解決の方向性
改札前サイン	レンタサイクルの案内が分かりにくい	<ul style="list-style-type: none"> ・誰がみても分かる案内 ・分かりやすい場所に設置 ・図を利用した案内 +多言語化
	レンタサイクルの場所が分かりにくい	
	レンタサイクル案内版と旗が被って見えない	
	駅構内案内図にレンタサイクルの場所が書かれていない	
	観光案内場の場所が分かりにくい	
	バス停の位置が分かりにくい	
レンタサイクル	レンタサイクルの借り方が分からない	<ul style="list-style-type: none"> ・借り方を分かりやすくする ・レンタサイクルの利用方法を考える
	「自転車市民共同利用システム」の名前が分かりにくい	
	誰向け?のレンタサイクル	
	自転車がないときがあり不便	
	平日の自転車数、在庫の数	
交通手段と時刻表	新水俣駅の新幹線を降りた横野交通手段がパッと見てわからない	<ul style="list-style-type: none"> ・時間に合わせて交通手段を表示するもの
	新幹線、JR、オレ鉄、バスの繋がり	
	オレンジ鉄道の時刻表はどこにあるのか	
	時刻表をまとめて案内すべき	
	電車・バスの時刻表を近くに	
バス停の表示	路線図が分かりづらい	<ul style="list-style-type: none"> ・路線図の作り変え・時刻表をまとめる・表示方法を考える
	産交バス、南国交通、みなくるバスが混在	
	バス停の路線図の表示方法を検討する	
	新たな路線図をテープで貼る	
みなくるバス	みなくるバスの中身が楽しい	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の調査・路線・時刻表の確認
	みなくるバスは良かった	
	さくらバスかわいい	
	さくらバスかわいいバスはこだわってあって良い	
	私も運転手体験したかった	
	みなくるバスの時刻表がわかりづらい	
	運賃が一律150円は分かりやすい	
	旭町商店街のバス停の路線図が背面にあり分かりづらい	
観光ルート (モデルコース)	観光ルートをいくつか作る	<ul style="list-style-type: none"> ・みなくるバスと自転車を利用 ・観光ルートを考える
	人が集まるツアー	
	みなくるバスを利用した観光ルート	
	それぞれの観光地に繋がりが無い	
	PRの仕方を変えた方が良い	
	QR,インターネットを利用した観光案内	
	バス回数券のあまりでお菓子が変える	
	みなくるバスを利用した観光ルートバスの回数券の利用方法	
	ソフトクリームがおいしい、少し見た目が物足りない	
	観光地が少ない	
	インスタ映えスポットを作る	
	自動運転の車によるエコパークの案内	
	エコパークは広いのに敷地がうまく利用できていない	

整理された課題

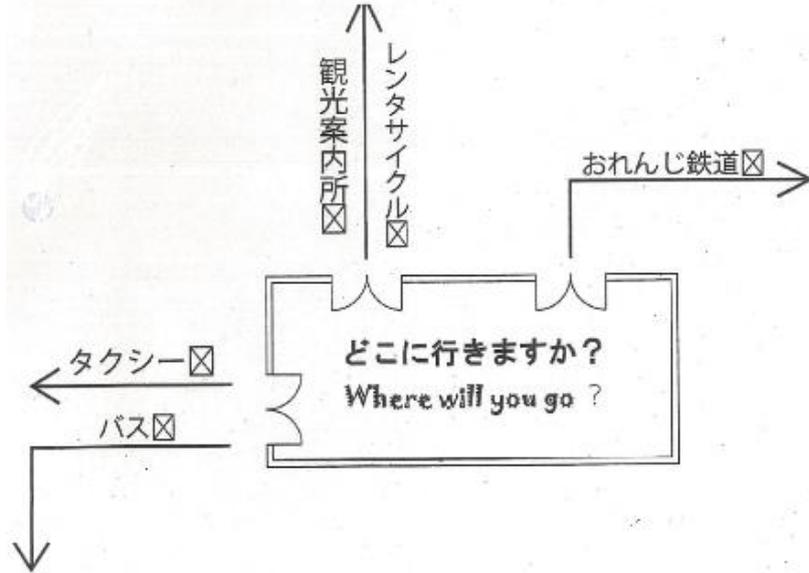
4.3.11.企画会議①（10/19）

高専生自身が作成した企画書案を元に水俣市、熊本高専、コンサルタントで協議した。
企画について、「改札前サイン」「バス停表示」「観光ルート」の具体案が提示された。
改札前サインの問いかけるサインは大人では考えつかないアイデアでデザインもかわいいため、このアイデアを基本に改札前サインを検討することとした。バス停表示は、路線バス2事業者とコミュニティバスの統合路線図・時刻表を作成することとした。観光ルートはインスタグラムの公式アカウントが開設可能か市で確認することと観光ツアーのプランを具体化することとなった。

次回は協議内容を踏まえて、高専生で企画検討を進めてテスト後11月以降に再度協議を行う。

実施期日	平成29年10月19日（木）16:30～18:00
実施場所	熊本高専八代キャンパス 4階会議室
実施状況	<p>・高専生自身が作成した企画書案を元に水俣市、熊本高専、コンサルタントで協議した。</p> <p>【議事】</p> <p>1) 9/30 現地調査の振り返り</p> <p>2) 高専生より企画書案説明</p> <p>3) 今後の進め方</p> <p>1) 9/30 現地調査の振り返り</p> <p>・前述した「高専生による現地調査の整理」について説明がなされた。</p> <p>2) 高専生より企画書案説明</p> <p><u>企画案①改札前サイン</u></p> <p>・改札前サイン案が示された。大人では考えつかない問いかけるサインはデザインもかわいく、ピクトグラム等を追加することでブラッシュアップする。</p> <p><u>企画案②バス停表示</u></p> <p>・バス停表示作成に当たり、「みなくるバス、産交バス、南国バスを統合した時刻表を作成可能か」高専生より質問があり、市から可能であるという回答があった。今後統合した時刻表を作成する。</p> <p>・上記改札前サイン、バス停表示のデザインに向けて、具体的な寸法を市役所より、サイン作成ガイドラインをコンサルタントより高専生に送付する。</p> <p><u>企画案③観光ルート</u></p> <p>・秘境ツアー、歴史ツアー、フォトスポットツアーなどが提案され、インスタグラムの公式アカウントが開設可能か市で確認することと、ツアーを具体化する。</p> <p>3) 今後の進め方</p> <p>・協議内容を踏まえて、高専生で企画検討を進めてテスト後11月以降に再度協議を行う。</p> <p>【出席者】 水俣市：山田</p>

熊本高専：橋本准教授、川口助教
 3年生：小田、大塚
 2年生：生魚、市原、松下
 日本工営：白石、行徳



企画案①改札前サイン 大人では考えつかない問いかけるサイン

②バス停表示

○問題点

- ・バス停の路線図が見にくい
- ・産交バス、南国バス、みなくるバスの時刻表に統一感がない
- ・外国人にわかりづらい

○課題

- ・多言語化(ピストグラム)すべき
- ・時刻表に統一感を持たせる

○解決案、イメージ

- ・時刻表、路線図を作り直す
- ・運賃を入れる

○質問

- ・掲示板の詳細確認(電照の有無、材質、張替え頻度など)
- ・産交、南国、みなくるを一纏の時刻表にしているのか

*デジタル表示の導入も、
新大隈駅のサインが重要。*

*ラミネート加工。
会社別の調整。*

館MEMO

- ・市内方面
 - みなくるバス (さくら)、産交バス、南国バス
- ・津奈木方面
 - 産交バス
- ・大口方面
 - 南国バス
- ・会社別
 - 会社ごとに管理できる
 - 同じ方面なのにバラバラ
- ・方面別
 - 同じ方面がまとまる
 - 会社共同で管理できるか

バス停表示は路線バス・コミュニティバスを統合した路線図・時刻表の提案



企画会議の様子

4.3.12.企画会議②（12/14）

熊本高専より、企画の進捗状況について説明がなされ、その内容について協議した。

改札前サインは、ピクトグラム等の検討により、従来の大人が考えるデザインに近いサイン案になったため、「かわいい、シンプル」な当初案を基本に再検討する。（2か月間企画会議が空いた事による情報共有不足）バス総合時刻表は、路線図、表記方法を修正して、実物大で印刷してデザインを調整する。

高専生、高校生をターゲットにした水俣市内観光は、ターゲットを高専生、高校生に絞り、日帰りをメインに学生による水俣の楽しみ方を再検討することとなった。情報発信は従来の紙媒体ではなくInstagramを活用する。

今後の進め方として、企画が具体化してきたため、1月中旬に現地で企画を試行することとした。

実施期日	平成 29 年 12 月 14 日（木）16:30～18:20
実施場所	熊本高専八代キャンパス 4 階会議室
実施状況	<p>・熊本高専より、企画の進捗状況について説明がなされ、その内容について協議した。</p> <p>【議事】</p> <p>1) 前回までの振り返り</p> <p>2) 高専生、高校生をターゲットにした水俣市内観光、モデルコース案</p> <p>3) 新水俣駅における総合案内</p> <p>4) 今後の進め方</p> <p>2) 高専生、高校生をターゲットにした水俣市内観光、モデルコース案</p> <p>・<u>ターゲットを高専生、高校生に絞り、日帰りをメインに学生による水俣の楽しみ方を再検討する。</u></p> <p>・自分たちの金銭感覚的に沿ったプランを検討する。</p> <p>・情報発信は、<u>従来の紙媒体ではなくInstagramを活用する。</u>公式アカウント作成やハッシュタグ「#みなくるバス」、「#みなくるバスツアー」の浸透。高専生、高校生が観光する際に撮影して、位置情報も含めた写真をアップする。</p> <p>3) 新水俣駅における総合案内</p> <p>・<u>改札前サインはピクトグラム等の検討により、従来の大人が考えるデザインに近いサイン案になったため、「かわいい、シンプル」で当初案を基本に再検討する。</u>問いかけるサインは従来の大人が作るサインと異なり面白い。</p> <p>・<u>バス総合時刻表は、路線図、表記方法を修正して、実物大で印刷して調整する。</u></p> <p>4) 今後の進め方</p> <p>・<u>企画が具体化してきたため、1月中旬に現地で企画を試行する（案内板試作設置、モデルツアーの方法検討、Instagram用の写真撮</u></p>

影など)。

- ・おれんじ鉄道感謝デーにモデルツアーを実施する (2/25or 4/1)

【出席者】水俣市：大川、山田

熊本高専：橋本准教授

3年生：小田、大塚

2年生：生魚、市原、松下

日本工営：白石、行徳

具体案①改札前サイン

産交バス	さくらバス	南国交通
水俣市街地方面	津奈木方面	水俣市街地循環
8:06	6:46	7:40
8:26	8:01	10:35
8:44	8:14	12:30
9:31	9:21	15:50
10:51	10:04	17:30
11:34	10:34	18:42
12:26	11:54	
13:27	12:56	
13:46	14:04	
15:26	15:14	
16:41	16:39	
17:11	17:29	
18:11	18:06	
19:11		

鹿兒島空港 水俣駅前

10:00 9:15
12:30 11:32
15:50 14:12
17:30 16:42

路線図

具体案②バス停時刻表

鶴コース ~1泊~

具体案③モデルコースとInstagramによる情報発信イメージ

具体案③モデルコースとInstagramによる情報発信イメージ



企画会議の様子：高専生自身による具体案の説明

4.3.13.現地での企画テスト（1/20）

これまで検討を進めてきた下記2つの企画につき、企画がある程度具体化され提案内容のブラッシュアップを図るために現地でテストした。

企画1：高専生、高校生を対象にした水俣市内観光、モデルコースの作成とインスタグラムによる観光情報発信

企画2：新水俣駅における改札前サイン・バス停時刻表の作成

企画1について、季節により周ることができるコースが異なり、次回おれんじ鉄道の感謝デー（1乗車300円と運賃が格安）に合わせて鶴コースでモニターツアーを実施することとした。モニターツアー参加者は今回企画に参加している高専生の友人を誘う。

企画2について、改札前サインは新水俣駅に、バス停時刻表は外の既存のバス時刻表において試験貼りをして、改善案を協議した。

実施期日	平成30年1月20日（土）16:30～18:00
実施場所	水俣市
実施状況	<p>・これまで検討を進めてきた下記2つの企画につき、課題を把握し、改善点を検討するために現地で企画を試行した。</p> <p>企画1：高専生、高校生を対象にした水俣市内観光、モデルコースの作成とインスタグラムによる観光情報発信</p> <p>企画2：新水俣駅における改札前サイン・バス停時刻表の作成</p> <p>【調査行程】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 改札前サイン・バス停時刻表の試験貼り 2) 鶴コース（湯の鶴温泉）と亀コース（湯の児温泉）に分かれて市内モデル観光、インスタグラム用の写真撮影 3) 調査とりまとめ・企画会議 <p>3) 調査とりまとめ・企画会議</p> <p>企画2：改札前サイン・バス停時刻表の試験貼り</p> <p>・改札前サインは新水俣駅に、バス停時刻表は外の既存のバス時刻表において試験貼りをして、改善案を協議した。</p> <p>・バス停時刻表は、更新時は1枚全部印刷して更新する方向性にする事とした。</p> <p>企画1：高専生、高校生を対象にした水俣市内観光、モデルコースの作成とインスタグラムによる観光情報発信</p> <p>・季節により周ることが出来るコースが異なる。冬は鶴コース（湯の鶴温泉）、夏は亀コース（湯の児温泉）や湯出七滝、春・秋はエコパークの恋人岬夕日とバラ園。</p> <p>・鶴コースであれば、2/25のおれんじ鉄道の感謝デー（1乗車300円と運賃が格安）にモニターツアーを実施可能。高専生の友人を誘い10人程度を想定。</p> <p>・インスタグラムで公式アカウント「minakurubus_official」を開設したので、公共交通を活用した市内観光情報（インスタ映えするスポット、</p>

市内観光のコース、みなくるバス、レンタサイクルなどをアップしていく。

今後の進め方

- ・2/25 モニターツアー実施（高専生 10 名程度）
- ・3 月上旬に公共交通会議などで発表

【出席者】水俣市：山田
 熊本高専：橋本准教授、川口助教
 3 年生：小田、大塚
 2 年生：生魚、市原、松下
 日本工営：白石、行徳

日付・時間	行程	備考
1/20(土) ・10:15 着	熊本高専組 肥薩おれんじ鉄道 10:06 着便 日本工営・運輸局 10:12 着便	■肥後高田 9:10 発→新水俣 10:06 着 ■博多 9:07 発→新水俣 10:12 着
10:15・10:45	改札前サイン、バス停時刻表の試験貼り ・印象、デザイン、サイズの協議 ・仮設置の方法検討	熊本専が印刷物持参 日本工営からも当初案を持参
10:45 - 16:15	市内モデル観光	
10:45・11:30 11:50・12:24 12:30・13:20 13:30・14:20 14:20・15:20 15:20・15:50 15:50・16:10	鶴コース： 山田、川口、3 年 1 名 2 年 2 名、高峯（6 名） 市街地探索（スイーツ探索） みなくるバス@水俣駅→湯 の鶴(¥150) 鶴の屋 昼ご飯 (¥1,600) ～徒歩 10 分移動～ ほたる橋など温泉街散策 あさひ荘 (温泉¥300) 湯出七滝を車で一部確認 水俣市役所に帰宅 ～車移動 20 分～	亀コース： 大川、3 年生 1 名、2 年生 1 名、内田、行 徳（5 名） ～車移動 15 分～ ナポレオンで昼食(¥1,500) みなくるバス@図書館前→ 湯の児公園前駅(¥150) 白梅湯（温泉¥400） 湯之児公園・湯の児島公園など観光 ～車移動 10 分～ スペイン村福田農場 水俣市役所に帰宅 ～車移動 15 分～
16:15・17:25	調査とりまとめ・企画会議@市役所 (1 時間 5 分で予定、詳細な行程は後述)	①調査の振り返り ②インスタによる情報発信と観光モデル コースの検討 ④公共交通会議での発表
・17:50 着	熊本高専組 肥薩おれんじ鉄道 17:52 発便 日本工営・運輸局 18:02 発便	■新水俣 17:52 発→肥後高田 18:51 着 ■新水俣 18:02 発→博多 18:05 着
企画会議前にインスタ登録、「#みなくるバス」で 1 枚写真を投稿。公式アカウント「みなくるバス」作成。		

調査行程

時間	内容	担当者	備考
0:05	調査振り返りと本日の議題【5分】	NK	・本日の議題と来年度までの予定について確認
1:05	観光モデルコースの検討とインスタを活用した観光情報発信【50分】	NK	・インスタ活用のポイント、事例紹介（5分）
		全員	・インスタ公式アカウント「みなくるバス」の確認 ・インスタ公式アカウント「みなくるバス」によるシェア ・インスタ活用について協議（15分）
		全員	・これまで回った場所も含めてモデル観光コースを検討 ・オレンジ鉄道感謝デーに実施方法を検討 ・観光に外せない場所のピックアップ！（40分）
1:10	今後のスケジュール【10分】	全員	・公共交通会議の提言書発表 ・予定、発表時間、構成、資料準備について ・発表会前の打合せ日程調整
	企画会議振り返りシート【5分】		・企画会議振り返りシートの記入
1:10			

企画会議のスケジュール

公式アカウントからのコンテンツアップロード方法は大きく①公式アカウントによる投稿、②一般ユーザーの投稿(UGC: User Generated Contents)の活用、の2通りある。

公式アカウントだけだとコンテンツを充実までに時間がかかるため、一般ユーザーが「#みなくるバス」で投稿した写真などをシェア(Repost)する。現在(H30.1.18 時点)で「#みなくるバス」での投稿は7件しかないため、リポスト収集用のハッシュタグを「#みなくるバス」とする。

UGC活用の注意点を以下に示す。

- 元の投稿者がわかるようにする(@ユーザー名)
- キャプションに感謝のコメントも入れる（但し、あまり長くなりすぎないように）
- リポストであることを示すハッシュタグを入れる「#repost」、「#regram」



#Repost, @ユーザー名の活用（下呂市のインスタグラム）

資料：インスタグラムのコンテンツ充実に向けて



改札前サイン

案内図

無料で自転車
借れます!!
You can rent a bike
for free.

 トイレ
TOILET
 レンタサイクル
BICYCLE
 観光案内所
Information

 おれんじ鉄道
TRAIN


 タクシー
TAXI


 バス
BUS


どこに行きますか？
Where will you go?

 **現在地**
改札
Wicket

改札前サインデザイン案

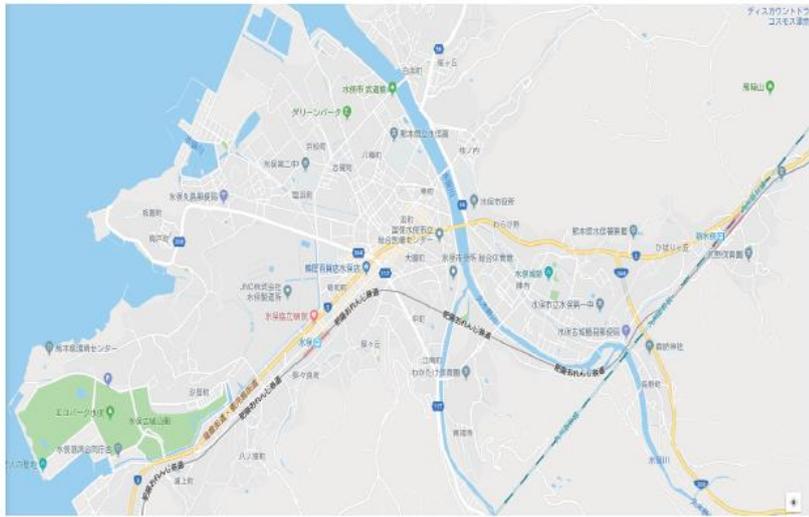


バス停時刻表

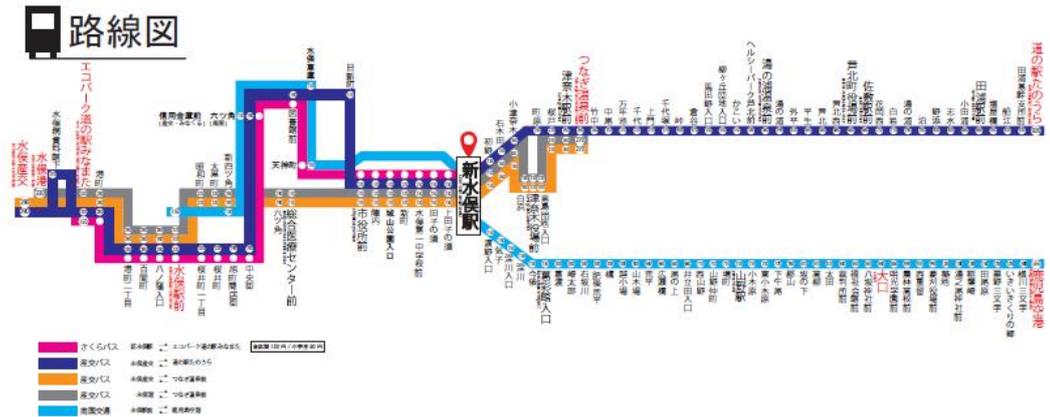
水俣市内(水俣駅・市役所前)方面 Minamata city Direction Line	津奈木・佐敷・田浦方面 Tsunagi · Saiki · Tanoura Direction Line	大口・鹿野島空港方面 Ouchi · Kagoshima Direction Line	行先 destination	経由 via
エコーパーク道の駅みなまき Eco park Minamata Station 07:40	平日のみ 06:46	10:00	基交バス エコーパーク道の駅みなまき Eco park Minamata Station	水俣市役所前 Minamata-shi jukyo mae
水俣産交 Minamata-sancho 08:06	08:01	12:30	水俣産交 Minamata-sancho	水俣駅・水俣高資料館下 Minamata-station / Minamata-shi Museum
水俣産交 Minamata-sancho 08:26	08:14	15:50	水俣産交 Minamata-sancho	大黒町・水俣駅 Daikokucho / Minamata-station
08:44	09:21	17:30	水俣産交 Minamata-sancho	大黒町・水俣駅 Daikokucho / Minamata-station
09:15	10:34		道の駅たのうら Michi no Eki Tanoura	つなぎ温泉・佐敷 Tsunagi Onsen / Saiki
09:31	11:04		つなぎ温泉前 Tsunagi Onsen mae	水俣市役所前 Minamata-shi jukyo mae
10:35	11:54		水俣駅前 Minamata-station	大口バス産交前 Ouchi bus-sancho mae
10:51	12:56		鹿野島空港 Kagoshima Airport	
11:32	14:04			
11:34	15:14			
12:26	16:39			
13:25	17:29			
13:27	平日のみ 18:06			
13:46				
14:12				
15:26				
16:34				
16:41				
16:42				
17:11				
18:11				
18:30				
平日のみ 19:11				

■乗車料金

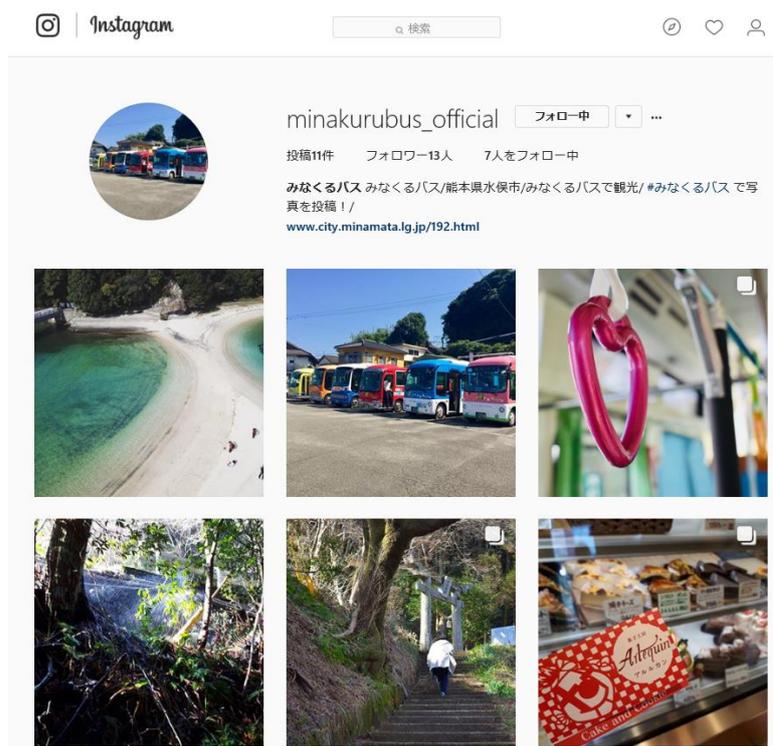
さくらバス 全区間 150円
小学生 80円
～水俣駅前 220円
～水俣産交 330円
～水俣産交 290円
～道の駅たのうら 920円
つなぎ温泉前 270円



路線図



バス停時刻表デザイン案



Instagramの公式アカウント「minakurubus_official」



鶴コースでのInstagram用の写真撮影



亀コースでのInstagram用の写真撮影



企画会議の様子

4.3.14.モニターツアーの実施（2/25）

これまで検討を進めてきた企画「高専生、高校生を対象にした水俣市内観光、モデルコースの作成とInstagramによる観光情報発信」について、オレンジ鉄道感謝デー(2月25日(日曜日))に合わせて湯の鶴コースでモニターツアーを実施した。参加者はトラフィックデザイン部の友人4名で、Instagram用の写真撮影（公式アカウント「みなくるバスオフィシャル」で使用）、モニターツアーの感想を伺い、今後の企画検討材料とする。

今回は休日に高専生が水俣に来て観光するものとし、基本情報（バスの時刻表やレンタサイクルの使い方等）のみを伝えて、自主的にコースを周りながら楽しんでもらうこととした。当日はあいにくの雨であったため、レンタサイクルは使えずみなくるバスのみの移動となり市街地探索、恋人の聖地等は訪問できなかった。

公共交通の利用やオレンジ鉄道感謝デーにより交通費が少ないため、観光のコンテンツやInstagramによる情報発信を充実させる事で公共交通を活用した市内観光を実施可能であると考えられる。

実施期日	平成30年2月25日（金）10:00～16:30
実施場所	水俣市街地、湯の鶴温泉
実施状況	<ul style="list-style-type: none">これまで検討を進めてきた企画「高専生、高校生を対象にした水俣市内観光、モデルコースの作成とInstagramによる観光情報発信」について、オレンジ鉄道感謝デー(2月25日(日))に合わせて湯の鶴コースでモニターツアーを実施した。<u>参加者はトラフィックデザイン部の友人達</u>（3年の内女子2名、4年生男子2名の計4名）で、Instagram用の写真撮影（公式アカウント「みなくるバスオフィシャル」で使用予定）、モニターツアーの感想を伺い、今後の企画検討材料とした。今回は休日に高専生が水俣に来て観光するもので、基本情報（バスの時刻表やレンタサイクルの使い方等）のみを伝えて、自主的にコースを周りながら楽しんでもらうものとした（楽しむ事が可能か確認する）。当日はあいにくの雨であったため、レンタサイクルは使えずみなくるバスのみの移動となり市街地探索等はできなかった。 <p>【議事】</p> <ol style="list-style-type: none">モニターツアーの感想とInstagramでの情報発信今後の進め方 <p>1) モニターツアーの感想とInstagramでの情報発信</p> <ul style="list-style-type: none">モニターツアー参加者にアンケートを取り、5人中4名がやや満足、1名がどちらとも言えないという感想であった。良かった点として、<u>交通費が少ない事（おれんじ鉄道が安い、レンタサイクルが無料）</u>温泉、諸国屋本舗での昼食等があがった。悪かった点として、雨が降っていた事、行程の移動時間が多く楽しむ時間が少なかったことがあがった。<u>Instagramでの情報発信として、美味しい食べ物やスイーツ、温泉、</u>

温泉街の風景をPRするのが良いとの意見があがった。

2) 今後の進め方

- ・3月中にこれまでの成果をまとめて、市長への提言と交通関係者を集めた会議を行う。

【出席者】水俣市：山田

熊本高専：橋本准教授、川口助教

3年生：小田

モニターツアー参加者：田中、田辺、津田、清水

日本工営：高峯、行徳



肥後高田 - 水俣駅間
片道 1260円 → 300円に!!

2018. 2/25 水俣市 オレ鉄感謝デーは水俣へ
インスタ映える
水俣・湯の鶴温泉フォトツアー

友達同士で
インスタ映える旅

車がなくても
公共交通で
楽しめる旅

この旅は..

水俣市と熊本高専八代キャンパストラフィックデザイン部が、水俣の公共交通を盛り上げるために企画する、水俣市街地と湯の鶴温泉を巡る旅です。水俣には新幹線、オレンジ鉄道、みなくるバス、民間路線バス、レンタサイクルと多くの公共交通機関があり、車がなくても友達同士で旅を楽しめます!!

インスタアップで水俣スイーツプレゼント

インスタ映える写真10枚をみなくるバスをつけてアップした方に水俣スイーツをプレゼント。水俣の観光や公共交通を発信する公式アカウント「minakurubus_official」もフォローしてね。

トラフィックデザイン部の取り組み

水俣市内観光の他に、JR新水俣駅の結節点改善プロジェクトも進めています。様々な公共交通が交わる新水俣駅のサインを改善することで、来訪者が公共交通を利用しやすい環境づくりを進めています。

旅の詳細とお問い合わせ

定員：10名
スケジュール等：裏面のMAPに記載

費用：交通費・温泉費計1,200円 ← オレンジ鉄道（往復600円）、温泉（300円）
+ みなくるバス（往復300円）、レンタサイクル（無料）
+ 昼食・スイーツ・お土産代等（800円〜）
※各自精算払い

参加希望：水俣市総務課、熊本高専トラフィックデザイン部のメンバーにお知らせ下さい
お問い合わせ：水俣市総務課 山田：TEL 0966-61-1607, Mail: yamada-d@city.minamata.lg.jp
熊本高専トラフィックデザイン部 顧問 橋本先生・川口先生
建築学科3年生 小田・大塚 2年生 生魚・松下・市原

主催：水俣市総務課、熊本高専八代キャンパストラフィックデザイン部

モニターツアー特典
みなくるバス回数券
プレゼント



水俣・湯の鶴温泉フォトツアーのスケジュール・MAP

1 新水俣駅
 八代駅へ 9:10 発 10:06 着
 川内駅へ 7:59 発 9:48 着

2 市街地散策
 エコパーク 10:00 11:40
 湯の鶴 12:24 着
 水俣駅 1:50 発

3 恋人の聖地
 湯の鶴散策 13:40 14:20
 湯の鶴温泉 14:30 15:30
 水俣駅 16:00 発
 湯の鶴温泉 16:42 発
 川内駅へ 17:10 発
 八代駅へ 17:48 発

※バスは15分おきに運行しています。所要時間は目安です。バスは水俣駅前、湯の鶴温泉、川内駅、八代駅で乗降します。

水俣市街地

みながくるバス
 水俣駅前、湯の鶴温泉、川内駅、八代駅で乗降します。所要時間は目安です。バスは水俣駅前、湯の鶴温泉、川内駅、八代駅で乗降します。

湯の鶴温泉
 湯の鶴温泉は、水俣市街地から徒歩で約10分。湯の鶴温泉は、水俣市街地から徒歩で約10分。湯の鶴温泉は、水俣市街地から徒歩で約10分。

恋人の聖地
 エコパークからレンタサイクルです。レンタサイクルは、水俣市街地から徒歩で約10分。レンタサイクルは、水俣市街地から徒歩で約10分。

みながくるバス (ごくらバス)
 水俣駅前、湯の鶴温泉、川内駅、八代駅で乗降します。所要時間は目安です。バスは水俣駅前、湯の鶴温泉、川内駅、八代駅で乗降します。

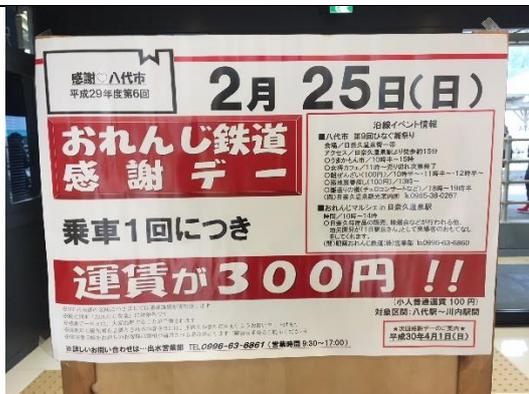
神楽のカーニバル
 水俣市街地から徒歩で約10分。神楽のカーニバルは、水俣市街地から徒歩で約10分。神楽のカーニバルは、水俣市街地から徒歩で約10分。

レンタサイクル
 エコパークからレンタサイクルです。レンタサイクルは、水俣市街地から徒歩で約10分。レンタサイクルは、水俣市街地から徒歩で約10分。

モニターツアー募集フライヤー

日付・時間	行程	備考
2/25(日) ・10:15 着	肥薩おれんじ鉄道 10:06 着便 (¥300) 日本工営 9:42 着便	■肥後高田 9:10 発→新水俣 10:06 着 ■博多 8:38 発→新水俣 9:42 着
10:06 - 16:20	水俣・湯の鶴温泉フォトツアー 趣旨説明・観光案内所訪問 (10分)	パンフレット・みなくるバス時刻表・レンタサイクル登録等
10:35・10:52 11:00・11:45	さくらバスチーム： みなくるバス@新水俣駅→ 百間町 (¥150) 市街地探索 (鬼塚日昭堂の スイーツ等) 徒歩で「水俣駅」へ移動	10:25・10:45 10:50・11:45
11:50・12:24 12:30・13:30 13:30・14:40 14:45・15:45 16:00・16:34	みなくるバス@水俣駅→湯の鶴(¥150) 昼ご飯 (選択肢は右3種類) ～徒歩10分移動～ ほたる橋など温泉街散策 あさひ荘で温泉 (¥300) みなくるバス@温泉センター前→水俣駅 (¥150)	・かしわぎ 日替わり定食 (¥800) ・諸国屋本舗 週替わり定食 (¥1,080) ・鶴の屋 ハーフブッフェ (¥1,650)
16:34・17:30	水俣駅からエコパークへレンタサイクル移動 ・道の駅みなまたでお土産購入(※～17:00) ・エコパークの竹林園 ・恋人の聖地で夕焼け	※水俣駅にレンタサイクルが足りない場合は車移動。エコパークは、季節によってバラ園を楽しめる(5月上旬～下旬、10月上旬～11月下旬)
17:30・17:48	モニターツアー振り返り・インスタ用の写真確認	インスタのアップロードは帰りの電車で行う。
17:48 発	肥薩おれんじ鉄道 17:48 発便 (¥300) 日本工営 17:48 発便	■水俣 17:48 発→肥後高田 18:51 着

行程



おれんじ鉄道感謝デー 運賃が300円に



おれんじ鉄道



観光案内所でパンフレットを入手



無料のレンタサイクル



さくらバスでの移動



湯の鶴温泉前バス停



昼食 諸国屋本舗



昼食後のデザート



水俣のスイーツ：日照堂



日照堂のスイーツ



温泉街の探索



モニターツアー参加者

4.3.15.市長への提言、交通関係者への発表（3/29）

3/29 にこれまでの成果と提案内容を水俣市長と交通関係者へ発表して、平成 30 年度の企画の実施・実現化に繋げる予定である。

実施期日	平成 30 年 3 月 29 日（木） 10:30～11:00
実施場所	水俣市役所
実施状況	<p>・これまでの成果と提案内容を水俣市長と交通関係者へ発表して、平成 30 年度の企画の実施・実現化に繋げる予定である。</p> <p>【議事】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 出席者紹介 2) 平成 29 年度取組実績の報告 3) 提言書の提出 4) 意見交換 <p>【出席者】 水俣市長：</p> <p>水俣市総務課：緒方、大川、山田 みなまた観光物産協会：西川事務局長 産交バス水俣営業所：山田所長 熊本高専：橋本准教授、川口助教 3 年生：小田、大塚 2 年生：生魚、市原、松下 日本工営：高峯、行徳</p>

九州運輸局「高等教育機関と連携した地域公共交通の推進」事業
**公共交通活性化のための水俣市・熊本高専連携事業
 取組報告と活性化策の市長提言書の提出について**

水俣市と熊本高専が連携して取り組んだ公共交通活性化のための取組内容の報告、今後の活性化のための方策の提案を、熊本高専生が市長に行います。

日 時：平成 30 年 3 月 29 日（木） 午前 10 時 30 分から
 場 所：市長会議室（第一会議室）
 報告者：熊本高専八代キャンパス 建築社会デザイン工学
 3 年生 2 名 2 年生 3 名
 （橋本准教授、川口彩希助教）
 内 容：今年度の取組内容の報告と高専生が考えた公共交通活性化のための
 方策の提案を市長に行います。
 備 考：九州運輸局の調査事業としては終了しますが、来年度以降も引き続
 き高専生が考えた活性化策などをもとに連携事業を実施していく予
 定です。

今年度の実施内容
 熊本高専建築社会デザイン工学科の橋本准教授、川口彩希助教の指導の下、熊
 本高専 3 年生 2 名、2 年生 3 名計 5 名の学生とともに、次の内容に取り組みました。

■取組内容
 ①新水俣駅での新幹線と接続した路線バス・コミュニティバスのダイヤ検討とその
 情報提供のあり方
 ②バスまたはレンタサイクルを活用した市内観光モデルコースの検討及びモニタ
 ーツアーの実施

■体制
 熊本高専、水俣市、産交バス（株）水俣営業所、日本工営株式会社、その他

■実施日程
 9 月 11 日 キックオフミーティング
 9 月 29 日 現地調査（新水俣駅・市街地・産交バス水俣営業所他）
 企画会議（観光協会・産交バス等も交えて検討会議）
 10 月 19 日 企画会議（現地調査の整理・企画案の検討）
 12 月 14 日 企画会議（制作物等の進捗状況の報告・意見交換）
 企画案の検討・モニターツアーの検討
 1 月 20 日 現地確認（制作物等の現地確認・企画案の検討・
 モニターツアーの日程調整等）
 2 月 25 日 モニターツアーの実施

問い合わせ先
 ○水俣市総務部総務課・0966-61-1607 担当：山田 大悟

マスコミへのプレスリリース

4.3.16.インスタグラムでの観光情報・公共交通の情報発信

(1) インスタグラム活用の目的

水俣市の市内観光振興、みなくるバスなどの公共交通の利用促進のために、公式アカウントは「minakurubus_official」でインスタグラムを活用した観光情報発信を開始している。インスタグラムを活用する理由は、以下の通りである。

- 特に若い世代の観光における情報収集・発信においてインスタグラム（SNS）の重要性が高まっている。（10-30代の若い世代、外国人観光客なども）
- 高専生自身が水俣の良い場所、風景を撮影し、観光情報を発信することで、口コミ的に情報発信する。
- 公式アカウントが一方向的に情報発信するのではなく、今回のツアーでの写真活用や他の観光客や水俣市民が発信した情報をシェアすることが可能。

(2) 公式アカウント「みなくるバス」

1月20日（土）の企画試行において作成した「minakurubus_official」のアカウントは以下の通りである。今後、公式アカウントからのアップロードからだけでなく、今回のようなモニターツアー、他の方がアップロードした情報のシェア等で、より情報を充実させる。

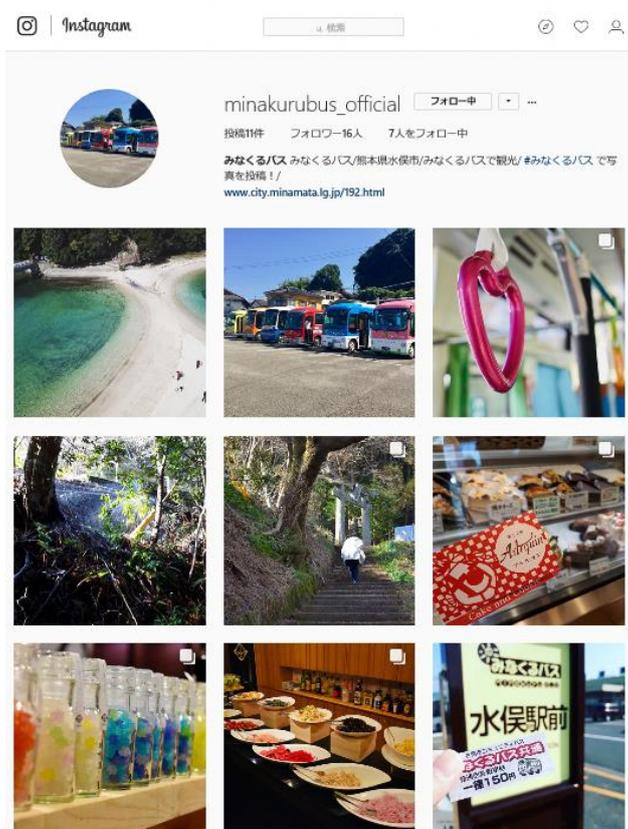


図 4-10 公式アカウント「みなくるバスオフィシャル」

(3) コンテンツの充実に向けて

公式アカウントからのコンテンツアップロード方法は大きく①公式アカウントによる投稿、②一般ユーザーの投稿(UGC: User Generated Contents)の活用、③写真を撮影・投稿するイベント・ツアーの開催(水俣ではモニターツアー実施)の3通りある。

②一般ユーザーの投稿(UGC: User Generated Contents)の活用について、公式アカウントだけだとコンテンツを充実させるまでに時間がかかるため、一般ユーザーが「#みなくるバス」で投稿した写真などをシェア(Repost)する。リポスト収集用のハッシュタグを「#みなくるバス」とする。

UGC活用の注意点を以下に示す。

- 元の投稿者がわかるようにする(@ユーザー名)
- キャプションに感謝のコメントも入れる(但し、あまり長くなりすぎないように)
- リポストであることを示すハッシュタグを入れる「#repost」、「#regram」



図 4-11 #Repost, @ユーザー名の活用(下呂市のInstagram)

4.4. 行橋：バスラッピング、バス内装、バス停のデザイン

4.4.1. 概要とプログラム

行橋市では、「バス、バス車両のデザイン検討」を、西日本工業大学情報デザイン学科、建築学科と連携して進めた。当初行橋市が想定していた企画は、①バス停と②バス車両のラッピングデザイン検討であったが、現地調査や企画会議を通して、西日本工業大学より、③バスの内装デザインも追加された。作業段階では、3 チームに分かれて作業を進めて、模型試作、発表を繰り返しながら、提案のを図り、3 月下旬の行橋市地域公共交通活性化協議会にてその提案内容を公共交通関係者に向けて発表する予定である。

平成 30 年度、行橋市は福岡県の補助事業を申請して予算の確保を進めており、バスラッピング、バス内装、バス停のデザインを実現化に向けて進めている。

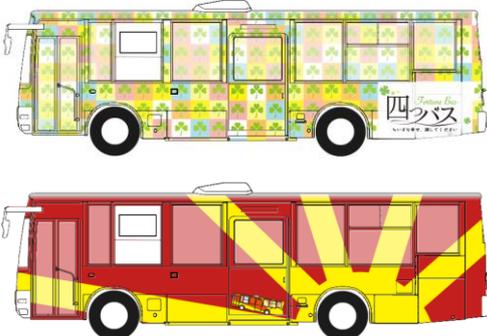
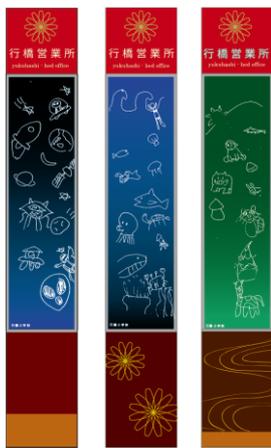
表 4-5 年間プログラムとコンサルタントの参加・支援実施日

日付	取り組み	実施項目	結果	参加支援
6 月	九州運輸局への参画意向表明	・ 参画意向表明の作成	・ 行橋市が高等教育機関と連携して取り組む当初想定企画を定めた	
7/21	行橋市とコンサルタントの協議	・ テーマ設定と連携先の具 体化	・ 連携して取り組む課題と企画の具 体化した	●
8/4	西日本工業大学への連携依頼	・ 連携依頼	・ 河野教授より中島教授の紹介を受 けた ・ 企画フライヤーを作成する	●
9/19	西日本工業大学への連携依頼	・ 連携依頼 ・ 今後の進め方について協 議 ・ 学生募集 ・ 作業時間の確保	・ 中島教授が承諾した ・ 学部 2、3 年生から学生を募集する ・ 課外活動としてプロジェクトを実 施する	●
9 月 下旬	学生募集	・ 企画フライヤーで学生を 公募	・ 情報デザイン学科、建築デザイン学 科計 10 名の学生が参加した	
10/4	授業①キックオフ会議	・ 自己紹介 ・ 水俣市や公共交通について 説明 ・ 取り組むテーマの説明 ・ バス車両、バス停のデザイ ン事例の紹介 ・ 企画アイデアについて自 由意見交換	・ 学生が自治体や公共交通について 理解した ・ 学生と取り組むテーマを共有した ・ 学生のやりたい企画に仕立てる ・ 休日(10/28)に現地調査を実施する	●

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 現地調査の日程調整 	
10/19	授業②現地調査準備	<ul style="list-style-type: none"> ・ バスやバス停について自由意見交換 ・ 現地調査の内容調整 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生のやりたい企画に仕立てる
10/28	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題の認識を深め、企画案を検討するために現地調査を実施 ・ 行橋市から太陽交通へ現地調査の協力要請 ・ 太陽交通本社訪問 ・ まちなかのバス停調査 ・ 調査内容の振り返り ・ 企画アイデアについて協議 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題認識が深まり自治体の当初企画に疑問も浮上 ・ 新たな企画アイデアの浮上 ・ 太陽交通が現地調査のために貸切バスを手配してくださり、本場でバス事業について説明した（大人達による積極的な支援）
11/2	授業③課題整理と企画協議	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現地調査の振り返り ・ 網形成計画の説明 ・ 西工大の活動紹介(にじのはしプロジェクト、小倉ハロウィン) ・ 企画アイデアについて協議 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大人によるテーマ設定の協議が長引いた（学生の主体性を疎外した懸念）。
11/9	授業④企画検討	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企画アイデアについて自由意見交換 	<ul style="list-style-type: none"> ・ テーマ設定が3つに定まった
11/16	授業⑤企画検討	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3チームに分かれて学生による企画書の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生自身で企画書案を作成した
11/30	授業⑥模型試作	<ul style="list-style-type: none"> ・ バス停、バス車輻、バス内装の模型作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企画書案を元に3チームに分かれて提案を具体化した
12/7	授業⑦模型試作	<ul style="list-style-type: none"> ・ バス停、バス車輻、バス内装の模型作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3チームに分かれて提案を具体化した
12/14	太陽交通への中間プレゼン	<ul style="list-style-type: none"> ・ 西工大による太陽交通への中間プレゼン 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 太陽交通から企画実現に向けた講評を受けた
12/21	授業⑧ブラッシュアップ	<ul style="list-style-type: none"> ・ デザイン改善のための課題整理 ・ 平成30年度の実施に向けた協議 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予算確保の時期と企画検討の時期について課題が浮上

1/11	授業⑨ブラッシュアップ	・バス停、バス車両、バス内装の提案	・企画内容をブラッシュアップした	●
1/18	授業⑩ブラッシュアップ	・バス停、バス車両、バス内装の提案	・企画内容をブラッシュアップした	
1/30	授業⑪ブラッシュアップ	・企画案の最終化	・企画内容の最終化に向けた作業をした。 ・	
2/1	授業⑫ブラッシュアップ	・提案最終化	・企画内容の最終化に向けた作業をした。 ・授業は終了したが、3月の交通協議会まで企画内容を個別に最終化する	●
2月 3月	西工大による継続的な作業	・継続的な企画内容の最終化	・企画内容を最終化して、プレゼン資料も準備した。	
3/19	協議会での成果発表	・行橋市地域公共交通活性化協議会での成果発表	・これまでの成果と提案内容について大学生より交通協議会で発表した ・平成30年度も継続して企画を実施・実現化する	●
3/20	毎日新聞・読売新聞・朝日新聞への掲載		・プロジェクトの周知	
平成30年度	企画の実施・実現化	・進め方について協議(活動内容・体制・スケジュール) ・行橋市での予算の確保	・企画を実施・実現化する	

4.4.2. 行橋のプロジェクトのポイント

時期	内容
学生の最 終成果	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> バス停、バス路線が分かりづらい 商業施設等に案内板が無い 太陽交通（バス会社）としての認知度が低い <p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> 太陽交通が人間的な温かみのある企業
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">分かりづらいバス停</p>
	<p>【企画】</p> <ul style="list-style-type: none"> あたりバスによる認知度の向上（バスラッピング） 快適すぎる内部空間の創出（バス内装） 地域住民とバス停を作るイベントの創出
	<div style="text-align: center;">  <p>バスラッピングデザイン</p> </div>
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>バス内装デザイン</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>バス停のデザイン</p> </div> </div>

九州運輸局 【高等教育機関と連携して実施したい取り組み】

に提出した
当初企画
(5月)

- ・ 学生と共に、誰にでもわかりやすく、街の活性化、バスの利用促進につながるような **バス停のトータルデザイン** 及び、 **ラッピングバスのデザイン** を考えた

【公共交通における現状や課題】

- ・ 市内を運行する路線バスのバス停が小さくわかりにくい。
- ・ 路線バス事業者がラッピングを希望しているバスが1両ある。
- ・ 現在、駅前通り（行橋停車場線）の拡幅（県事業平成27～33年度）、中心市街地活性化の取り組み（都市再生整備事業 平成27～31年度）、公共交通網形成計画事業（平成28～32年度）を実施しているため、それに併せた取り組みを行いたい。

【想定される連携先】

- ・ 西日本工業大学、九州工業大学、北九州市立大学
- ・ 様々な委員会や会議で有識者として、教授に参画していただいている

行橋市とコ
ンサルタン
トの協議
(7/21)

- ・ 行橋市とコンサルタントで 取り組むテーマと連携先について協議
- ・ 協議内容を元に コンサルタントがフライヤーを作成



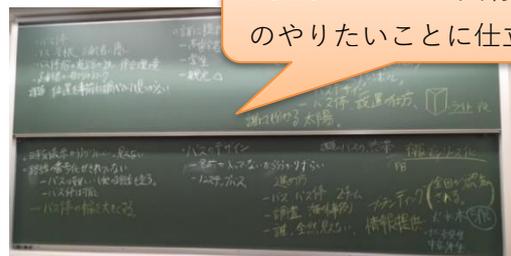
Point プロジェクト案を可視化

西日本工業
大学への連
携 依 頼
(8/4)

- ・ 連携先の西日本工業大学へ協力依頼、中島教授の承諾
- ・ 中島教授が学部2、3年生に参加を募集して、10名の学生が参加表明
- ・ 参加理由は 「プロジェクトが面白そうだと感じた」「単位が出るから」 等

授業①キッ
クオフ会議
(10/4)

- ・ 学生とのキックオフ会議で、行橋市の概要、公共交通の現状、当初企画、デザイン事例についてガイダンス
- ・ その後、企画内容や公共交通について 学生と自由意見交換



Point：テーマの共有・学生のやりたいことに仕立てる

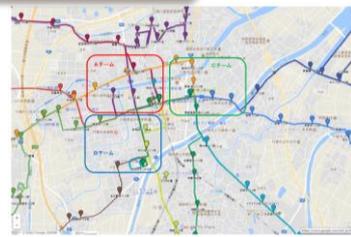
ガイダンスの様子

自由意見交換

- ・ 現地調査は、太陽交通の訪問、3チームでの市街地のバス停調査、取りまとめと今後の進め方について協議
- ・ 太陽交通が調査のために貸切バスを手配してくださり、リクルートの話もされていた。
- ・ ラッピングを想定している車両が既にシックで良い雰囲気であったため、ラッピングデザインの必要性について疑問が浮上
- ・ バス車内に広告が無いことが分かり、西工大からバス内装デザインの可能性が提案

Point：交通事業者の積極的な協力

Point：課題の整理



太陽交通本社訪問

3チームに分かれてのバス停調査



調査後の振り返り

ラッピングの想定車両

バス車内には広告が無い

企画検討

- ・ 大学側はバスラッピングデザインの企画の必要性に疑問があるが、行橋市は次年度予算として計上予定で実施したかったため、大人達（自治体・先生・コンサルタント）によるテーマ設定の協議が長引いた。（学生の主体性を疎外した懸念）
- ・ 中島教授、梶谷講師による他のプロジェクト紹介、行橋市による公共交通網計画の紹介などによる企画検討材料の提示
- ・ その後学生自身による企画検討を始め、「住民とのバス停づくりによる思いづくり」のアイデアが浮上。学生から世の中になかった新しいアイデアが生まれて企画として採用

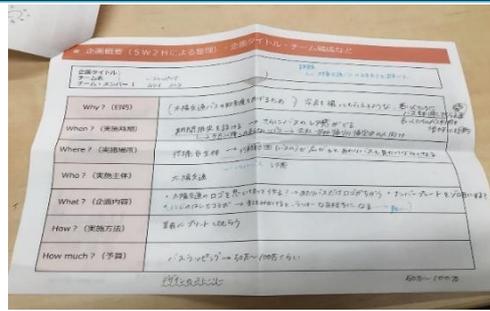


大人達（先生、自治体、コンサルタント）によるテーマ設定の協議・
企画検討材料の提示

Point：大人達が話しすぎない



学生自身による企画検討



企画検討シート (タイトル・5W2H等)

模型試作
(11/30-12/7)

- ・ 検討した提案内容を3チームに分かれて、自由に意見交換しながら具体化
- ・ 作業・発表・講評のサイクルを早くまわしながら提案内容のブラッシュアップ (クイック&ダーティーというデザイン手法)



バス停チーム



バスラッピングチーム



バス内装チーム



提案のブラッシュアップ (クイック&ダーティー)

太陽交通へ
の中間プレゼン
(12/14)

- ・ 中間プレゼンを実施して、太陽交通、行橋市からの講評を受けた
- ・ 太陽交通から「面白い試みになりそうである」という意見があがり、「ラッピングデザインは太陽案と四つ葉案の2案とも面白い」「木材の使用について、つり革は強度の問題、床面は耐久性の問題等で使用に課題あり」という実現化に向けた課題もあがった



先生によるプロジェクトの概要説明



学生による各チームの提案説明



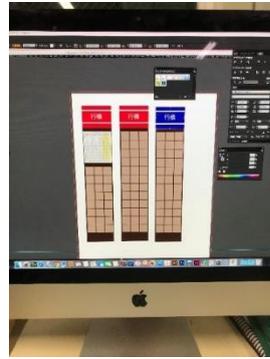
学生による各チームの提案説明



バス会社・行橋市による講評

Point : 企画の実現に向けて交通事業者も応援

- 中間プレゼン後は、パソコン作業によるデザインの具体化
- 授業終了後の春休み期間も、LINE グループで学生から先生へ提案が送られ、提案内容をブラッシュアップしながら 3/19 の行橋市地域公共交通活性化協議会に向けて最終化



PC 作業によるデザインの具体化 LINE による学生と先生の継続的なやりとり

Point : 学生自身によるプロジェクト推進

4.4.3. 九州運輸局への参画意向表明（6月）

行橋市が九州運輸局へ提出した参画意向調査書の当初企画を示す。

表 4-6 水俣市の当初企画

自治体	当初想定企画	想定される連携先
行橋市 都市 政策課	<p>【高等教育機関との連携により実施したい取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none">・学生と共に、誰にでもわかりやすく、街の活性化、バスの利用促進につながるようなバス停のトータルデザイン及び、ラッピングバスのデザインを考えたい。 <p>【公共交通における現状や課題】</p> <ul style="list-style-type: none">・市内を運行する路線バスのバス停が小さくわかりにくい。・路線バス事業者がラッピングを希望しているバスが1両ある。・現在、駅前通り（行橋停車場線）の拡幅（県事業平成27～33年度）、中心市街地活性化の取り組み（都市再生整備事業 平成27～31年度）、公共交通網形成計画策定事業（平成28～32年度）を実施しているため、それに併せた取り組みを行いたい。	西日本工業大学、九州工業大学、北九州市立大学 様々な委員会や会議で有識者として、教授に参画していただいている。

4.4.4. 行橋市との協議（7/21）

参画意向調査書を元に、行橋市とコンサルタントで取り組むテーマと連携先について協議した。

実施期日	平成 29 年 7 月 21 日（金） 13:30～14:30
実施場所	行橋市役所
実施状況	<p>・平成 29 年度運輸局直轄調査への参画意向調査書を元に、<u>行橋市とコンサルタントで取り組むテーマと連携先について協議した。</u></p> <p style="text-align: center;">【議事】</p> <p style="padding-left: 2em;">1) 具体的な取組について 2) 今後の進め方</p> <p>1) 具体的な取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内を運行する路線バスのバス停が小さく分かりにくいいため、バス停のデザインを大学（学生）にお願いしたいと考えている。対象のバス停は、中心市街地活性化の取組みと合わせて、中心部の 10 のバス停を想定している。（来年度にバス停デザイン・製作の予算を確保） ・路線バス事業者（太陽交通）がラッピングを希望している車両が 1 台あり、このデザインを学生に検討してほしい。（予算的担保は今のところなし） ・7/28 に地域公共交通協議会が開催され、副会長の河野雅也先生（西日本工業大学）とお話する機会があるので、その時に行橋市から相談して、取組みの方向性を確認する。（西工大だけで対応できるのか、広く他の大学を巻き込む可能性はあるか、この分野で協力してもらえる学生はいるか、等） <p>2) 今後の進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バス停のデザイン、バスのラッピングデザインを A プランとして優先させ、地元高校生の参画については+α の B プランとして検討する。 <p>【出席者】 行橋市：末松 日本工営：白石、高峯</p>

※記述の仕方について※
プロセスや企画に関する重要な点・良い点
プロセスや企画に関する課題・反省点

4.4.5. 西日本工業大学への連携依頼（8/4）

西日本工業大学中島教授を訪問して、行橋市が連携プロジェクトとして検討している内容を相談して、中島教授を紹介してもらった。

実施期日	平成 29 年 8 月 4 日（金） 9:00～10:00
実施場所	西日本工業大学 小倉キャンパス
実施状況	<ul style="list-style-type: none">・行橋市から提出された平成 29 年度運輸局直轄調査への参画意向調査票を元に、コンサルタントと行橋市で企画の具体化と今後の進め方について協議した。 <p>【議事】</p> <ol style="list-style-type: none">1) 具体的な取組について2) 今後の進め方 <p>1) 具体的な取組について</p> <ul style="list-style-type: none">・バス停のデザインについては、情報デザイン学科の後期のデザイン実習の中で検討していくことが考えられる。・バス車両のラッピングデザインについては、幅広く行橋市民の方に参加してもらおうとともに、活動が継続的になるように、サークル活動の部の1つである「まちづくり支援グループ 3R（部）」でプロジェクトを立ち上げる方向で調整する。・大学側でも予算が必要（デザインのカラープリント代や行橋市への学生の旅費等）なため、日本工営の方で対応する。 <p>2) 今後の進め方</p> <ul style="list-style-type: none">・8/21 中をメドに、学生への今回のデザイン・プロジェクトの呼びかけチラシを NK が作成し、河野教授をはじめ、関係者に送付する。・バス停のデザインは、後期の実習の中で4週間程度（10月中くらい）での完成を見込む。・バス車両のラッピングデザインは、10月～月1回程度、大学でのミーティングを行い、内容を詰めながら、11、12月～地域でのワークショップ等を行って、デザインを検討していくというスケジュールで現段階は進める予定。 <p>【出席者】 行橋市：本多、末松、永見 西日本工業大学：河野教授 日本工営：白石、高峯</p>

4.4.6. 西日本工業大学との協議(9/19)

西日本工業大学河野教授より紹介を受けた中島教授に、プロジェクトへの参加学生募集フライヤーについて説明した後、企画内容と今後の進め方について協議した。その結果、学部2、3年生から学生を募集して、課外活動としてプロジェクトを実施することとした。

実施期日	平成 29 年 9 月 19 日 (火) 10:00~10:45
実施場所	西日本工業大学 小倉キャンパス
実施状況	<p>・西日本工業大学河野教授より紹介を受けた中島教授に、<u>プロジェクトへの参加学生募集フライヤー</u>について説明した後、企画内容と今後の進め方について協議した。</p> <p>【議事】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 具体的な取組みについて 2) 今後の進め方 <p>1) 具体的な取組について</p> <p>・本企画を進めるにあたり、生徒の募集方法と企画の位置づけにつき、下記の内容が協議された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1～3年生に公募する。3年生はスキルが高く、1年生からはユニークなアイデアが期待される。 ・デザイン奨学生などの優秀な人材で少数精鋭チームとする。 ・地元の行橋市出身の学生に呼びかける。 ・ゼミ(90分×15回)として行う場合、単位認定可能。学生を集めるのが容易で、定期的な作業時間を確保できる。 ・課外活動として自由参加とする場合、必要人員が集まるのならば、学生の意欲や企画実施の自由度は高い。 <p>2) 今後の進め方</p> <p>・中島教授で学生の募集方法とプロジェクトの位置づけについて、検討後共有いただく。</p> <p>→<u>学部2、3年生から学生を募集して、課外活動としてプロジェクトを実施することとした。</u></p> <p>・記者発表をプロジェクト開始時と企画実施時に予定する。 →原稿案は日本工営で作成して、行橋市から記者クラブへ投げ込みしていただく。</p> <p>【出席者】 行橋市：永見 西日本工業大学：中島教授 日本工営：白石、高峯、行徳</p>

「高等教育機関と連携した公共交通の推進」事業

行橋市公共交通デザインプロジェクト

参加者募集!

君のデザインが行橋市の公共交通を変える!

プロジェクトの目的

- ① 自治体と高等教育機関（大学等）との連携による公共交通の利用促進（事例づくり）
- ② 学生を主体とした取組みによる話題性の訴求
- ③ 地域の巻き込みによる持続的な活動への展開

募集プロジェクト① 『バス停のデザイン』

※デザイン研究所のプロジェクトとして実施（予定）

- 募集定員：10人程度
- 締切：10/2日
- 対象バス停の数：行橋市中心部の10基のバス停
- 対象バス停の仕様：（後日、協議・調整）

今後のスケジュール（予定）

- 10月：プロジェクト発足、メンバー決定
- 10～12月：学内の会合、地域との会合
デザインの实製作
- 1～2月：効果検証、意見交換会
- 3月：まとめ

※行橋市公共交通のロゴデザインも合わせて検討

募集プロジェクト② 『バス車両のラッピングデザイン』

※デザイン研究所のプロジェクトとして実施（予定）

- 募集定員：6名程度
- 締切：10/2日
- 対象車両の仕様：長さ8.9m×高さ2.9m

※対象車両は最も利用の多い豊津線（行橋駅～みやこ町）をはじめ、市内のいろいろな路線で運行（予定）。

今後のスケジュール（予定）

- 10月：プロジェクト発足、メンバー決定
- 10～12月：学内の会合、地域との会合
デザインの实製作
- 1～2月：効果検証、意見交換会
- 3月：まとめ

お問合せ先

- ①西日本工業大学 担当：デザイン研究所 所長 中島浩二 ☎093-563-2018
- ②行橋市・都市政策課 担当：永見 ☎0930-25-1111（内線1372）
- ③日本工営㈱福岡支店 都市地域整備G 担当：高峯 ☎092-475-7569

企画への参加学生募集用フライヤー

4.4.7. 授業①キックオフ会議（10/4）

プロジェクトへの参加を希望した情報デザイン学科、建築学科の2、3年生10名とキックオフ会議を行った。行橋市とコンサルタントによるガイダンスを行い取り組むテーマについて共有後、学生のやりたい企画アイデアに仕立てるために自由意見交換を行った。

実施期日	平成29年10月4日（水）16:10～17:40
実施場所	西日本工業大学・小倉キャンパス
実施状況	<p>・プロジェクトへの参加を希望した情報デザイン学科、建築学科の2、3年生10名とキックオフ会議を行った。</p> <p>【議事】</p> <ol style="list-style-type: none">1) 自己紹介2) プロジェクトの説明3) 行橋市の概要と公共交通4) デザイン検討についての議論5) 今後のスケジュール<ul style="list-style-type: none">・デザイン1:バス停のデザイン（行橋市内のバス停10基）・デザイン2:バス車両のラッピングデザイン(長さ8.9m×高さ2.9m) <p>4) デザイン検討についての議論</p> <ul style="list-style-type: none">・学生からすぐに自由意見は出てこなかったため指名する形で全員から意見を聞いた。・バス停やバス車両のデザイン事例を紹介後、学生達にバスやバス停などの課題、解決案について自由意見交換を行った。・課題：バス停が見つげにくい、時刻表が分かりづらい、海幸山幸号のバス車両を見ても路線バスと分らない<ul style="list-style-type: none">・デザインに関する意見：バス停、バス車両、ロゴの統一したデザイン、「太陽」など誰にでもわかるデザイン、三角柱のバス停・情報発信に関する意見：ブランディング、全国から認知されるPRの方法を検討する・今後は10/28(土)に現地調査を実施した後、曜日を定めて5限の時間帯に、企画を進めていく。 <p>【出席者】 行橋市：本多、永見 西日本工業大学：中島教授、梶谷講師 情報デザイン学科：3年生 矢頭、川村、春本、塩塚、青木 2年生 野原、村井、福田、渡辺 建築デザイン学科：3年生 田村 日本工営：高峯、行徳</p>

■今日のプログラム（予定） 16：10～17：40（90分）

①自己紹介（10分＝1人1分×10人）

○参加者（予定）：西工大・学生（最大10名）、行橋市（2名）、日本工営（2名） ※中島先生
 ○話す内容：名前、学年、出身、出身地の自慢、今の興味・関心事または専攻内容・業務内容

②今回のプロジェクトの説明（10分）

- ・プロジェクトの目的 ・行橋市の公共交通の課題 ・高等教育機関と地域との関わり
- ・公共交通の現状と利用促進の必要性

③行橋市の概要・公共交通（10分）※行橋市よりご説明

- ・今回のプロジェクトのフィールドである行橋市の概要及び公共交通について

④デザイン検討についての議論（50分）

- ・バス停デザイン、車両デザインの事例
- ・デザインの基本的方向性 ・対象デザインごとのチーム分け など

対象デザイン① バス停のデザイン（行橋市中心部の10基のバス停）

対象デザイン② バス車両のラッピング・デザイン（長さ8.9m×高さ2.9m）

⑤今後のスケジュール＜想定＞（10分）

10/4：キックオフミーティング

10～12月：月2回程度のミーティングでデザイン内容を固めていく（曜日固定：水曜日？）

※現地調査の日程調整

1～2月：デザインの完成と成果発表、意見交換会（実施3自治体・地域）

3月：まとめ

キックオフ会議のプログラム

行橋市の概要について

総面積 (H26.10.1) 70.05km ²	人口 (H29.9.30) 73,294人
-------------------------------------------	-----------------------------



市の花
「コスモス」
1市8町村の合併を
表している。



第五知行橋市総合計画
「魅力がいっぱい人が集まるパワフルゆくほし」シンボルマーク



行橋市の今川に住むあひるをモチーフにしたマスコット



行橋市の概要（資料の一部）

バス停・バスデザインについて

・バスのデザイン



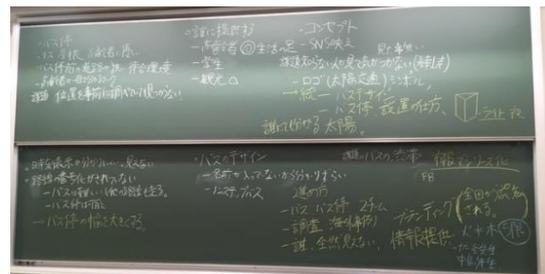
・バス停のデザイン



バス停・バスデザイン（資料の一部）



学生達へのガイダンス



企画内容や公共交通について自由意見交換

4.4.8. 授業②現地調査準備 (10/19)

バスの課題を学生達で考え、次回の現地調査の内容やスケジュールを確認した。

実施期日	平成 29 年 10 月 19 日 (木) 16:30~18:00
実施場所	西日本工業大学 小倉キャンパス
実施状況	<p>・バスの課題を学生達で考え、次回の現地調査のスケジュールを確認した。</p> <p>【議事】</p> <ol style="list-style-type: none">1) バスの課題について2) 今後のスケジュール <p>【出席者】 行橋市：本多、永見 西日本工業大学：中島教授、梶谷講師 学生複数名</p>

4.4.9. 現地調査（10/28）

行橋市で現地調査を実施した。太陽交通の本社を訪問（会社説明、ラッピングデザインの想定車両の確認）して、3チームに分かれて市街地のバス停調査をした後、調査結果の取りまとめ、今後の進め方について協議した。

バス停は取り組むべき課題として認識したものの、バス車両は既にシックな雰囲気であるため、バスラッピングの必要性について今後協議することとなった。また西工大からの提案で新たにバス内装のデザインの可能性が浮上した。

現地調査にあたって、太陽交通が貸切バスを手配してくださり、会社概要やリクルートの話までされており、学生が参加することで交通事業者の積極的な支援が見られた。

実施期日	平成 29 年 10 月 28 日（土） 11:30～17:30
実施場所	行橋市
実施状況	<p>・太陽交通の本社を訪問（会社説明、ラッピングデザインの想定車両確認）して、3チームに分かれて市街地のバス停調査をした後、調査結果の取りまとめ、今後の進め方について協議した。</p> <p>【現地調査】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 太陽交通の本社訪問 <ol style="list-style-type: none"> ①会社説明 ②ラッピングデザインの想定車両 2) 3チームに分かれて市街地のバス停調査 3) 調査結果のとりまとめ、今後の進め方 <p>1) 太陽交通の本社訪問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2002年西鉄が赤字路線のため撤退することになり、行橋市から太陽交通へ相談。市民の足として新たに路線バス事業に取り組んだ。当時の社長の意向により、行橋市と事業者と市民それぞれが win-win の関係となり、継続的な事業にするべく様々な経営努力をした。その結果、西鉄時代の 1/10 の補助金で路線バスを運行している（約 5000 万→約 400 万）。バス事業として赤字であるものの、タクシー事業で補填）。 ・未だに西鉄が運行していると思っている方、そもそも路線バスの存在を知らない方がいることが課題。そのような方々に路線バス、太陽交通についてアピールしたい。 <p>2) 太陽交通の本社訪問②ラッピングデザインの想定車両</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バスのラッピングは社外だけでなく、社内でも可能。（民間事業者の宣伝は、社外のみで社内に広告が無いため自由にデザイン可能。） ・ロゴデザインの提案も可能。 <p>3) 3チームに分かれて市街地のバス停調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チーム毎に5基程度まちなかのバス停を確認して、<u>バス停の課題を確認</u>した。 <ul style="list-style-type: none"> ・認識しにくい ・バス停に路線図が無い等の情報不足 ・バス停に統一性が無い ・南本町は各支線が集まって行橋駅に向かう位置なので、バスの本数が異常に多い <p>3) 調査結果のとりまとめ、今後の進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バス事業者と利用者のミスコミュニケーションが課題。西鉄が撤退した路線を引き取って経営努力しているが、利用者とのコミュニケーションが下手で未だに西鉄が運行していると勘違いされている。そもそもバスが運行されている状況を知られていないなども。

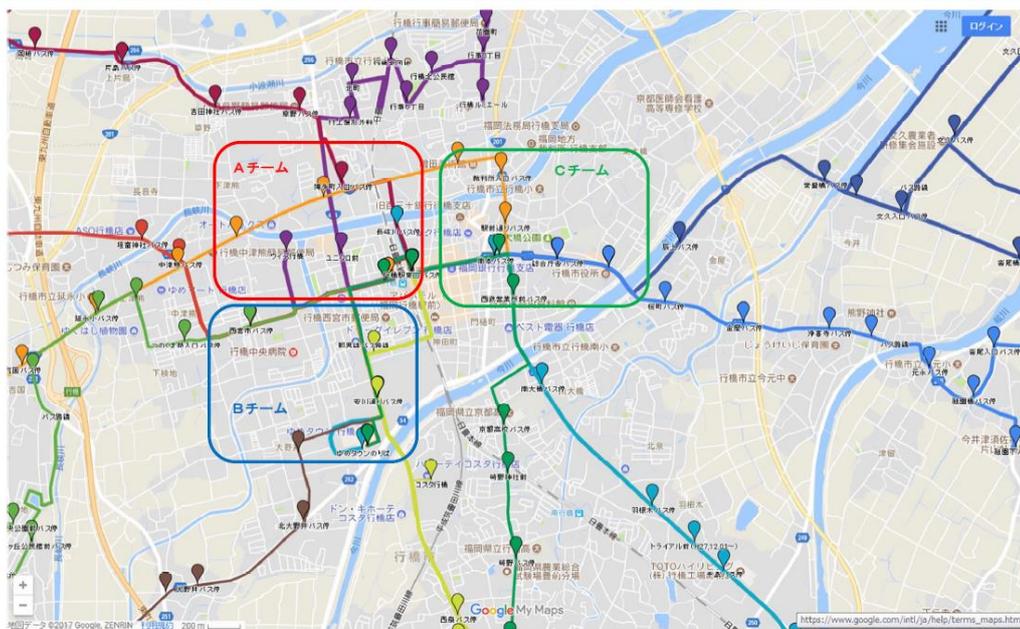
- ・バス停が非常に分かりにくい。路線図が無いなど、一元様お断りの状況。バス停の改善は、西日本工業大学との連携プロジェクトで取組むべき解決策の一つ。
- ・ラッピングを想定しているバスのデザインがそこまで問題がなく、むしろシンプルでシックな印象を受けるので、費用をかけて改めてバスのラッピングバスに取組むべきか協議する必要がある。
- ・市としては利用促進施策がラッピングバスと確定しているわけではない。今後の進め方、取組むべき解決策、事業スキームなどは11月2日に協議する。
- ・バス内装のデザインについては今後検討する。

【出席者】行橋市：本多、永見
 西日本工業大学：中島教授、梶谷講師
 学生9名
 太陽交通：屋根内、高柳
 日本工営：高峯、行徳

■スケジュール案

時間	内容	備考
11:30 -	行橋駅現地集合	
11:30 - 12:30	昼食	会場: 三徳
12:40	太陽交通のマイクロバスで移動(三徳駐車場)	
13:00 - 14:00	太陽交通本社見学	太陽交通より会社説明、路線バスの状況、バス等につき説明、デザイン対象バスを見学
14:30	太陽交通のマイクロバスで移動	
14:30 - 16:30	現地調査(行橋駅周辺) 駅北西側、駅南西と駅東側で3チームに別れて調査。 調査後各自市役所へ移動	駅周辺のバス停、バス停留所 バス行橋駅東ロー市役所前などを利用。
16:45 - 17:30	各チームより調査結果発表: 市役所よりご挨拶(5分) 今日の調査内容のまとめ・感想(30分)	プロジェクターにて写真の投影。
	徒歩移動	
18:00 - 20:00	懇親会	会場: 器楽 駅周辺、帰宅の必要がある方は帰宅。
20:30	行橋駅解散	

現地調査スケジュール



バス停調査チーム分け



太陽交通の会社説明



ラッピングを想定しているバス車両



バス車内に広告が無い



自社製のバス停（新矢留コスト線設置予定）



視認しにくいバス停



路線図があるバス停はほとんど無い



バス停の情報不足



調査とりまとめ

4.4.10.授業③課題整理と企画会議（11/2）

バスの課題整理のために、網形成計画で挙げられた課題、現地調査で挙げられた課題を整理するとともに、企画案検討に参考となる中島教授、梶谷講師の取組の紹介がなされた。

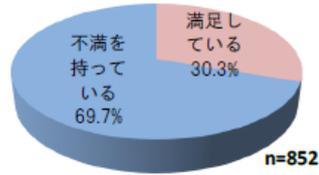
この時点では、大人達（自治体・先生・コンサルタント）による予算やテーマ設定の協議が長引いてしまったため、学生による企画検討や自由意見交換の時間が減ってしまったため、学生の主体性を疎外した懸念が残る。

一方で、「住民とのバス停づくりによる思い出づくり」のアイデアが学生から提案された。

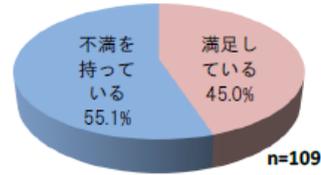
実施期日	平成 29 年 11 月 2 日（木） 16:30～18:00
実施場所	西日本工業大学 小倉キャンパス
実施状況	<p>・バスの課題整理のために、網計画で挙げられた課題、現地調査で挙げられた課題を整理するとともに、企画案検討に参考となる中島教授、梶谷講師の取組の紹介がなされた。その後、今後の企画について協議した。</p> <p>【議事】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 網形成計画で挙げられた課題 2) 現地調査結果振り返り 3) 西日本工業大学の取組み紹介 (にじのはしプロジェクト、こくらハロウィン) 4) 企画について協議 <p>1) 網形成計画で挙げられた課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バスの利用状況は、「全く利用してない」が7割。「ほとんど利用しない」が2割弱。「利用層」は1割強にとどまる。 ・バス利用の問題点は、「便数が少ない」「バス路線を知らない」「自宅からバス停が遠い」が主な意見。 ・網形成計画では、バス路線を知ってもらうために、「バス停の改善」「バスのラッピング」などの企画を提案した。 <p>2) 現地調査結果振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分かりにくいバス停を改善する取組みは必要だと感じた。 ・太陽交通がラッピングを想定しているバス車両の現状のデザインが既にレトロでシックな良い雰囲気を感じられ、ラッピング以外の「新たな企画案」の可能性も検討する。 <p>3) 西日本工業大学の取組み紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・にじのはしプロジェクト、こくらハロウィンの紹介がなされ、ストーリーを意識した情報発信をする重要性を確認した。2つの企画とも予算は少なかったが、SNSで情報発信しながら、新聞、Yahoo ニュース、NHK、民放に取り上げられた。 <p>4) 企画について協議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>大人達（自治体・先生・コンサルタント）により、ラッピングデザインの必要性の有無について再度協議がなされ、自治体が予算を確保して、太陽交通を支援する形でプロジェクトを進める（交通事業者の負担にはならない）</u>ため、バスラッピングデザインも検討を進めることとした。 ・学生の提案した企画案：<u>地域住民でも製作可能なバス停デザイン案と地域住民とのバス停づくり。バス停が住民の「思い出」となり、愛着を持ってバスを利用する効果を期待する。</u> ・今後学生主体で企画案の検討を進める。

2) バス利用の問題点

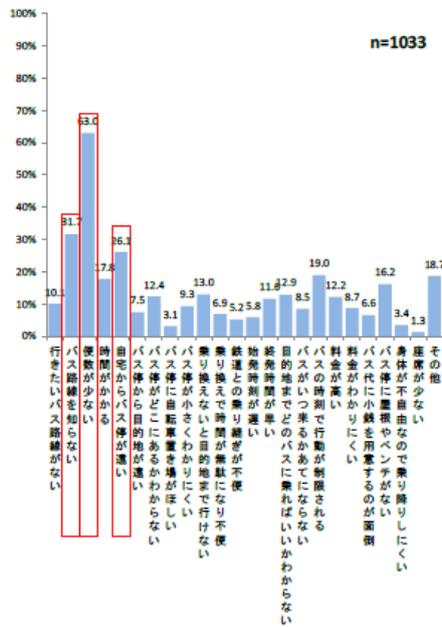
- バスに関する問題点として、「便数が少ない」「バス路線を知らない」「自宅からバス停が遠い」ことが多くなっています。
- 一方で、バス利用者が問題と考える点は、「便数が少ない」「終発時間が早い」「バスの時間で行動が制限」「バス停に屋根やベンチが無い」が多くなっています。



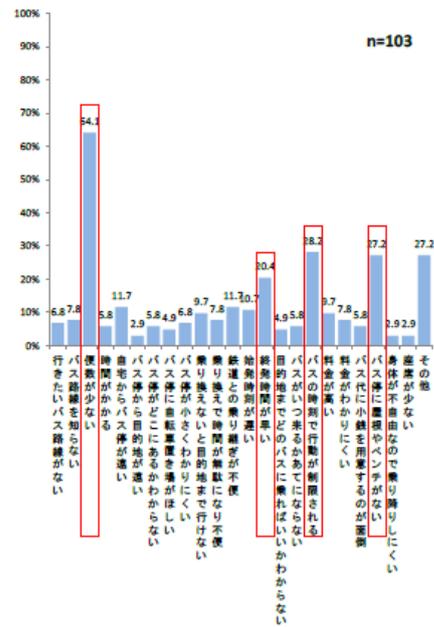
■ バスに関する満足度（全体）



■ バスに関する満足度（バス利用者）



■ バスに関する問題点（全体）



■ バスに関する問題点（バス利用者）

バス利用の問題点

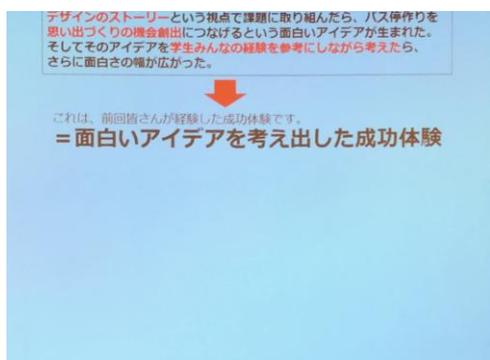


会議の様子

4.4.11.授業④企画検討（11/9）

前回学生から「バス停の製作・思い出づくり」という世の中に無い新たなアイデアが挙げられた事は、面白いアイデアを思い付いたという学生にとっての成功体験になったと考えられる。学生の自由な発想を重視することが、今回の調査事業では重要であると考え、更なるアイデア出しのための自由意見交換を行った。

実施期日	平成 29 年 11 月 9 日（木） 16:30～18:00
実施場所	西日本工業大学 小倉キャンパス
実施状況	<p>・前回<u>学生から「バス停の製作・思い出づくり」のアイデアが挙げられた事は、面白いアイデアを思い付いたという学生にとっての成功体験</u>になったと考えられる。</p> <p>・学生の自由な発想を重視することが、今回の調査事業では重要であると考え、更なるアイデア出しのための自由意見交換を行った。</p> <p>【議事】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 前回会議の振り返り 2) 自由意見交換 <p>2) 自由意見交換</p> <p>生徒の意見は以下の内容でまとまった</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バスの改造：快適すぎる内部空間 （京築ひのきのインテリア・シート等） ・思い出作り：広告スペースを活用した作品応募コンテストコーナー （学生のコンテスト、シニアの写真・川柳等のコンテスト） ・その他：乗り合いバス、物販 ・当たりバス：ラッキーなイメージ （ロゴが違う・後部がちょっと違う） スピリチュアル 牡蠣の殻をつける ネガカラー・高級感(金・黒) <p>【出席者】 行橋市：永見 西日本工業大学：中島教授、梶谷講師 学生 7 名</p>



面白いアイデアを考え出した成功体験



授業の様子

4.4.12.授業⑤企画検討（11/16）

これまで挙げた企画案を元に、3 チームに分かれて具体的な内容について学生自身で企画検討を行った。次回は、1 チーム 1000 円以内で材料を購入（コンサルタントの諸経費）して、立体的なデザインなどを試作することとした。

実施期日	平成 29 年 11 月 16 日（木） 16:30～18:00
実施場所	西日本工業大学 小倉キャンパス
実施状況	<p>・これまで挙げた企画案を元に、<u>3 チームに分かれて具体的な内容について学生自身で企画検討</u>を行った。</p> <p>【議事】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) これまでの振り返り 2) チーム分け 3) チーム毎に具体的な内容について協議 <p>2) チーム分け</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後、検討する内容ごとにチームを編成して、その中で議論・検討する。 <ul style="list-style-type: none"> ・地元の人とのバス停の手作り（バス停チーム）：福田、青木、渡辺 ・当たりバス（バス外装チーム）：野原、村井 ・バスの改造、思い出作り、その他（バス内部空間チーム）：田村、野洲、川村、春本 <p>3) チーム毎に具体的な内容について議論</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バス停チーム <ul style="list-style-type: none"> ・親子向けに D I Y でパーツを用意して、バス停を組み立てていく。 ・参加者は、回覧板などを使って告知する。予算は 1 基あたり 2 万円程度想定。 ・当たりバス（バス外装チーム） <ul style="list-style-type: none"> ・若い人向けに夕方以降のみ運行するバスを考える。（ムーンライトバスのようなイメージ）蛍光塗料などを使って、インスタ映えするバスの外装デザインを考える。 ・ラッピングは業者が行い、コストは 50～100 万円程度を想定する。 ・バスの改造、思い出作り、その他（バス内部空間チーム） <ul style="list-style-type: none"> ・利用促進につながる内装を考える。行橋市の特産品の再発見につながる商品を販売する。 ・若者や高齢者などをターゲットとする。快適空間になるように地元のヒノキ材等を活用する。 <p>・次回は、1 チーム 1000 円以内で材料を購入し、立体的にデザインなどを試作していく。</p> <p>【出席者】 行橋市：本多、永見 西日本工業大学：中島教授、梶谷講師 学生：福田、青木、渡辺、野原、村井、田村 野洲、川村、春本 日本工営：高峯</p>

● 具体的企画アイデア案等の振り返りと今日の進め方

これまでであった具体の企画アイデア案

- バス停の改善
- 地元の人と手作りのバス停
- バス停にタイムカプセルを
- バス車輻ラッピング
- バス社内の空間デザイン
- 桜スマイルフェスタ・菜の花祭りとのコラボ
- 太陽交通のバスに虹をかける太陽交通 X 虹のはしプロジェクト
- etc..

前回 (11/9) の協議内容

- ①バスの改造 → 快適すぎる内部空間(京築ひのきのインテリア・京築の自動車産業:シート、インテリア等)
- ②想い出作り → 広告スペースを活用した作品応募コンテストコーナー (学生のコンテスト、シニアの写真・川柳等のコンテスト)
- ③その他 → 乗り合いバス、物販
- ④当たりバス → ラッキーなイメージ(ロゴが違う・後部がちょっと違う)
スピリチュアル
社蠅の殻をつける
ネガカラー・高級感(金・黒)

キーポイント

- メディアの活用方法は？
- 回覧板、ラジオ、テレビ、ニュース、SNSによる発信
- 対象となる人は？
- ストーリーは？
- お金はあまり無い？



今回 (11/16) の協議内容

- ①チーム編成 → 2チーム or 3チーム
・バス停デザイン
・バス車体(車内)メディア化
・公共交通の情報発信(プロモーション)
- ②企画内容の詰め → チームごとに協議

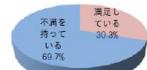
これまでの振り返り

課題

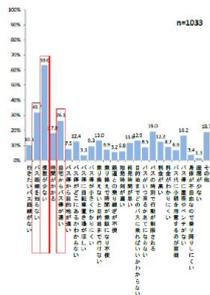
公共交通網形成計画



バスの利用者は3割弱



バスに関する満足度(全体)



バスに関する問題点(全体)

バスは路線図



分かりにくいバス停(路線図無し)



バス社内の仕掛け



分かりにくいバス停



手続りのバス停 2万/1基
お金は無い

西鉄が運行していると誤解

そもそも知られていない



バスは既シクでレトロ



西鉄の赤字路線を引き取り、
走り続ける太陽交通



西鉄(大企業)と太陽交通(地元企業)

伸びしろ・強み

西日本工業大学との連携



大学生・若者によるプロジェクト



How to make rainbow



専門性: ブランディング・DIY・情報デザイン



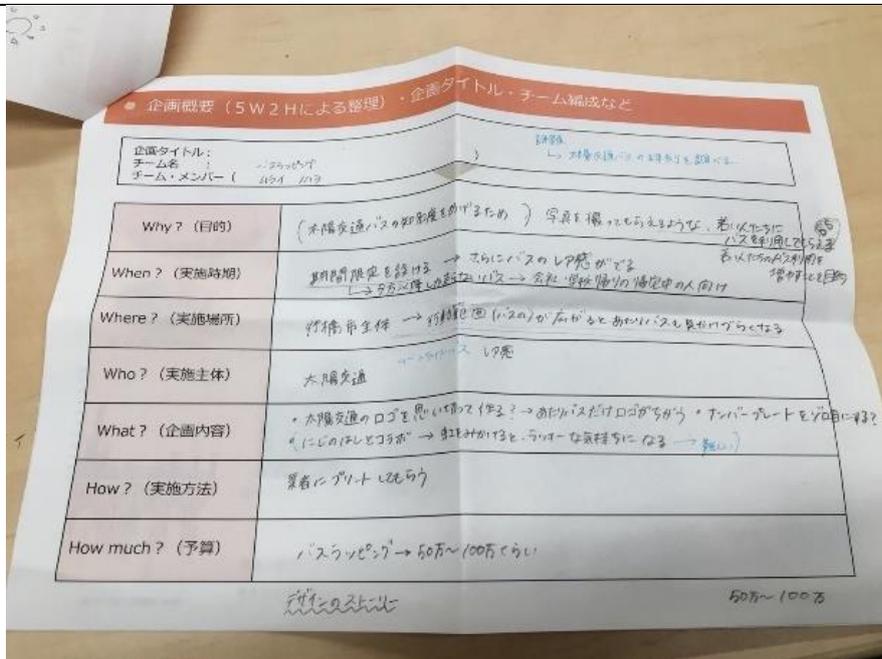
ロゴは？

課題と伸びしろ

● 企画概要（5W2Hによる整理）・企画タイトル・チーム編成など

企画タイトル： チーム名： チーム・メンバー（ ）	
Why? (目的)	
When? (実施時期)	
Where? (実施場所)	
Who? (実施主体)	
What? (企画内容)	
How? (実施方法)	
How much? (予算)	

企画具体化用シート（タイトルと5W2H）



記載されたシート



企画の具体化



企画の具体化

4.4.13.授業⑥模型試作（11/30）

検討した提案内容を 3 チームに分かれて、自由に意見交換しながら模型等で企画を具体化していった。具体化した企画内容は発表、先生や他の学生から指摘を受けるサイクルを2回行い、提案のブラッシュアップを図った。

実施期日	平成 29 年 11 月 30 日（木） 16:30～18:00
実施場所	西日本工業大学 小倉キャンパス図工室
実施状況	<p>・チーム毎に購入した材料を使いながら、模型の試作を開始した。</p> <p>【議事】</p> <p>1) 3チーム別に試作・発表（2回まわし）</p> <p>1) 3チーム別に試作・発表（2回まわし）</p> <p>“快適すぎる”バス内部空間（バス内装チーム）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木の質感→床・手すり・つり革・座席などを和の統一感で装飾。 ・天井を壁紙にして昼は青空、夜は星空を表現。（→和のテイストからブレている。「軸」を押さえる） <p>“当たり”バス（バス外装チーム）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・蛍光塗料で星を外装に施す。昼間は見えない。 ・雨の日は虹が浮かび上がる塗料。4つ葉バス（運転手が毎日クローバーの場所を変える）。青い鳥など <p>地元の人との“分かりやすい”バス停づくり（バス停チーム）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積み木のようにバス停を作り、地元の人に参加してもらう。 ・三角柱のバス停。（地元の参加性は、参加者全員の手形をプリントしてメモリアルとして貼るなど） <p>・今後のスケジュールとして、次回（12/7）は、今日の振り返りを踏まえて、試作品のブラッシュアップを行い、12/14に中間プレゼンとして、試作品とコンセプトを発表する。</p> <p>【出席者】 行橋市：永見 西日本工業大学：中島教授、梶谷講師 バス内装チーム：田村、野洲、川村、春本 バス外装チーム：野原、村井 バス停チーム：福田、青木、渡辺 日本工営：高峯</p>



バス内装チーム



発表の様子

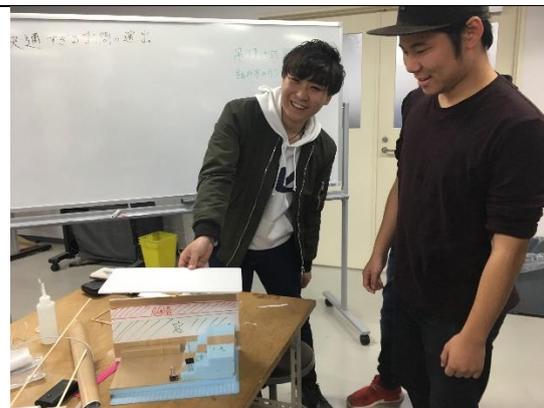
4.4.14.授業⑦模型試作（12/7）

前回同様、3 チームに分かれて模型の試作と発表を 2 回まわして提案のブラッシュアップを図った（クイック&ダーティーというデザイン手法）。次回の太陽交通への中間プレゼンに向けて、企画の背景やコンセプトなどを各チームで整理することとした。

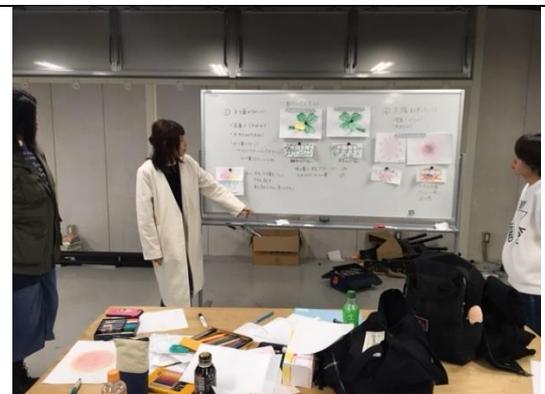
実施期日	平成 29 年 12 月 7 日（木） 16:30～18:00
実施場所	西日本工業大学 小倉キャンパス図工室
実施状況	<p>【議事】</p> <p>1) 3 チーム別に試作・発表（2 回まわし）</p> <p>“快適すぎる” バス内部空間（バス内装チーム）</p> <p>“当たり” バス（バス外装チーム）</p> <p>地元の人との“分かりやすい” バス停づくり（バス停チーム）</p> <p>・次回の中間プレゼンに向けて、企画の背景やコンセプトなどを各チーム内で整理することとした。</p> <p>【出席者】 行橋市：本多、永見</p> <p>西日本工業大学：梶谷講師</p> <p>バス内装チーム：田村、野洲、川村、春本</p> <p>バス外装チーム：野原、村井、塩塚</p> <p>バス停チーム：福田、渡辺</p> <p>日本工営：行徳</p>



図工室



バス内装チーム



バス外装チーム（ラッピングデザイン案）



バス停チーム（三角柱のバス停）

4.4.15.太陽交通への中間プレゼン（12/14）

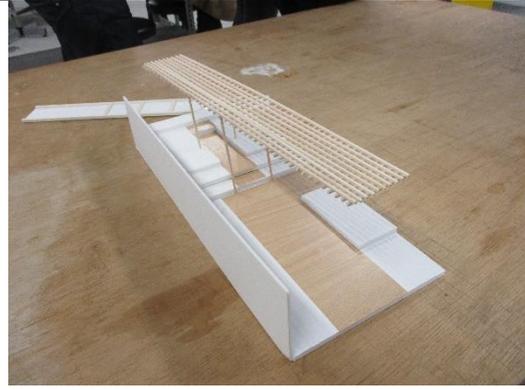
3チームの企画案をバス事業者に対する中間報告としてプレゼンテーションを行った。バス事業者の反応は良好であり、講評の意見を反映させながら提案内容をブラッシュアップしていくことになった。

太陽交通は中間プレゼンのために西日本工業大学に来て、良い感想や実現化に向けた課題を伝えており、企画の実現に向けて交通事業者も応援している様子であった。

実施期日	平成 29 年 12 月 14 日（木） 16:30～18:00
実施場所	西日本工業大学 小倉キャンパス図工室
実施状況	<p>・ 3 チームの企画案をバス事業者に対して中間プレゼンした。</p> <p>【議事】</p> <ol style="list-style-type: none">1) 提案内容に至る背景、課題の整理2) バス内装チームのプレゼン3) バス停チームのプレゼン4) バス外装チームのプレゼン5) 太陽交通による講評 <p>5) 太陽交通による講評</p> <p>・ <u>バス事業者の反応は良好</u>であり、講評の意見を反映させながら提案内容をブラッシュアップしていくことになった。</p> <p>“快適すぎる” バス内部空間（バス内装チーム）</p> <p>・ 木材の使用について、つり革は強度の問題、床面は耐久性の問題等で使用が困難である。</p> <p>地元の人との“分かりやすい”バス停づくり（バス停チーム）</p> <p>・ 面白い試みになりそうである。</p> <p>・ 三角柱のバス停は構造上倒れる可能性がある。（行橋市）</p> <p>“当たり”バス（バス外装チーム）</p> <p>・ 太陽案と四つ葉案の 2 案とも面白い。四つ葉のデザインを軸に 2 案とも検討する方向とする</p> <p>【出席者】 行橋市：本多、永見 西日本工業大学：中島教授、梶谷講師 バス内装チーム：田村、野洲、川村、春本 バス外装チーム：野原、村井、塩塚 バス停チーム：福田、渡辺、青木 太陽交通：屋根内、高柳 日本工営：高峯</p>



バス内装チーム 1



バス内装チーム 2



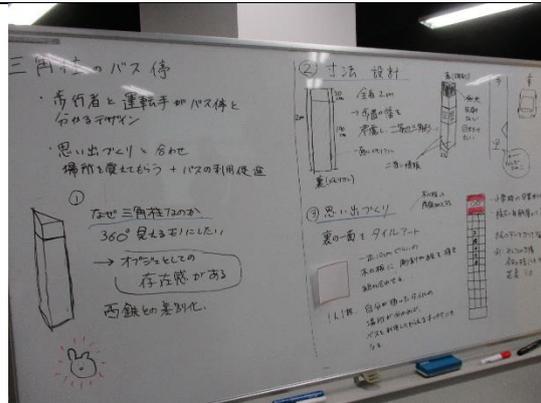
バス外装チーム 1



バス外装チーム 2



バス停チーム 1



バス停チーム 2



先生による課題と背景説明



太陽交通による講評

4.4.16.授業⑧ブラッシュアップ（12/21）

中間プレゼンでの太陽交通の指摘内容を踏まえて、今後改善すべき提案内容の整理と来年度の実施に向けた協議を行った。

行橋市が平成30年度に申請する福岡県の補助金「個性ある地域づくり推進事業」のヒアリングが2月に実施されるため、1月末には西工大による企画の具体化や見積もりが必要となる。しかし、現時点でバス停のサイズ、素材などは確定していないため、見積もり作成が困難である。そのため、来年1月末までにはデザインをある程度確定させる必要がある。

実施期日	平成29年12月21日（木）16:30～18:00
実施場所	西日本工業大学 小倉キャンパス図工室
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・中間プレゼンでの太陽交通の指摘内容を踏まえて、今後改善すべき提案内容の整理と来年度の実施に向けた協議を行った。 <li style="padding-left: 20px;">【議事】 <li style="padding-left: 40px;">1) 今後改善すべき提案内容の整理 <li style="padding-left: 40px;">2) 来年度の実施に向けた協議 <p>1) 今後改善すべき提案内容の整理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初、学生が考えていた内容から、①現状のままでよい点、②耐用性、バス車両の構造上、提案した内容では実現不可能な点、を整理した。 ・その後、改善した内容でさらにデザインを精査にしていく作業を行った。 <p>2) 来年度の実施に向けた協議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度バス事業の1/2を補助する補助金「個性ある地域づくり推進事業」に申請している（補助主体は福岡県）。 ・その補助金の申請に対するヒアリング調査が平成30年2月に実施され、その前までに来年度の概要計画書を平成30年1月末頃に提出する予定。 ・バス停制作、バスラッピングの費用を補助対象としており、詳細を年明け早々につめる必要がある。そのため見積りを業者に依頼する必要があるが、現在、デザイン（サイズ、素材等）がはっきり確定していないため、見積作成が困難な状況。 ・年明けには、サイズ、素材を決める必要があり、素材は学生のこだわりを確認しつつ決める。 ・バスラッピングは2つのデザインを同時並行で進める。 <p>【出席者】 行橋市：本多、永見 西日本工業大学：梶谷講師 バス内装チーム：田村、野洲、川村、春本 バス外装チーム：野原、村井、塩塚 バス停チーム：福田、渡辺、青木</p>

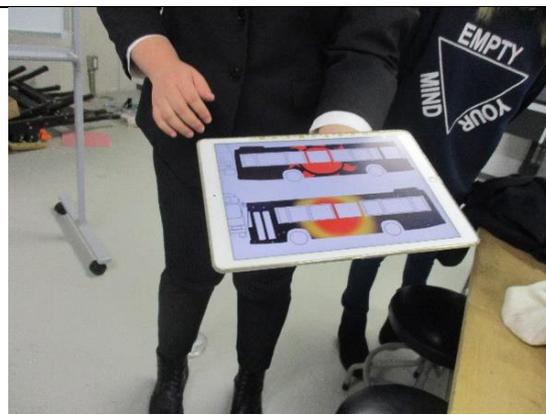
4.4.17.授業⑨ブラッシュアップ (1/11)

今後改善すべき提案内容の整理に基づき、各チームで作業を進めた。

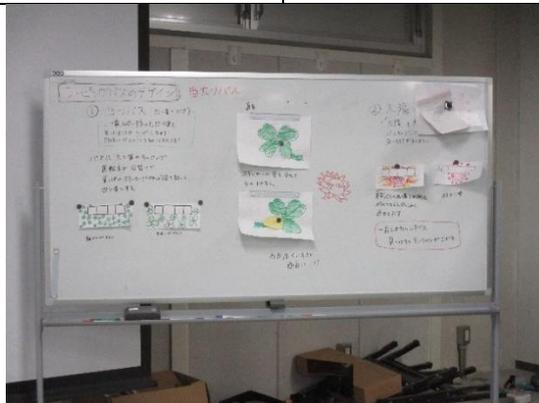
実施期日	平成 30 年 1 月 11 日 (木) 16:30~18:00
実施場所	西日本工業大学 小倉キャンパス図工室
実施状況	<p style="text-align: center;">【議事】</p> <p style="text-align: center;">1) 各チームでの作業</p> <p>1) 各チームでの作業</p> <p>バス内装チーム：田村、野洲、川村、春本 ・つり革、床、かご等の色、素材などのディテールを検討した</p> <p>バス外装チーム：野原、村井、塩塚 ・四つ葉のバス、太陽バスの具体的なデザインについて検討した</p> <p>バス停チーム：福田、渡辺、青木 ・具体的なサイズや素材を検討した</p> <p>【出席者】 行橋市：本多、永見 西日本工業大学：中島教授、梶谷講師 バス内装チーム：田村、野洲、川村、春本 バス外装チーム：野原、村井、塩塚 バス停チーム：福田、渡辺、青木 日本工営：高峯</p>



バス内装チームの提案



バス外装チームの提案 1

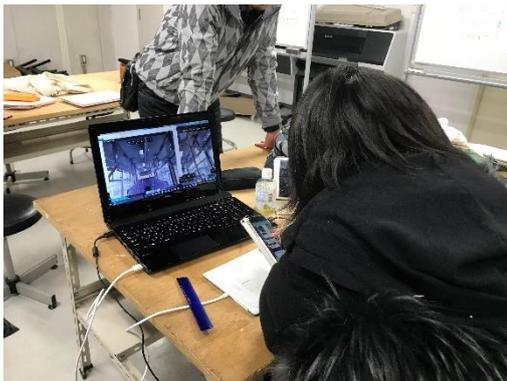


バス外装チームの提案 2

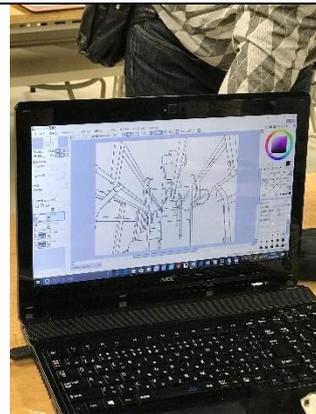
4.4.18.授業⑩ブラッシュアップ (1/18)

これまで検討した内容をパソコン上で具体化する作業を開始した。先生に指導を受けながら PC 作業を進めており、実践プロジェクトを通して専門性の向上等の効果が期待できる。

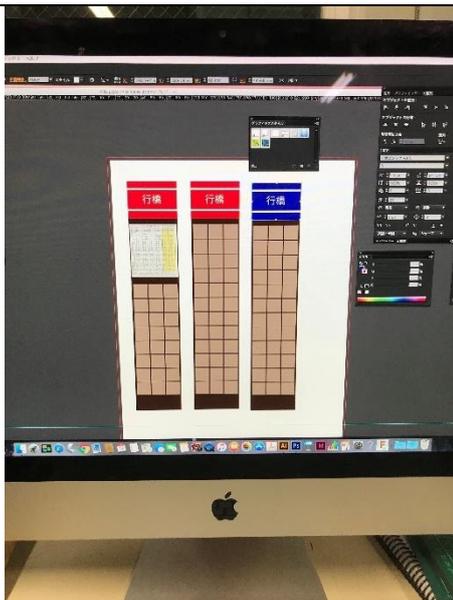
実施期日	平成 30 年 1 月 18 日 (木) 16:30~18:00
実施場所	西日本工業大学 小倉キャンパス図工室
実施状況	<p>・これまで検討した内容をパソコン上で具体化する作業を開始した。</p> <p>【議事】 1) 各チームでの作業</p> <p>【出席者】 行橋市：本多、永見 西日本工業大学：中島教授、梶谷講師 バス内装チーム：田村、野洲、川村、春本 バス外装チーム：野原、村井、塩塚 バス停チーム：福田、渡辺、青木</p>



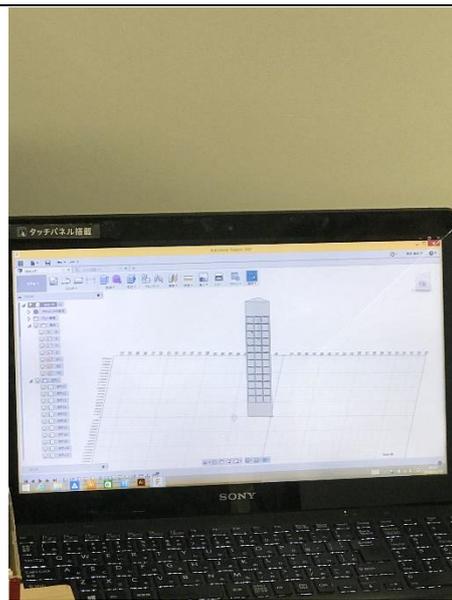
バス内装チーム 1



バス外装チーム 2



バス停チーム 1



バス停チーム 2

4.4.19.授業⑪⑫ブラッシュアップ (1/30-2/1)

春休みに入り、2日間かけてデザインの3チームとも企画内容の最終化を行った。授業終了後も学生と先生で継続的に企画内容をブラッシュアップした上で3月の行橋市地域公共交通活性化協議会（以下、協議会）で発表する。

最終プレゼン資料の作成作業は、先生と学生で役割分担がなされた。梶谷講師によると、学生がプレゼン資料を作成する場合更に5コマ程度が必要になるため、先生がプロジェクトの課題、背景なども含めた全体を、学生がチーム毎の提案内容の最終化を進めた。

実施期日	平成30年1月30日（水）、2月1日（木）終日
実施場所	西日本工業大学 小倉キャンパス図工室
実施状況	<p>【議事】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 各チームでの作業・提案最終化 2) 交通会議での発表について 3) 参加学生へのアンケート <p>1) 各チームでの作業</p> <p>バス内装チーム：田村、野洲、川村、春本 ・模型と車内イメージパースを作成した。</p> <p>バス外装チーム：野原、村井、塩塚 ・四つ葉のバス、太陽バスのデザインを多数作成した。</p> <p>バス停チーム：福田、渡辺、青木 ・デザインを最終化して、ロゴや住民の方々の思い出づくりの仕組みを検討した。</p> <p>2) 交通会議での発表について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通会議は3月中旬に開催予定。 ・プレゼンテーション資料の作成を学生に頼むと更なる作業時間（10時間程度）が必要となるため、先生がとりまとめる。 ・市役所で広報をしてマスコミを呼ぶことで、話題性や取り組みの宣伝効果を高める。 <p>3) 参加学生へのアンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本取り組みについて振り返った上で、参加した感想や満足度を学生にアンケートした。（アンケート結果は後述） <p>【出席者】 行橋市：本多 西日本工業大学：中島教授、梶谷講師 バス内装チーム：田村、川村、春本 バス外装チーム：野原、村井、塩塚 バス停チーム：福田、渡辺、青木 日本工営：高峯、行徳</p>



バス内装チームの作業風景



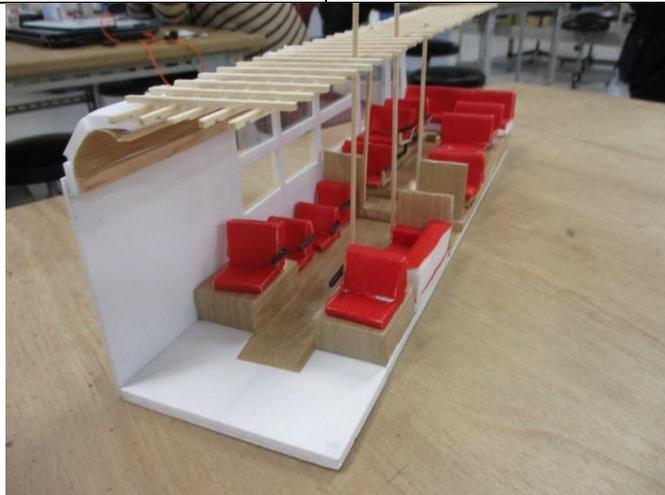
バス外装チームの作業風景



バス停チームの作業風景



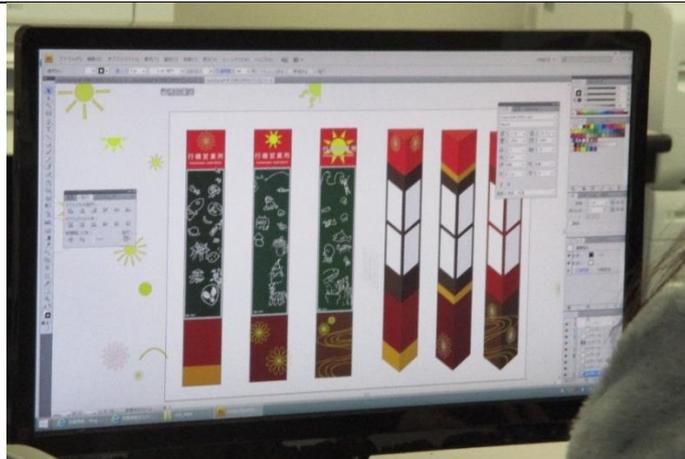
最終授業のためアンケート実施



バス内装チームの提案



バス外装デザインの1案



バス停チームの提案



授業終了後も学生から先生にデザインについて相談

4.4.20.行橋市地域公共交通活性化協議会での成果発表（3/19）

平成 30 年度の実施・実現化に向けて、大学生がこれまでの成果と提案内容を行橋市地域公共交通活性化協議会で成果発表した。

実施期日	平成 30 年 3 月 19 日（月） 10:00～12:00
実施場所	行橋市役所
実施状況	<p>【議事】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) マスコミ取材 2) 協議会での提案発表 <p>1) マスコミ取材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞各社からプロジェクトの経緯や提案内容について取材を受けた。 <p>2) マスコミ取材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトの提案発表をした。 <p>【出席者】 行橋市：本多、永見 西日本工業大学：中島教授、梶谷講師 バス内装チーム：田村、川村、春本 バス外装チーム：野原、村井、塩塚 バス停チーム：福田、渡辺、青木 日本工営：高峯、行徳</p>



マスコミ取材



交通協議会での成果発表



成果発表の様子



交通協議会での成果発表

西日本工業大学
太陽交通バスプロジェクト

2018年3月
最終発表

行橋市役所様からの依頼内容

太陽交通さんの利用者向上のための
バスラッピング } のデザイン
バスの停留所

ただし具体的なデザインの方向性は未定

カッコ良いもの? おしゃれなもの? かわいいもの?
スタイリッシュ? 聊会的? ほのぼの系? 癒し系?

↓

ヒントを求めて現地調査へGo!

現地調査 (フィールドワーク)

<p>高評価なポイント 太陽交通という企業</p> <ul style="list-style-type: none"> 社員への思いやり チームワークの良い組織 交通安全に対する真摯な姿勢 お客様に対する思いやり etc. <p>人間的な温かみのある企業</p>	<p>残念なポイント 街の中での施策</p> <ul style="list-style-type: none"> 停留所の場所が分かりづらい 路線がわからない 料金表がわかりづらい ゆめタウン内に案内がない etc. <p>すべてがわかりづらい・・・</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

現地調査から考察①

調査結果 温かい企業イメージは、市民に受け入れてもらえるはず。
しかし**バス停やバスには分からないことばかり。**

この結果、何が起きている?

太陽交通
企業イメージ
人情味ある
温かい会社

唯一のコミュニケーション手段

ココが問題

行橋市民

行橋市民は太陽交通を好意的に感じてくれるはず

つまり
太陽交通の唯一のコミュニケーション手段である、バス停とバスがメディアの役割を果たしていない!

現地調査から考察②

着眼点 バス停やバスを「コミュニケーションメディア」として捉えた場合、どのような**デザイン**が必要?

<p>機能的な側面</p> <p>どこを通るのか? どこにバス停があるのか? どこのバス会社なのか?</p> <p>↓ 方向性1</p> <p>認知されやすいデザイン</p>	<p>情緒的な側面</p> <p>どんなイメージの企業?</p> <p>↓ 方向性2</p> <p>地に根差したイメージ創出</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------

この二つの方向性から

コンセプト

市民との思い出作りを創出するわかりやすいデザイン

行橋市民との「思い出作り」のための太陽交通バス施策案

- ①わかりづらいバス停をどうしたら住民に知ってもらえるだろうか?
地域住民とバス停を作るイベント創出する
手作りバス停制作するのであれば、いっそのこと住民と一緒に制作してしまおう!
=高齢者・学生などがバス停をつくるイベントを実施し、バス停に対する思い出作りを行う。
現在のバス停デザインを改善するために、住民の思い出作りを行う!
- ②太陽交通のバスの認知が低い。どうしたらいい?
あたりバスとしての認知を得る
地域住民の特別な想いを醸成するため「〇〇バスを走らしたらラッキー」という行橋の都市伝説を創出しよう!
=1日だけ話題性を持つバスを制作し、人のつわさを誘引する。
このバスを走らしたらラッキーに!
- ③どうしたら乗客にもっと行動を感じてもらえるだろうか?
快適すぎる内部空間を創出する
快適なバスの内部空間を提供し、バスに乗るといふ思いを特別なものに昇華させよう!
=原簿ノキを使用し、行橋の自動車内装業者のプラドをかけたインテリア設計を行う。
この空間をもっと快適に!
- ④バスを市民のメディアとらえて、もっとコミュニケーション出来るだろうか?
広告スペースをコンテンツスペースにする
思い出の広告スペースでコンテンツを行えば、出版者の雑誌や友人が乗ってくれる、思い出も増える!しかもほとんどお金はかからない!!
=学生(幼稚園・小学校・中学校・高校)の絵画や、大人の趣味の発表(写真・絵画・川柳等)のコンテンツの幅にする。
思い出の発表場所を確保するべく、バスでコンテンツを企画

①わかりづらいバス停をどうしたら住民に知ってもらえるだろうか?
地域住民とバス停を作るイベント創出する
手作りバス停制作するのであれば、いっそのこと住民と一緒に制作してしまおう!
=高齢者・学生などがバス停をつくるイベントを実施し、バス停に対する思い出作りを行う。
現在のバス停デザインを改善するために、住民の思い出作りを行う!

その1: わかりやすさのために

(現状のデザイン)

正面 横側

しかし

(改善イメージ)

正面 横側

改善

典型的なバス停デザインだが・・・ 横から見るとほとんどわからない
時間長しか載せられない 正面からも横からもわかりやすく情報スペースも多い

提案: 3角柱バス停

A4サイズの新聞表と旅行ガイドが表示可能

上からのイメージ

車道 歩道

→歩行者の邪魔にならない等辺三角形の形状

横からのイメージ

→歩行者が確認しやすい形状

デザイン案： 京葉地域の歴史的な地域資源である「京葉神楽」をイメージした、日本の伝統的な色彩やモチーフを用いたデザイン



A案

B案

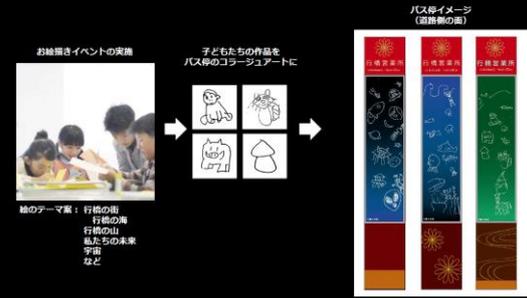
C案

D案

E案

その2：思い出作りのために 市民とバス停を作るイベント創出する

市内の小中学校や子供会等で行橋の自然や子供たちの未来に関する「お絵描き」イベントを実施し、その作品をコラージュ作品にしたバス停を制作する。「バス停を作った」思い出を子供や家族に提供し、認知・利用促進を促す。



3.本郷交通のバスの認知が低い、どうしたらいい？
あたりバスとしての認知を得る

地域住民の特別な想いを達成するため「〇〇バスを見たらラッキー」という行橋の都市伝説を創出しよう！
※1日だけ話題性を呼ぶバスを制作し、人のつわさを獲得する。

見かけると「アタリ」と思ってしまう事象

自然界	人工物
流れ星	ドクターイエロー
虹	ポケモンジェット

バスでも可能なのでは？

「アタリ」と感じてもらえれば、ポスティブな企業イメージ創出につながるはず！

デザイン案
方向性1：幸運を感じる四つ葉のクローバーを探したくなるラッピングバス



A案

デザイン案
方向性1：幸運を感じる四つ葉のクローバーを探したくなるラッピングバス



B案

デザイン案
方向性1：幸運を感じる四つ葉のクローバーを探したくなるラッピングバス



C案

デザイン案
方向性1：幸運を感じる四つ葉のクローバーを探したくなるラッピングバス



D案

デザイン案
方向性1：幸運を感じる四つ葉のクローバーを探したくなるラッピングバス



E案

デザイン案

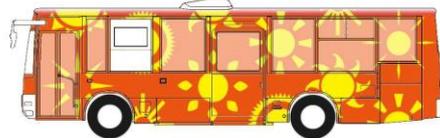
方向性1：幸運を感じる四つ葉のクローバーを探したくなるラッピングバス



F案

デザイン案

方向性2：インパクトのある「太陽」をイメージしたデザイン



G案

デザイン案

方向性2：インパクトのある「太陽」をイメージしたデザイン



H案

デザイン案

方向性2：インパクトのある「太陽」をイメージしたデザイン



I案

さどうやったら車内にちょっと行儀を感じてもBなるだろうか？
快適すぎる内部空間を創出する
 快適なバスの内部空間を創出し、バスに乗るといった思い出を特別なものに昇華させよう！

この空間ももっと快適に！

行橋の地域資源を活用したバスの内部空間演出

京築ヒノキ × 行橋の自動車内装業技術

デザイン案

バスの客室空間に、京築のヒノキ材をふんだんに使ったデザインの提案。

天井から床に至るまで、ヒノキ特有の優しい音りと質感に包まれる。

リラックスしてバスの移動を楽しんでいただくとともに、京築ヒノキ材に対するシビックプライドを醸成する。



イメージ図

④バスを市営のメディアととらえて、もっとコミュニケーション出来ないだろうか？
広告スペースをコンテストスペースにする

空いている広告スペースでコンテストを行えば、出展者の家族や友人が乗ってくれるし、思い出も確実できる！しかもほとんどお金はかからない！！

＝学生（幼稚園・小学校・中学校・高校）の絵画や、大人の趣味の発表（写真・絵画・川柳等）のコンテストの場にする。



小学校の絵画コンテスト



写真コンテスト

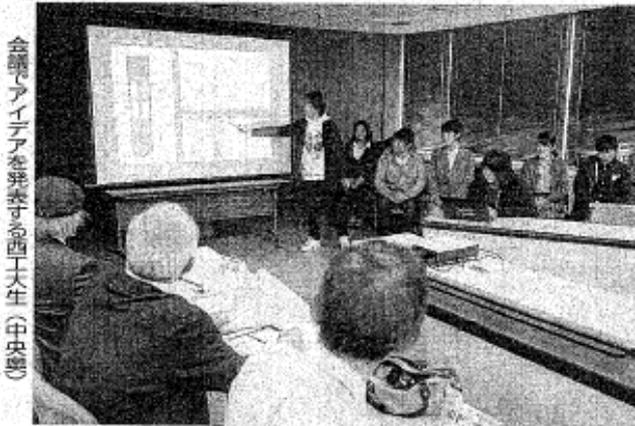
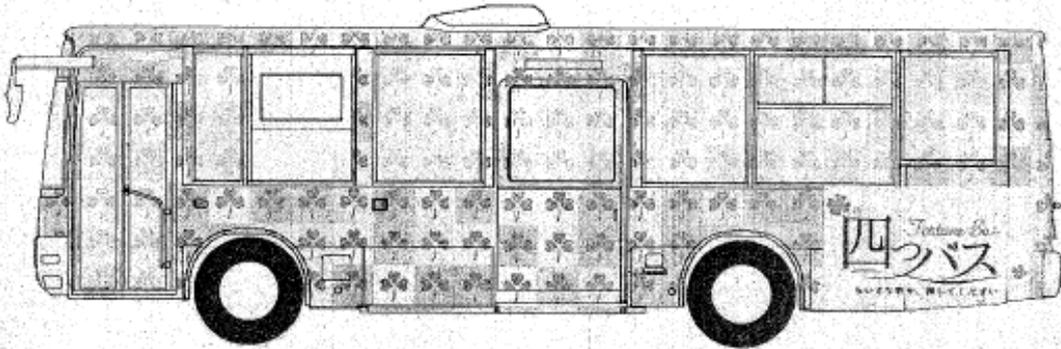


空いている車内の広告スペースでコンテストを実施
＝出展者の乗車が期待できる

4.4.21.毎日新聞・読売新聞・朝日新聞への掲載（3/20）

西日本工業大学による協議会での発表会は、平成20年3月20日の朝日新聞、読売新聞、毎日新聞に掲載された。新聞記者によると、「自治体の企画ありきで学生が動くのではなく、学生のアイデアにより独創的なアイデアが生まれているのが面白い」とのことであった。最終成果発表は新聞3社に掲載され、学生が参加することによるプロジェクトの周知の効果が見られた。

多くのクローバーの中に一つだけ四つ葉が描かれたデザインの路線バスの一覧



会議でアイデアを発表する西工大生（中央巻）

太陽交通バス、停留所の新デザイン

行橋市と西工大が考案

行橋市と西日本工業大（本部・苅田町）が連携し、市内に路線バスのある太陽交通（本社・行橋市）のバスや停留所の新しいデザインなどを考案した。高等教育機関と自治体が協働で公共交通のあり方を考える、九州運輸局の今年度事業の一端。同大の学生たちは19日、考えた案を市役所で関係者に披露した。

【荒木俊雄】

事業は公共交通の利便性の向上、ユーザーに悩む運行会社の方角から見てもわかや自治体の打開策に資するよう支柱を三角柱に者の斬新な発想を採り改良。バスの車体は見入れ、利用者増につなげたラッキー」との話題作りにと、多くの管内では公募に名乗りのクローバーに「幸運を上げた行橋市と熊本県水俣市、大分県国東半島の三つの市・地域が参加。行橋市は連携で太陽をイメージした協定を結んでいる西工大とバス停留所や車内は天井や床に地元

学生の斬新な発想披露

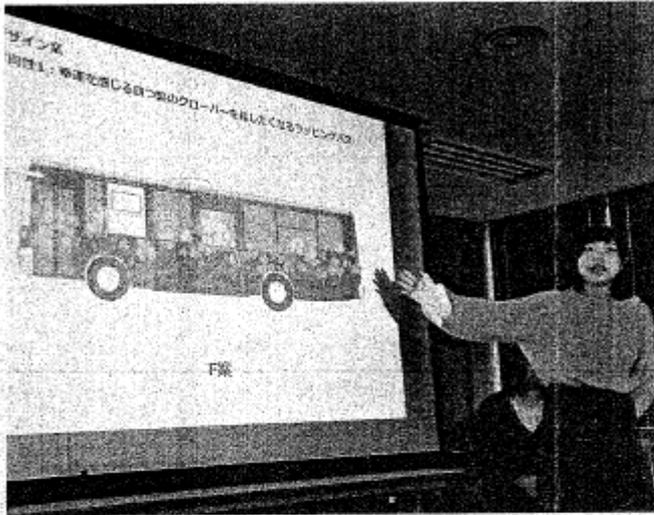
体の内外装のデザインの「京楽ヒノキ」を使った物を提案した。学生は小倉北区にキャンパスのあるデザイン学部の情報デザイン学科9人と建築学科1人の23年生計10人。多くが行橋市内の路線バスの乗車経験がなく、昨年10月から現地調査や模型製作などを実施。バス停は「標識がわかりにくい物があ

図 4-12 毎日新聞の記事（平成30年3月20日）

学生考案のバスと停留所

西工大生デザイン 特別仕様のラッピング

行橋市「事業化目指す」



行橋市は19日、西日本工業大の学生とともに進めてきた市内を走る路線バスの車両と、停留所のデザイン案を発表した。路線バスは、同市の「太陽交通」が運行しており、市は「国や県の補助事業を活用して事業化を目指したい」としている。（高松秀明）

▲ 車両のデザイン案を発表する学生

車両のデザインでは、見た人が幸運を感じることができるようにと、1台だけ特別なラッピングを施した「あたりバス」を提案。また、地元産のヒノキを内装に使用して客室を快適な空間にする案も発表した。バス

若者のアイデアで市内を走る路線バスの利用者を増やそうと、国土交通省九州運輸局の事業を活用して市が実施した。昨秋に西日本工業大とプロジェクトチームを作って作業を進め、19日の市地域公共交通活性化協議会で発表した。デザインを担当したのは、同大の呼びかけで集まった情報デザイン、建築両学科の2、3年生計10人。車両の外装、内装、バス停の3グループに分かれ、現地調査などに取り組み、「わかりやすさ」「思い出作り」を重視して仕上げたという。

停は、どの方向からも見えやすい三角柱にし、地元の京築神楽をイメージして、落ち着いた色づかいとした。このほか、バス停や車内の広告スペースに子どもたちの絵を飾り、市民の思い出づくりに活用するアイデアも披露した。同大建築学科3年の田村優生さん(21)は「プロジェクト

センバツ23日の開幕戦「勝つ」

第90回記念選抜高 九州市八幡西区の東筑の選手らが19日、甲子園に向けて出発した。

同校では出発式が行われ、生徒や教員ら約200人が参加した。中島良博校長が「夏の経験を生かしつつ、挑戦者の気持ちで東筑らしくのびのびとプレーをしてほしい」と激励。応援部や生徒らが校歌を歌い、エールを送った。

松山智乃助主将(17)は「自分たちのプレーをしっかりと、勝って校歌を歌いたい」と決意を語った。式後、選手たちはJR折尾駅に移動し、小倉駅から新幹線に乗り換え、甲子園に向かった。

大会は23日に開幕し、東筑は大会第1日第1試合で聖光学院(福島)と対戦する。

クトに参加して、地域の良いところを知ることができた。みんな力を合わせていいデザインになったので、使ってもらえたらうれしい」と話した。15台のバスで市内11路線を運行している太陽交通は今回の提案について「事業化に向けて、市と協議していく」としている。

図 4-13 読売新聞の記事 (平成 30 年 3 月 20 日)

バスデザイン案 西工大生が提案

太陽交通

行橋市などを走る太陽交通(行橋市)の路線バスの利用促進をめざし、西日本工業大の学生たちが19日、バス停の斬新なデザインやユニークな車体のラッピング、特産の京築ヒノキを使った内装などを提案した。市が国の事業を活用し、大学と協力して昨年から取り組んできた。情報デザイン学科と建築学科の学生10人が3チームに分かれ、路線バスに乗り、バス停を回って課題を洗い出した。模型も試作して提案内容を練り、市役所でこの日に開かれた市地域公共交通活性化協議会で発表した。



車体のラッピング案を発表する学生(行橋市役所)

バスのラッピングでは、このバスを見たらラッキーという話題づくりをめざす案が出た。クローパーの中から幸せを呼ぶとされる四つ葉のクローバーを探したくなるデザインなど9案を提示。内装については、京

築ヒノキをふんだんに使う案や、広告スペースを絵画や写真、川柳などのコンテンツの発表に活用する提案もあった。

市は来年度以降の実現に向けて、国や県の補助も含めた予算確保をめざす。市によると、太陽交通の路線バスは市内とその周辺で11路線を運行し、2016年度は約25万人の利用があった。

首位フクオカ7連勝

2位熊本と週末対戦



プロバスケットボールBリーグ2部(B2)で西地区首位のライジングゼファークオカは17、18日、同地区の広島を福岡市民体育館に迎えた。87-82、86-82と連勝を7に伸ばした。今週末には地区2位の熊本との直接対決に敵地に乗り込む。B1昇格に向けて正念場を迎える。

18日の試合でフクオカは第3クォーター終了までに15点差をつけるなど試合をリード。終盤に2点差まで詰められたが、今季のチーム得点王エリック・ジェイコブセン選手がファウルで得たフリースロー2本を確実に沈め勝負を決定づけた。

これでフクオカは今季37勝7敗。ホームで喫したのはずが1敗で、40勝4敗でB2勝率1位の秋田(東地区)の2敗より少なく、ホームでの強さが光る。

そのフクオカにとって、週末の熊本との首位決戦が鍵となりそうだ。熊本は現在32勝12敗で、フクオカにはやや離れているが、モチベーションは高いと見られる。3月31日、4月1日に秋田と飯塚第一体育館で



18日の試合でMVPに選ばれたパブ月選手(福岡市博)

情報デザイン学科3年の青木仁志さん(20)は「頑張ったので、ぜひ採用してほしい」と期待を込めた。(久恒勇逸)

図 4-14 朝日新聞の記事(平成30年3月20日)

4.5. 国東：広域観光における公共交通の活用

4.5.1. 概要とプログラム

大分大学経済学部大井ゼミは、大分県観光・地域振興課との共同調査・研究として、開山 1300 年を迎える六郷満山を有する国東半島の広域観光振興の検討を進め、その一部として広域観光における地域公共交通の活用提案を行った（中津-大分空港エアライナーと乗合タクシーの活用）。

コンサルタントから大井准教授には、9 月に本業務の実施フィールドとして依頼して、10 月のゼミで学生達と初顔合わせを行った。大井研究室では、後期のゼミから本格的に国東観光の検討を進めて、12 月には「日本観光研究学会九州・韓国南部支部学生論文」で発表（九州運輸局長賞受賞）、1 月には「学内懸賞論文」に提出した。

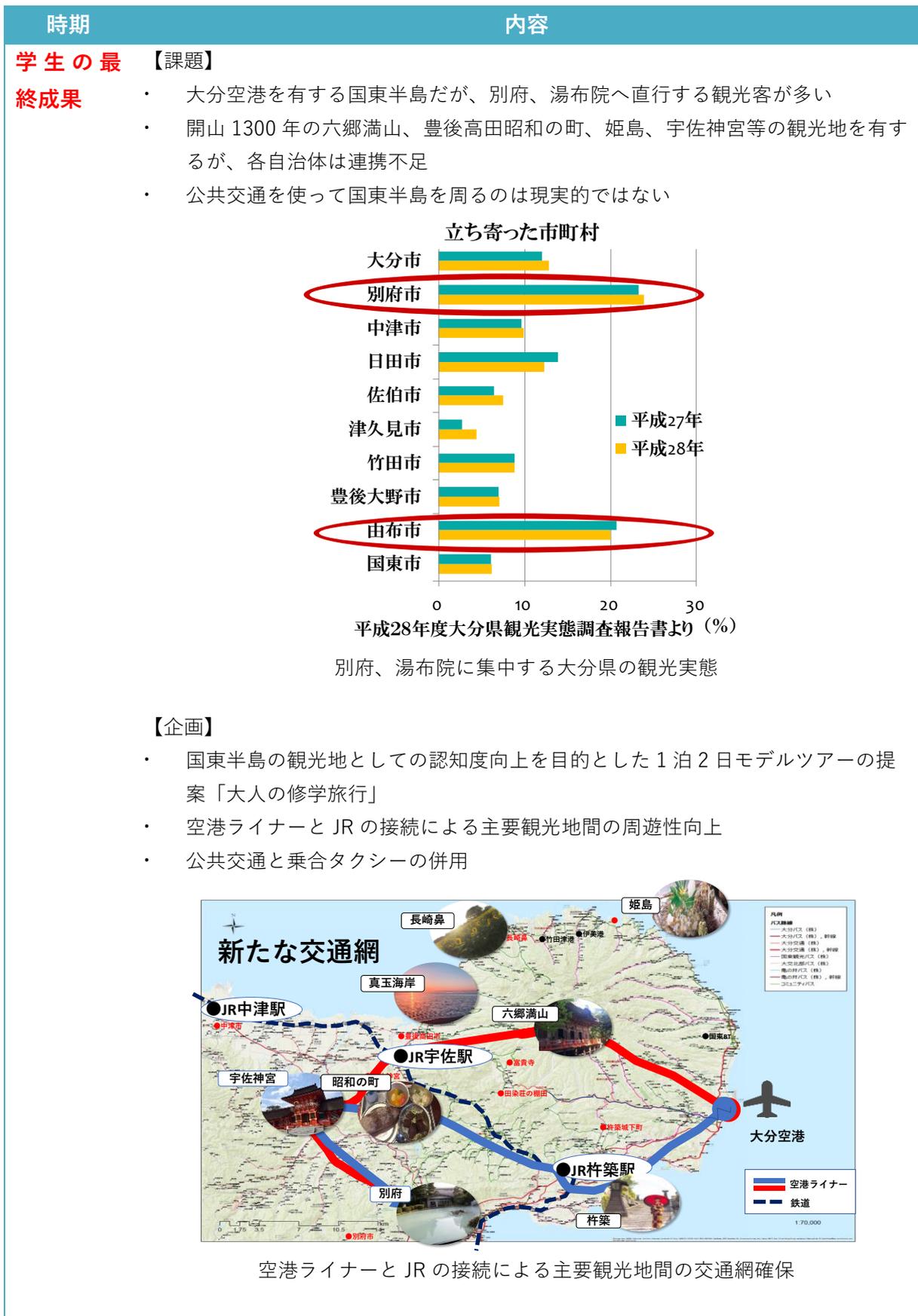
平成 30 年度は、大分県とジェットスター・ジャパンの包括連携協定（平成 29 年 7 月締結）に基づき、大井准教授の授業かゼミ内において、国東観光の検討を続ける予定である。

表 4-7 年間プログラムとコンサルタントの参加・支援実施日

日付	取り組み	実施項目	結果	参加支援
7 月上旬	大分県観光・地域振興課と大井准教授の事前協議	・ テーマの設定	・ 「国東半島の観光振興」をテーマにして、大分県と多いゼミで共同研究を進める。	
7/18	大分県によるガイドランス	・ 大分県によるガイドランス		
9/30	大分県と大井ゼミによる六郷満山視察	・ 六郷満山（小城官能展望公園、両子寺、五辻不動など）の現地視察	・ 大分県は「六郷満山開山 1300 年」をテーマに据えるが、大学生は「あまり興味を示さない」というギャップが発生	
9 月	本事業の実施フィールドとして打診	・ 本事業への参画依頼	・ 大分県と大井ゼミの共同調査・研究を本事業の実施フィールドにする。	●
10/3	ゼミ（キックオフ会議）	・ 大分県との現地視察の振り返り ・ プロジェクトの進め方について自由意見交換	・ 大学生が行きたい場所を選び再度現地調査する ・ 車チームとバスチームに分かれて現地調査する	●
10/10	ゼミ	・ 現地調査の計画検討	・ 車チームとバスチームの工程を決定した。	●

10/13	現地調査	<ul style="list-style-type: none"> 車チーム、公共交通チームに別れて現地調査 既存の観光モデルコースの情報収集 企画アイデアの検討 	<ul style="list-style-type: none"> 貸切バスツアーの企画アイデアが浮上 	●
10/17	ゼミ	<ul style="list-style-type: none"> 調査振り返り 企画案の具体化 		
10/24	ゼミ	<ul style="list-style-type: none"> 空港ライナー、路線バス、JRの接続確認 国東ロングトレイルにおける公共交通の活用検討 	<ul style="list-style-type: none"> 空港ライナーは活用の可能性があるため検討を進める ロングトレイルは検討が難しいため断念した 	●
10/31	ゼミ	<ul style="list-style-type: none"> 日本観光研究学会懸賞論文への投稿論文の作成開始 	<ul style="list-style-type: none"> 論文の執筆を開始した 	
11/7	ゼミ	<ul style="list-style-type: none"> 論文執筆 	<ul style="list-style-type: none"> 論文の執筆を進めた 	
11/14	ゼミ	<ul style="list-style-type: none"> 論文執筆 	<ul style="list-style-type: none"> 論文の執筆を進めた 	
11/21	ゼミ	<ul style="list-style-type: none"> 論文執筆 	<ul style="list-style-type: none"> 論文を校正した 	●
11/24	日本観光研究学会論文の提出	<ul style="list-style-type: none"> 論文の提出 		
11/28	ゼミ	<ul style="list-style-type: none"> 論文発表資料準備 	<ul style="list-style-type: none"> 発表資料を準備した 	
12/5	ゼミ	<ul style="list-style-type: none"> 論文発表資料準備 	<ul style="list-style-type: none"> 発表資料を準備した 	
12/9	日本観光研究学会論文の発表	<ul style="list-style-type: none"> 論文発表 	<ul style="list-style-type: none"> 九州運輸局賞を受賞 	
12/12	ゼミ	<ul style="list-style-type: none"> 学内論文の執筆開始 	<ul style="list-style-type: none"> 論文の執筆を進めた 	
12/19	ゼミ	<ul style="list-style-type: none"> 学内論文執筆 	<ul style="list-style-type: none"> 論文の執筆を進めた 	
12/26	ゼミ	<ul style="list-style-type: none"> 学内論文執筆 	<ul style="list-style-type: none"> 論文の執筆を進めた 	
1/9	ゼミ	<ul style="list-style-type: none"> 学内論文執筆・発表準備 	<ul style="list-style-type: none"> 論文執筆、発表資料準備を進めた 	
1/16	ゼミ	<ul style="list-style-type: none"> 学内論文執筆・発表準備 	<ul style="list-style-type: none"> 論文執筆、発表資料準備を進めた 	
1/19	学内論文提出	<ul style="list-style-type: none"> 論文の提出 		
1/23	学内論文発表	<ul style="list-style-type: none"> 論文発表 	<ul style="list-style-type: none"> 論文執筆、発表資料準備を進めた 	●
2月	大分県への論文送付			

4.5.2. 国東のプロジェクトのポイント



大分県観光・地域振興課によるガイドンス (7/18)

国東半島の広域観光振興を目的に、大分県観光・地域振興課より大井ゼミの学部3年生6名にガイドンスがなされた。



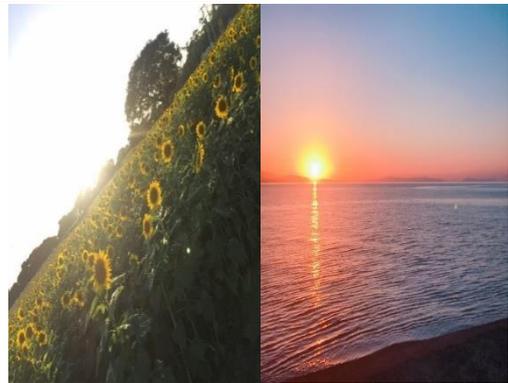
大分県観光・地域振興課によるガイドンス資料

六郷満山視察 (大分県と大井ゼミ) (9/30)

- 大分県は「六郷満山開山 1300 年」をテーマに据えるが、大学生は「あまり興味を示さない」というギャップが発生
- 一方学生は長崎鼻や真玉海岸などの観光スポットに興味



五辻不動



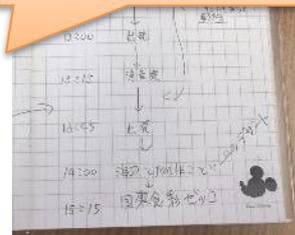
長崎鼻のひまわりと真玉海岸の夕陽

- 大分県観光・地域振興課と大井ゼミでの六郷満山視察後に、コンサルタントと大井ゼミのキックオフ会議を実施
- 大分県のテーマ設定とのギャップを解消するために、大学生が行きたいスポットを周る現地調査を計画した
- 大学生から車でも回りたいという意見があり、車チームとバスチームに分かれて公共交通の検討を進めることとした
- 現地調査で行きたい場所、見たい場所は大学生から提案してもらった。



現地視察の振り返り

Point 大人のテーマ設定と学生の企画検討の自由度のバランス



大学生の行きたい場所を再度現地調査

**現地調査
(10/13)**

- ・ バスチームと車チームに分かれて現地調査を実施
- ・ 「昭和の町」「姫島」に魅力がある
- ・ 商店街で各自治体の連携不足についてヒアリング
- ・ 路線バス国大線の距離が長すぎて観光利用として現実的ではない事を確認
- ・ 国東半島の観光資源を貸切バスで巡る「修学旅行」のアイデアが浮上。修学旅行であれば「奈良の大仏」のように六郷満山などのお寺もコースに取り入れやすい



大分空港



昭和の町の観光



陶芸工房でのヒアリング



国大線での観光地周遊 JR 宇佐駅(大分空港中津ライナー) 観光協会での情報収集

**ゼミ内での
検討
(10/17-)**

- ・ ダイヤ接続や既存の観光資源について学生自身で検討
- ・ 路線バスを乗継ぎ、国東半島を1日で回るのは現実的でないこと
- ・ 中津ー空港のエアライナーは国東の主要観光地をまわること
- ・ 既存の国東半島の観光パンフレットには公共交通の利用方法がほとんど記載されていない



Point 大人による専門的な検討
方法の提示

4.5.3. 大分県観光・地域振興課と大井准教授の協議（7月）

大分県観光・地域振興課より大井准教授に「国東半島の観光振興」をテーマにした広域観光の共同調査・研究の依頼がなされ、大井研究室の研究テーマとして取り組むこととなった。大井研究室は学内の「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」にて活動費を確保、大分県観光・地域振興課は実施フィールドや情報提供による協力を行う。

※記述の仕方について※
プロセスや企画に関する重要な点・良い点
プロセスや企画に関する課題・反省点

4.5.4. 大分県によるガイダンス（7/18）

国東半島の広域観光を検討するため、大分県観光・地域振興課より、大井ゼミの学部3年生6名にガイダンスがなされた。

実施期日	平成 29年 7月 18日（火） 16:30～18:00
実施場所	大分大学 ゼミ室
実施状況	<p>・大分県観光・地域振興課によるガイダンス</p> <p>【資料】</p> <p>1) 観光の現況について</p> <p>2) 国東半島宇佐地域六郷満山 1300年について</p> <p>【出席者】 大分県観光・地域振興課 大井准教授 ゼミ生：宮里、弥永、野村、坂本、椎葉、河野</p>

観光とは

観光

易経：
観国之光，利用賓于王（国の光を観る。用て王に賓たるに利し）

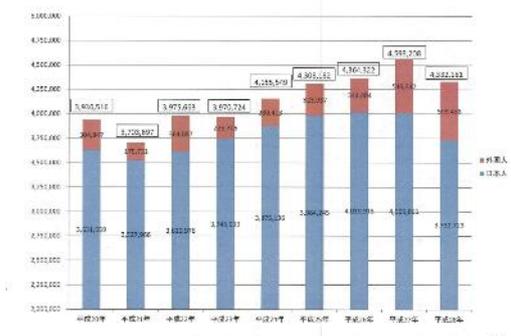
国（地域）の光とは





（参考）ツーリズムの定義
 「観光学校に入る。会社の海外拠点に配置されるといったことを除くさまざまな目的のため、たとえば休暇をとる、友人や地帯を訪ねる、会合に出席するといった目的のために、家を離れて一泊以上過ごすことである。」英田敦行観光庁長

大分県発地別宿泊者数



※外県人
※県内人

六郷満山のキーワード

神仏習合



仁聞菩薩



石造文化



鬼の存在



六郷満山の魅力①～国主富貴寺 他～



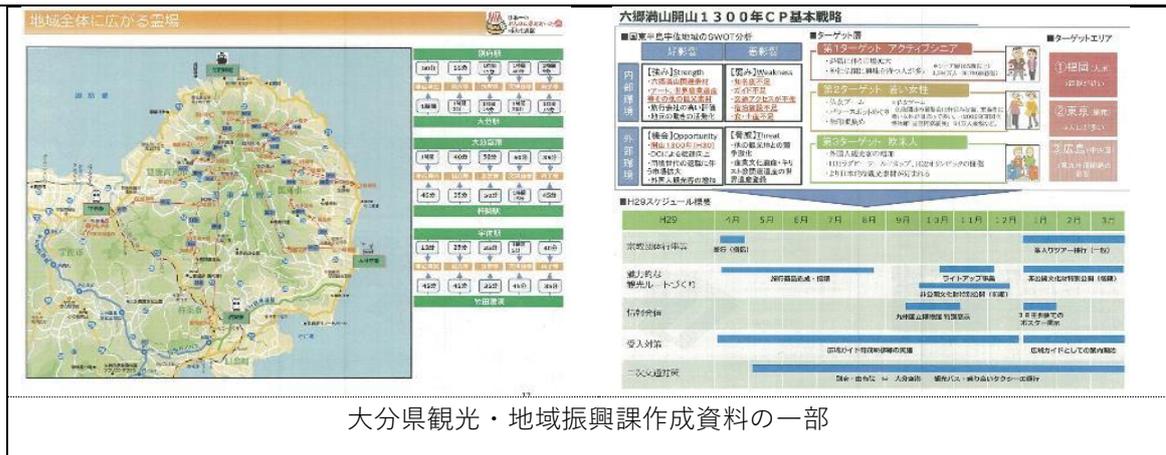
国主富貴寺（日蓮宗）
 大分県を統一した国君が菩提に願った寺院。日蓮の未形宗に由来を構えるかの如く山門が堂々として見わたっている。



国宝 九州最古の木造建築 富貴寺

富貴寺は、宇佐神宮の引道によって開かれた寺院であり、中でも本尊（阿彌陀尊）は高麗彫刻の仏造像であり、国東地方で唯一の国東地方の中期平安時代と推定される彫刻の宝庫と見なされる。また、本堂の中で、所縁を結ぶ、住職の証書等が、富貴寺の歴史を知る手がかりです。

本堂の彫刻や装束などは、現在ながらその古い時代の経路の中で変化していますが、建立当時の姿を再現した宝物大観音が大分県立歴史博物館（宇佐市）に展示されています。富貴寺の歴史や現在の様子を知ることができます。ぜひ富貴寺の歴史や文化を伝える富貴寺の歴史館の歴史を感じさせる富貴寺の扉を覗き込んでみてください。あわせて見ていただくことをお薦めします。



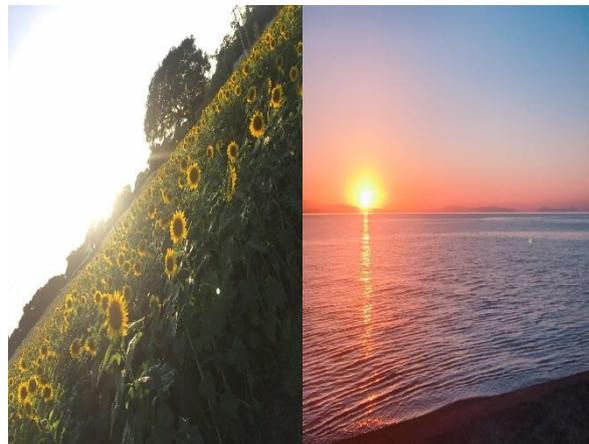
4.5.5. 大分県と大井ゼミによる六郷満山視察（9/30）

大分県観光・地域振興課と大井ゼミで六郷満山の視察を行った。

実施期日	平成 29 年 9 月 30 日（土）9:30～18:00
実施場所	国東半島、六郷満山
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 下記の工程に従い、六郷満山の現地視察がなされた。 9:30 : 大分駅 9:30 - 10:45 : 小城官能展望公園 11:50 - 12:30 : 両子寺 12:40 - 13:20 : 両子河原座（昼食） 14:20 - 14:50 : 五辻不動（お寺から見える絶景） 15:20 - 16:30 : とう音寮（アート鑑賞、カフェ） 18:00 : 大分駅 <p>【出席者】大分県観光・地域振興課 大井准教授 ゼミ生：宮里、弥永、野村、坂本、椎葉、河野</p>



五辻不動



長崎鼻のひまわりと真玉海岸の夕陽

4.5.6. 本事業の実施フィールドとして大井准教授に打診（9月）

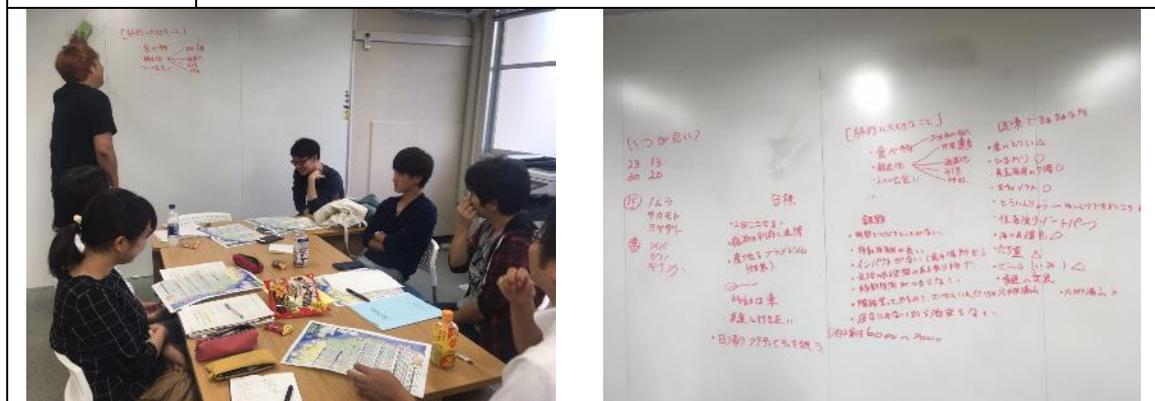
コンサルタントから大井准教授に本事業の実施フィールドとして参加の打診をして、「国東半島の広域観光」の一部として、公共交通の検討を行うこととした。

4.5.7. ゼミ：コンサルタントとのキックオフ会議（10/3）

コンサルタントが大井ゼミに初めて参加して、六郷満山の現地視察の振り返りと今後のプロジェクトの進め方について協議した。協議の中で、大分県は「六郷満山開山 1300年」をテーマに据えるが、大学生は「あまり興味を示さない」というギャップが発生している事が判明した。

一方、長崎鼻のひまわりや真玉海岸の夕陽等を楽しかったスポットとして挙げており、ゼミ生が行きたいスポットを探して、もう一度現地調査を行うこととした。また車でも回りたいという意見があり、車チームとバスチームに分かれて現地調査をすることとした。

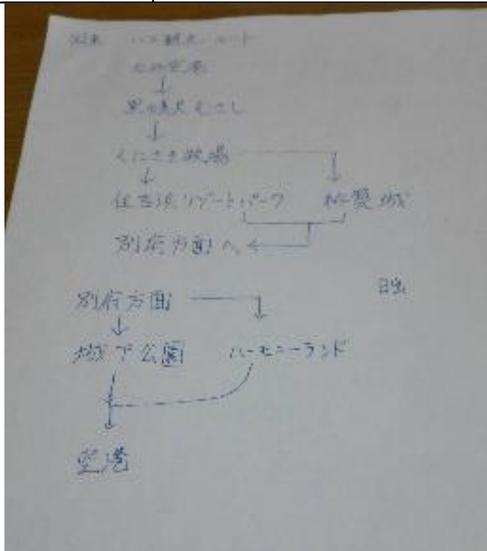
実施期日	平成 29 年 10 月 3 日（火） 16:30～18:00
実施場所	大分大学 ゼミ室
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 9/30 の現地調査の振り返りと今後の調査の進め方について協議した。 <p>【議題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 9/30 の現地調査の振り返り 2) 今後の調査の進め方について <ul style="list-style-type: none"> ・ 旅行する上で大切な点、国東観光の良い点、課題の洗い出しを行った。 ・ <u>「六郷満山」は若者にとって、必ずしも魅力的な観光スポットとは限らないため、ゼミ生が行きたいスポットを探して、もう一度現地調査を行う。</u> ・ 現地調査は「路線バスチーム」、「車チーム」の2つに分かれる。 ・ 現地調査を行う際に、既存の公共交通機関の接続状況の確認、観光情報を収集する。 <p>【出席者】 大井准教授 ゼミ生：宮里、弥永、野村、坂本、椎葉、河野 日本工営：白石、行徳</p>



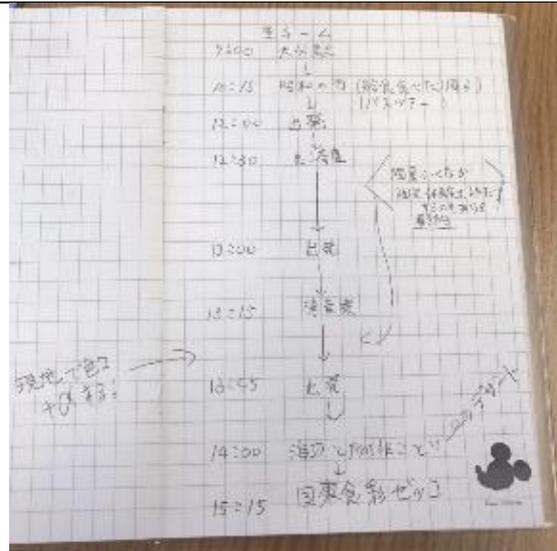
4.5.8. ゼミ：現地調査内容の検討（10/10）

ゼミ生が、現地調査で行きたい場所と行程表を「車チーム」「バスチーム」に分かれて検討した。

実施期日	平成 29 年 10 月 10 日（火） 16:30～18:00
実施場所	大分大学 ゼミ室
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・次回現地調査で行きたい場所と行程表を「バスチーム」「車チーム」に分かれて行った。 <p>【議題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 次回現地調査の工程表検討 <ul style="list-style-type: none"> ・路線バスチームは、路線バス国大線の沿線の、大分空港、里の駅むさし、住吉浜リゾートパーク、杵築城を周り、別府方面に向かうルートとした。 ・車チームは、昭和の町（豊後高田市）、長崎鼻、清音寮、陶房ふくなが（陶芸体験）、海辺の珈琲こたりを巡る。 <p>【出席者】 大井准教授 ゼミ生：宮里、弥永、野村、坂本、椎葉、河野</p>



路線バスチーム



車チーム

4.5.9. 現地調査（10/13）

平成 29 年 10 月 13 日(金)に、バスチームと車チームに分かれて、現地調査を行った。現地調査の結果、観光資源と現状の公共交通の接続の課題を把握した。企画アイデアとして、国東半島の観光資源を 貸切バスで巡る「修学旅行」のアイデアが浮上した。

公共交通を活用した観光ルートは、次回以降のゼミで検討することとした。

実施期日	平成 29 年 10 月 13 日（金） 16:30～18:00
実施場所	大分大学 ゼミ室
実施状況	<p>現地調査の目的</p> <p>目的 1：今回はモデル観光・コース提案のための、ロングリストづくり。</p> <p>目的 2：既存の公共交通、観光、モデルコースの情報収集</p> <p>目的 3：上記調査を踏まえて、モデル観光・コース原案作成</p> <p style="text-align: center;">【現地調査コース】</p> <p style="text-align: center;">1) 空港→別府の観光客を路線バスによる取り込み</p> <p style="text-align: center;">2) 若者を対象として、日帰りドライブコース</p> <p>・現地調査の振り返りでの主な意見は下記の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 「昭和の町」「姫島」に魅力がある ➢ 商店街で各自治体の連携不足についてヒアリング ➢ 路線バス国大線の距離が長すぎて観光利用として現実的ではない事を確認 ➢ 国東半島の観光資源を <u>貸切バスで巡る「修学旅行」のアイデアが浮上。</u> <u>修学旅行であれば「奈良の大仏」のように六郷満山などのお寺もコースに取り入れやすい。</u> <p>・公共交通を活用した観光ルートは、次回以降のゼミで検討することとした。</p> <p>【出席者】ゼミ生：宮里、弥永、野村、坂本、椎葉、河野 日本工営：高峯、行徳</p>

路線バスチーム（宮里、坂本+高峯）			車チーム（野村、椎葉、カワノ+行徳）		
時間	内容	備考	時間	内容	備考
8:30集合	大分駅北口バス1番乗場集合		8:30集合	大分駅北口	観光情報収集
8:55- 10:00	空港エアライナー移動	大分→大分空港ライナー		車移動 大分駅→宇佐神宮	
10:00 - 10:35	大分空港・里の駅むさし	観光情報収集	9:30- 9:45	宇佐神宮	
10:43 - 11:03	国大線バス移動	大分空港→住吉浜入口	10:00 - 11:00	昭和の町	給食・バスツアー
11:10 - 11:50	住吉浜リゾートパーク	アクティビティ、観光情報収集	11:15 - 11:30	長崎鼻	
12:03 - 12:15	国大線バス移動	住吉浜入口→杵築バスT	11:45 - 12:15	涛音寮・陶房ふくなが見学・姫島行きフェリー乗場	アクティビティ、観光情報収集
12:20 - 14:20	杵築城、杵築観光協会	昼食、観光情報収集	12:30-	海辺と珈琲ことり	
14:30 - 15:19	国大線バス移動	杵築バスT→別府北浜	13:30-	国東食彩ゼッコ	
15:30 - 16:00	別府観光協会	観光情報収集	14:30-	道の駅くにさき くにさき観光案内所	観光情報収集 サイクリング情報
路線バスチーム。車チームで合流					
16:00 - 17:00	結果振り返り モデル観光ルート検討	トキハもしくは周辺施設	路線バスチームと合流		
17:00-	解散@JR別府駅				

空港→別府の観光客を路線バスでの取り込み 若者を対象として、日帰りドライブコース



大分駅での観光情報収集



宇佐神宮



空港



JR 宇佐駅(大分空港⇄中津ライナー4本/日)



里の駅むさし



昭和の町 (学校給食)



国大線バス移動 (大分空港⇄大分駅)



陶房ふくなが



杵築城

姫島丸運航時刻表		運賃表		運賃表		運賃表	
原	姫島丸	伊予	松山	旅客運賃	伊予松山間	運賃表	運賃表
1	8:30	3	6:30	大人片道700	大人片道240	大人片道240	大人片道240
2	6:55	2	7:30	大人片道290	大人片道240	大人片道240	大人片道240
3	8:05	3	8:40	大人片道330	大人片道240	大人片道240	大人片道240
4	9:15	4	9:50	大人片道370	大人片道240	大人片道240	大人片道240
5	10:25	5	11:00	大人片道410	大人片道240	大人片道240	大人片道240
6	11:35	6	12:10	大人片道450	大人片道240	大人片道240	大人片道240
7	13:00	7	13:35	大人片道490	大人片道240	大人片道240	大人片道240
8	14:10	8	14:45	大人片道530	大人片道240	大人片道240	大人片道240
9	15:20	9	15:55	大人片道570	大人片道240	大人片道240	大人片道240
10	16:30	10	17:05	大人片道610	大人片道240	大人片道240	大人片道240
11	18:00	11	18:45	大人片道650	大人片道240	大人片道240	大人片道240
12	19:15	12	19:45	大人片道690	大人片道240	大人片道240	大人片道240

姫島フェリー乗り場（時刻表）



別府市観光案内所での観光パンフレット収集



調査の振り返り

4.5.10.ゼミ：現地調査振り返り（10/17）

現地調査の結果より、大人の修学旅行貸切バスツアーについて、具体化に向けた検討を進めた。

実施期日	平成 29 年 10 月 17 日（火） 16:30～18:00
実施場所	大分大学 ゼミ室
実施状況	<p>・現地調査の振り返りを行い、大人の修学旅行貸切バスツアーについて、具体化に向けた検討を進めた。</p> <p>【議題】</p> <ol style="list-style-type: none">1) 現地調査の振り返り2) 大人の修学旅行貸切バスツアーの具体化3) 公共交通の接続検討 <p>3) 公共交通の接続検討</p> <p>・公共交通の接続状況を確認するために、資料収集を行った。</p> <p>【出席者】 大井准教授 ゼミ生：宮里、弥永、野村、坂本、椎葉、河野</p>

4.5.11.ゼミ：公共交通機関の接続検討（10/24）

現地調査の結果より国大線を活用した杵築観光以外の、公共交通を活用した観光の可能性を探るために、公共交通の接続確認、モデル観光ルートの洗い出しを行った。大人の修学旅行バスツアーについては、具体化に向けて検討を進めていった。その結果、「路線バスを乗継ぎ、国東半島を1日で回るのは現実的でない」「ノースライナーを活用すれば、国東半島の主要な観光地を巡ることができるため、ノースライナーを国東観光における公共交通として検討する」こととした。

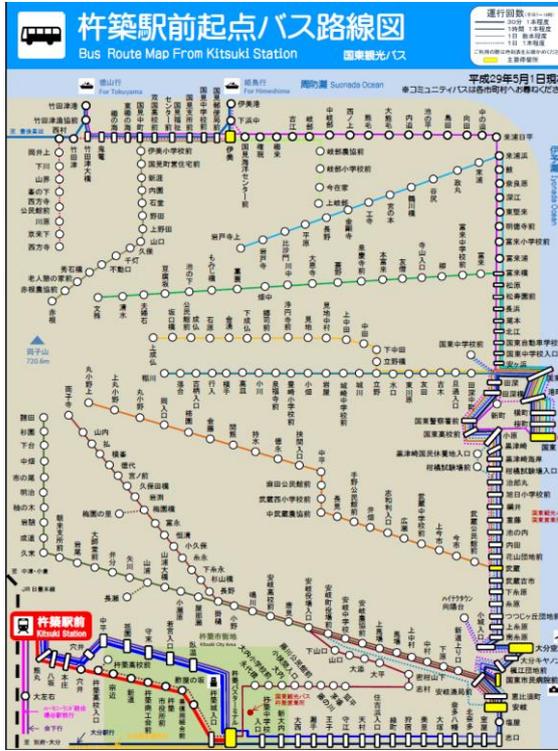
大井教授やコンサルタントにより専門的な検討方法をゼミ生に提示しながらこれらの検討を進めた。

実施期日	平成 29 年 10 月 24 日（火） 16:30～18:00
実施場所	大分大学 ゼミ室
実施状況	<p>・現地調査の結果より国大線を活用した杵築観光以外の、公共交通を活用した観光の可能性を探るために、公共交通の接続確認、モデル観光ルートの洗い出しを行った。大人の修学旅行バスツアーについては、詳細を検討していくこととなった。</p> <p>【議題】</p> <p>公共交通チーム</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 公共交通の接続確認 2) モデル観光ルートの洗い出し <p>貸切バスツアーチーム</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 大人の修学旅行の具体化に向けた検討 <p>・公共交通を確認したところ、下記の公共交通機関があることを確認した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 路線バス <ul style="list-style-type: none"> ・国大線（大分空港⇄大分駅） ・竹田津、東国見線（大分空港⇄竹田津港） ・伊美線（宇佐駅⇄伊美港） ➤ 空港ライナー <ul style="list-style-type: none"> ・中津方面（大分空港⇄中津） ➤ JR <ul style="list-style-type: none"> ・日豊本線（国東周辺の主要な駅：中津駅、宇佐駅、杵築駅、別府駅、大分駅） ➤ フェリー <ul style="list-style-type: none"> ・姫島港（姫島行） ・竹田津港（徳山行） <p>・結節点は、大分空港、大分交通国東営業所、竹田津港・伊美港、杵築バスターミナル、JR 宇佐駅、JR 杵築駅。</p> <p>・各結節点で乗換が必要になるため、<u>公共交通手段を利用して国東半島を 1 周する観光は困難である</u>ことが確認された。</p> <p>・空港ライナー（大分空港⇄中津：ノースライナー）のバス停を調べたところ、六郷満山、豊後高田（昭和の町）、宇佐八幡、JR 宇佐駅にバス停があることが分かった。</p> <p>・<u>ノースライナーを活用すれば、国東半島の主要な観光地を巡ることができるため、ノースライナーを国東観光における公共交通として位置付ける</u>こととした。</p> <p>・ノースライナーは、杵築、JR 杵築駅等とも接続することで、空港から直接別府に行っている観光客が国東半島の観光地に立ち寄り、その後別府に行く流れを生み出す。</p>

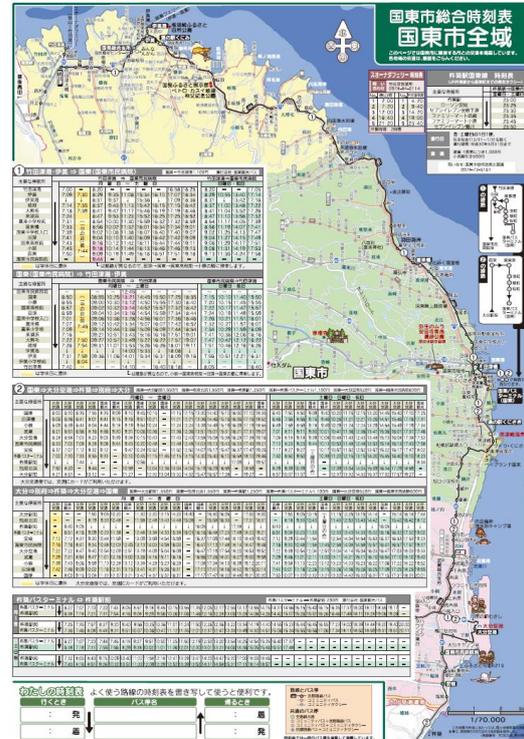
【出席者】大井准教授

ゼミ生：宮里、弥永、野村、坂本、椎葉、河野

日本工営：高峯、行徳



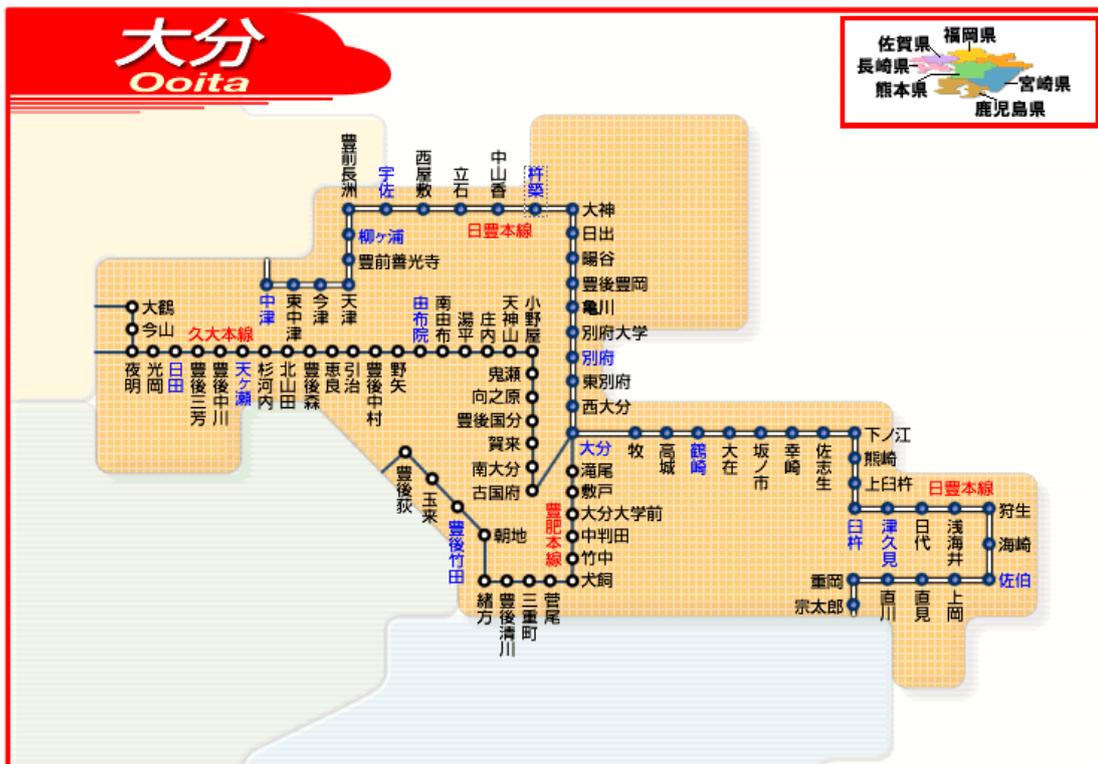
杵築駅前起点バス路線図 (国東観光バス)



国東市総合時刻表 (国東市)



宇佐駅前起点バス路線図 (大分交通)



JR九州（中津駅、宇佐駅、杵築駅、別府駅）

■特別公開周遊観光バス 販売開始予定 7月中旬

★秋の非公開文化財特別公開プレミアムコース ★特別公開(内覧)を実施

実施日 平成29年10月7日～12月10日の間の上・日・祝日運行
※各日10名様から出発可能。(出発日に192名 出発人数を限定)
※乗車時間約3日間(送)乗車予約制で予約・出発決定後1日でも変更が効かない場合があります。
※当日の参加人数により2回に分けて運行する場合がございます。
※各乗車1回限りです。
※料金に含まれるものは、バス料、各寺院等の拝観料、昼食代、旅行保険料となります。

六郷コース
 料全 7,000円
【杵築駅発 10:45発予定】⇒★釈迦堂⇒★真木大宮⇒★富貴寺⇒★大分空港⇒★天志寺(中津)⇒★宇佐(17:10頃)

満山コース
 料全 8,000円
【別府発 8:30発予定】⇒由布院(8:45)⇒宇佐(10:15)⇒★富貴寺⇒★長安寺⇒★文殊仙寺⇒★高子寺⇒★大分空港(下船のA)⇒杵築駅(下船のA)⇒由布院⇒別府(18:20頃)

仁聞コース
 料全 8,000円
【別府発 8:30発予定】⇒由布院(8:45)⇒宇佐(10:15)⇒★富貴寺⇒★真木大宮⇒★高子寺⇒★泉福寺⇒★大分空港(下船のA)⇒杵築駅(下船のA)⇒湯布院(下船のA)⇒別府(18:10頃)

問合せ先 同型中

★文殊仙寺護摩供養と両子寺・泉福寺特別拝観
 【出発日限定】平成29年11月18日(土)、19日(日)、25日(土)、26日(日)
 【大分発 9:00発】⇒別府⇒杵築⇒★両子寺⇒★泉福寺⇒★文殊仙寺⇒★大分空港
 ⇒杵築⇒別府⇒大分(17:50頃)
 【料金】大分・別府発 大人9,000円 子ども7,000円 杵築駅発 大人8,500円 子ども6,500円
 問合せ先 同型中

★ボンネットバスで巡る宇佐神宮本殿特別参拝と富貴寺・真木大宮特別拝観
 【出発日限定】平成29年11月3日(金)、11月4日(土)、11月5日(日)
 【宇佐駅発 10:15発】⇒大分県立歴史博物館⇒宇佐神宮(昭和の町)⇒★富貴寺⇒★真木大宮⇒宇佐(16:30頃)
 【料金】おと28,000円 こども26,000円
 問合せ先 豊後高田町観光まちづくり株式会社 ☎0978-23-1800

■ライトアップ周遊観光バス
 ライトアップ実施日に大分・別府発周遊バスを運行。詳細が決定次第お知らせします。

■ろくごうライナー 【大分空港発～大分・別府着 ミニ観光バスプラン】
 【運行日】平成29年10月7日～平成29年12月10日の間、土・日・月曜日運行
 (午後便) 大分空港発(13:15分)→両子寺・文殊仙寺→由布院→別府着(18:30頃)
 (午前便) 別府発(8:00分)→湯布院→宇佐神宮・富貴寺→大分空港着(12:40頃)
 料金(予定) おと29,000円 こども23,000円 (詳細料はお客様負担)

■国東半島祈りのタクシー 【大分空港発～大分・別府着または由布院着 ミニ観光バスプラン】
 【運行日】平成29年9月～平成29年12月
 大分空港発～別府・大分着 毎週金・土・日・月曜日運行
 大分空港発～由布院着 毎週土・日曜日運行
 料金 両子寺2,000円/人、文殊仙寺2,000円/人、田染荘2,000円/人

2017 秋

国東半島宇佐地域
六郷満山開山1300年
 プレイベント

2017年10月～12月

非公開文化財特別公開
ライトアップイベント

高千穂神楽
 両子寺
 田染荘 千年のきらめき

国東半島宇佐地域・六郷満山開山1300年誘客キャンペーン実行委員会

公共交通を活用した既存の観光ルート

六郷満山ライトアップ周遊観光バス、ろくごうライナー、国東半島祈りのタクシー

大分交通
OITA KOTSU

Google カスタム検索

バス情報 | お得な乗車券 | 貸切バス | 定期観光バス | 会社概要 | 採用情報 | お問い合わせ

ホーム > 空港バス > 時刻表

ご利用の際は
 Daiwa Roynet Hotel OITA
 Daiwa Roynet Hotel OITA
 ホスピタリティホテル
 ホテル法華クラブ
 ARISTON HOTEL OITA
 「繁華街心地」「豪華朝食」
 大妻100%で作った麺

ご予約は、TEL097-534-8811 小浜船・キは期・添加物不使用まで

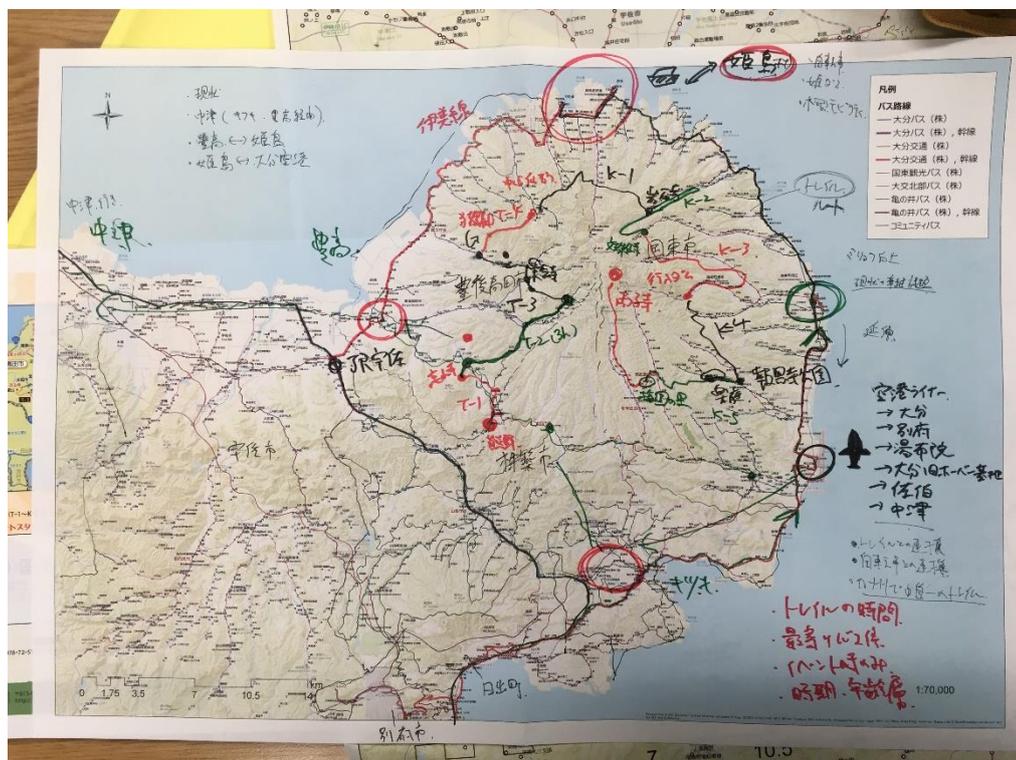
逆区間を見る

大分空港→中津・宇佐
2018年01月10日～2018年02月28日

大分空港	犬丸工業団地前	TOTO前	中津市民病院入口	中津駅前	大妻車庫前
Oita Airport	Inumaru	Toto	Nakatsu Municipal Hospital	Nakatsu Sta.	Osada
10:10	11:42	11:48	11:51	11:57	12:10
13:00	14:32	14:38	14:41	14:47	15:00
16:45	18:17	18:23	18:26	18:32	18:45
18:50	20:22	20:28	20:31	20:37	20:50
大分空港	犬丸工業団地前	TOTO前	中津市民病院入口	中津駅前	大妻車庫前
Oita Airport	Inumaru	Toto	Nakatsu Municipal Hospital	Nakatsu Sta.	Osada

逆区間を見る

空港ライナー(大分空港⇒中津)、主要なバス停のみしか確認できない



JR、路線バス、空港ライナー、フェリーの接続状況整理

4.5.12.ゼミ：論文執筆 (10/31, 11/7, 11/14)

「貸切バスによる大人の修学旅行」と「国東観光におけるノースライナーの活用」の検討を進めて、論文を執筆して、発表資料の準備を進めた。

実施期日	平成 29 年 10 月 31 日, 11 月 7 日, 11 月 14 日 (火) 16:30~18:00
実施場所	大分大学 ゼミ室
実施状況	<p>・貸切バスによる「大人の修学旅行案」と国東観光におけるノースライナーの活用について、論文を執筆して、発表資料の準備を進めた。</p> <p>【検討内容】</p> <ol style="list-style-type: none">1) 貸切バスツアー「大人の修学旅行」2) 国東観光におけるノースライナーの活用3) 若者の観光情報取得方法と SNS による観光情報発信 <p>2) 国東観光におけるノースライナーの活用</p> <p>・既存のノースライナーだけでなく、ノースライナーの改善案についても検討を進めた。</p> <p>3) 観光情報取得方法と SNS による観光情報発信</p> <p>・観光情報の取得は、SNS や口コミが多く、SNS による観光情報発信についても検討した。</p> <p>【出席者】大井准教授 ゼミ生：宮里、弥永、野村、坂本、椎葉、河野</p>

4.5.13.ゼミ：論文執筆 (11/21)

12/9 の日本観光研究学会九州・韓国南部支部学生論文発表に向けて、論文概要 4 ページと発表資料の準備を行った。

実施期日	平成 29 年 11 月 21 日 (火) 16:30～18:00
実施場所	大分大学 ゼミ室
実施状況	<p>・12 月 9 日の日本観光研究学会九州・韓国南部支部学生論文発表に向けて、発表資料の準備を行った。</p> <p>【検討内容】</p> <ol style="list-style-type: none">1) 貸切バスツアー「大人の修学旅行」2) 国東観光におけるノースライナーの活用3) 若者の観光情報取得方法と SNS による観光情報発信 <p>2) 国東観光におけるノースライナーの活用</p> <ul style="list-style-type: none">・国東観光振興のステップとして、まず大人の修学旅行というツアー型で国東の魅力を周知して、次に個人の旅行で来る方にノースライナーを活用してもらおう位置づけとした。・ライナー改善案も含めて、発表資料の準備が進められた。 <p>【出席者】 大井准教授 ゼミ生：宮里、弥永、野村、坂本、椎葉、河野 日本工営：行徳</p>

4.5.14.日本観光研究学会九州・韓国南部支部学生論文での発表（12/9）

日本観光研究学会九州・韓国南部支部学生論文の発表会が行われ、国東観光チームは優秀賞「九州運輸局長賞」を受賞した。公共交通の利用と観光の連携というテーマが九州内でも今やらないといけない課題でありタイムリーであること、国東半島六郷満山 1300 年というタイムリーな地の選定、など着眼点の良さが高く評価された。

実施期日	平成 29 年 12 月 9 日（土）
実施場所	九州産業大学
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・日本観光研究学会九州・韓国南部支部学生論文の発表会が行われ、国東観光チームは優秀賞「九州運輸局長賞」を受賞した。 ・発表の評価として、公共交通の利用と観光の連携というテーマが九州内でも今やらないといけない課題でありタイムリーであること、国東半島六郷満山 1300 年というタイムリーな地の選定、など着眼点の良さが高く評価された。 ・エアライナーの改善に対する評価：現状のエアライナーはビジネス利用者を主なターゲットとして充分利益を得ている。観光活用として売り出す場合、早く目的地につく特徴・印象を損なう（色々止まるイメージがつく）可能性があるため、今獲得できている客を失うリスクがある。よって、変更は現実的には難しい。 ・エアライナー以外の公共交通についても今後検討を進めることとした。 <p>【出席者】大井准教授 ゼミ生：宮里、弥永、野村、坂本、椎葉、河野</p>

大人の修学旅行で 引っ張る国東観光

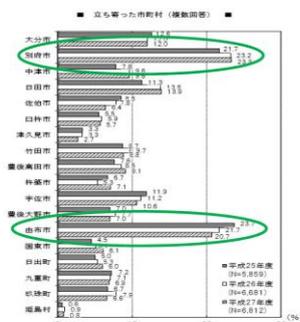
大分大学経済学部3年 大井研究室
宮里 春輝・野村 永・弥永 将治
坂本 司・河野 友唯・椎葉 侑莉子

はじめに

大分県内の観光は、別府・湯布院の温泉がほとんどの割合を占めている。そのため大分県の他の観光地への流動性が低いことが課題である。

本研究の概要

国東半島を対象地域として、県との共同調査に基づいて大分県内の新たな観光の可能性を示す。大分空港を発着拠点としたモデルコース提案を行い、国東半島の観光面における課題と魅力の伝え方について提案する。



現状の公共交通

実際に国東の路線バスを利用してみた



観光スポットを周ることは困難

現状の観光資源

聞き取り調査によれば



- ・国東半島の各自治体の連携がうまくいっていない
- ・観光地のアピールや宣伝が下手

観光客の情報収集

山梨学院の研究によると



情報収集の順序は
スマートフォン→PC→雑誌

課題のまとめ

- ・有名な観光施設が無い
- ・公共交通での観光スポット周遊が困難
- ・自治体間の連携が取れていない
- ・宣伝能力が乏しい



貸切バスツアー「大人の修学旅行」

効果

国東半島の知名度が低い
↓
修学旅行というキャッチーなツアーを考える
↓
観光客の関心を高め、国東半島に足を運んでもらう
↓
リピーターの獲得の繋がる

ツアーでの企画

フォトコンテスト開催
↓
観光客が国東の綺麗な写真を撮り、SNSにアップ
↓
新スポットの発見や口コミが広がる
↓
新しい観光客の獲得



現状のエアライナー



改良版エアライナー (1-1)



改良版エアライナー (1-2)



改良版エアライナー (2)

宣伝方法

オリジナルの観光PRを作成し、YoutubeやSNSなどにアップし、斬新な動画で話題を呼ぶことで、国東の存在を知ってもらう

メリットは

- ・Youtubeなどの媒体を通すことで外国人にも見てもらえる
- ・低コスト
- ・見たい時にいつでも見られる

問題点は

お金をかければ見てもらえるとは限らない

今後の課題

- ・自治体間の協力関係
具体的な協力関係の構築方法の模索
- ・エアライナー利用時の乗り換え
一部目的地に行くまでに乗り換えが必要

おわりに

国東半島を観光地化させるには、観光地を知ってもらうことが重要



方法としてモデルコースやフォトコンテストでの認知度の向上を期待する



論文発表の様子



「優秀賞：九州運輸局長賞」を受賞

4.5.15.ゼミ：学内懸賞論文執筆（12/12, 12/19, 12/26, 1/9, 1/16）

12月12日から1月19日までのゼミでは、大分大学経済学部の学生懸賞論文(20ページ)へ提出するために、論文執筆を進めた。日本観光研究学会でのコメントを受けて、エアライナーから乗合タクシーへの乗り換え、乗合タクシーの料金試算まで行った (大人による専門的な検討方法の提示)。

その後、1月19日に学内懸賞論文に論文20ページを提出した。

実施期日	平成29年12月12日、12月19日、 平成30年1月9日、1月16日、1月19日（火）16:30～18:00
実施場所	大分大学 ゼミ室
実施状況	<ul style="list-style-type: none">・12月12日から1月16日までのゼミでは、大分大学経済学部の学生懸賞論文(20ページ)へ提出するために、論文執筆を進めた。・日本観光研究学会でのコメントを受けて、エアライナーから乗合タクシーに乗り換える案の検討を進めた。・また乗合タクシーの料金試算まで行った（経済学部としての検討）。 <p>【出席者】大井准教授 ゼミ生：宮里、弥永、野村、坂本、椎葉、河野</p>

4.5.16.ゼミ：ゼミ内論文発表（1/23）

投稿した論文の発表会をゼミ内で行った。また発表会後には、本業務に対する満足度、良かった点、悪かった点についてアンケートを実施した。また完成した論文は、大井准教授より大分県観光・地域振興課に送付する。

実施期日	平成 30 年 1 月 23 日（火） 16:30～18:00
実施場所	大分大学 ゼミ室
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・投稿した論文の発表会をゼミ内で行った。 ・12月に指摘された「ライナーの路線変更が現実的ではない」という指摘に対する改善策として、空港からライナー利用後は、乗合タクシー（4人乗りを想定）で国東を観光する提案とした。 ・発表会後には、本業務に対する満足度、良かった点、悪かった点についてアンケートを実施した。 ・執筆した論文は、大井准教授より大分県観光・地域振興課に送付する。 <p>【出席者】大井准教授 ゼミ生：弥永、野村、坂本、椎葉、河野 日本工営：行徳</p>



ゼミ内での最終成果発表

**大人の修学旅行で引っ張る
国東観光**

大分大学経済学部3年 大井研究室
宮里 春輝・野村 永・弥永 将治
坂本 司・河野 友唯・椎葉 佑莉子

目次

1.はじめに	6. 修学旅行モデルコース
2.本研究の概要	7. 宣伝方法
3.国東半島の現状と課題	8. ノースライナー・エアライナーの活用案
4.観光客の分析	9. 乗合タクシーの提案
5.ターゲットの設定・分析	10. おわりに



2.本研究の概要

- *対象地域：国東半島
- *目的：大分県内の新たな観光の可能性を示す
- *方法：県との共同調査に基づいたモデルコース提案
⇒ 観光面における課題と魅力の伝え方についての提案



3.国東半島の現状

***観光資源**

⇒半島各自治体の連携不足
アピール不足

***公共交通**

⇒生活交通が主
観光地巡りは不可能

3.国東半島の課題

- (1)観光地としての**知名度が低い**
- (2)**宣伝能力が乏しい**
- (3)公共交通での**観光スポット周遊が困難**
- (4)**自治体間の連携**が取れていない

4.観光客の分析

***情報収集**: スマートフォン → PC → 雑誌
SNSを見て旅行に行きたくなる人 **60%**
友人・知人の口コミで情報入手

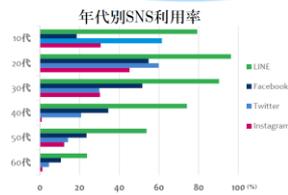
5.ターゲットの選定と分析



5.ターゲットの選定と分析

▶若者の旅行目的

- *観光地巡り
- *癒しのため・のんびりするため
- *おいしい料理を食べるため



6.モデルコースの提案



①六郷満山 ~ 両子寺~



- *2018年 開山1300周年
- *神仏習合

②姫島



- *恵まれた海産物
- *島一周のサイクリング





③ 桝築城下町



- * 着物で散策
- * 外国人に人気

④ 昭和の町



- * 映画のロケ地
- * 給食
- * 懐かしい街並み

⑤ 宇佐神宮



- * 八幡様の総本宮
- * 国宝

⑥ 長崎鼻・真玉海岸



- * ひまわり畑
- * 夕日
- * インスタ映え

ツアーでの企画



効果

- ① インパクトを与え、知名度の低さをカバーする
- ② 興味・関心を持たせる
- ③ 観光客獲得に繋がる

① インパクトを与える

課題

- (1) 観光地としての知名度が低い

⇒ 修学旅行というキャッチーなコンセプト設定でカバー

② 興味・関心を持たせる

課題

- (2) 宣伝能力が乏しい

⇒ ツアーに関心を持ってもらい、実際に足を運んでもらう

③ 観光客獲得に繋がる

課題

- (3) 公共交通での観光スポット周遊が困難

⇒ ツアーバス利用で周遊を可能に

7.宣伝方法

7.宣伝方法

*オリジナルの観光PR動画を作成し、YouTubeにアップ

*各SNSのアカウントを作成し、情報発信

観光PR動画のメリット・デメリット

メリット

- ▶海外の人にも見てもらえる
- ▶費用が抑えられる

デメリット

- ▶見てもらえるか分からない

ツアー観光で観光客を獲得した先には

■ 個人観光客を獲得するためには
交通の整備が必要

■ 現存するエアライナーや
ノースライナーのルート変更

*エアライナー・・・大分空港と大分市、別府市を繋ぐ連絡バス

*ノースライナー・・・大分空港と中津を繋ぐ連絡バス

8.ノースライナー・エアライナーの活用案





実現できれば...

公共交通の交通網の整備
 ↓
 周遊性が向上
 ↓
 リピーター・別府行きの観光客の獲得

エアライナー、ノースライナー改変の課題

- *採算性の低下
⇒連絡バスの本来の目的からずれてしまう
- *路線再編には国への申請が必要

9.乗合タクシーの提案

利用方法

観光客はあらかじめ目的地を決めておく
 ↓
 当日は連絡バスに乗車後、目的地の最寄りのバス停で降車
 ↓
 タクシーで観光スポット周遊
 ↓
 帰りはそのまま空港or別府駅まで送迎

乗合タクシーの効果

- *人と人との出会いの場
- *現地運転手から得られる通な情報
- *乗り換え不要
- *人数によって料金が安くなる

10.おわりに

- *国東半島を観光地化させるには、観光地を知ってもらうことが重要
- *方法: 大人の修学旅行やフォトコンテストでの認知度の向上

ご清聴ありがとうございました 

4.5.17.大分県と大井ゼミとの連携

当初大分県と大井ゼミの共同研究としてプロジェクトが始まったが、序盤は大分県が考えている六郷満山開山 1,300 年とゼミ生の興味が必ずしも一致しておらず、中盤以降は大分県が大井ゼミを訪問していなかった。大井ゼミの提案内容は最終的には六郷満山を盛り込んだ「大人の修学旅行」になったものの、大分県と大井ゼミの連携には課題が残った。

自治体と高等教育機関が連携するプロジェクトを進める場合には、「大人のテーマ設定と学生の興味」「自治体と先生・学生との連絡体制の確立」「自治体による大学の定期的な訪問（重要な場面での訪問）」が重要であると考えられる。

5. 効果の検証、結果の整理

取り組みの効果及び課題を検証し、高等教育機関と自治体が協働した公共交通推進のあり方について整理した。取り組みをケーススタディとして検証すると同時に他の地域においても高等教育機関と自治体の連携を推進する上で参考となるマニュアルを提案する。

下図の通り右の検討材料から左の分析結果を導き出しながらマニュアルを作成した。

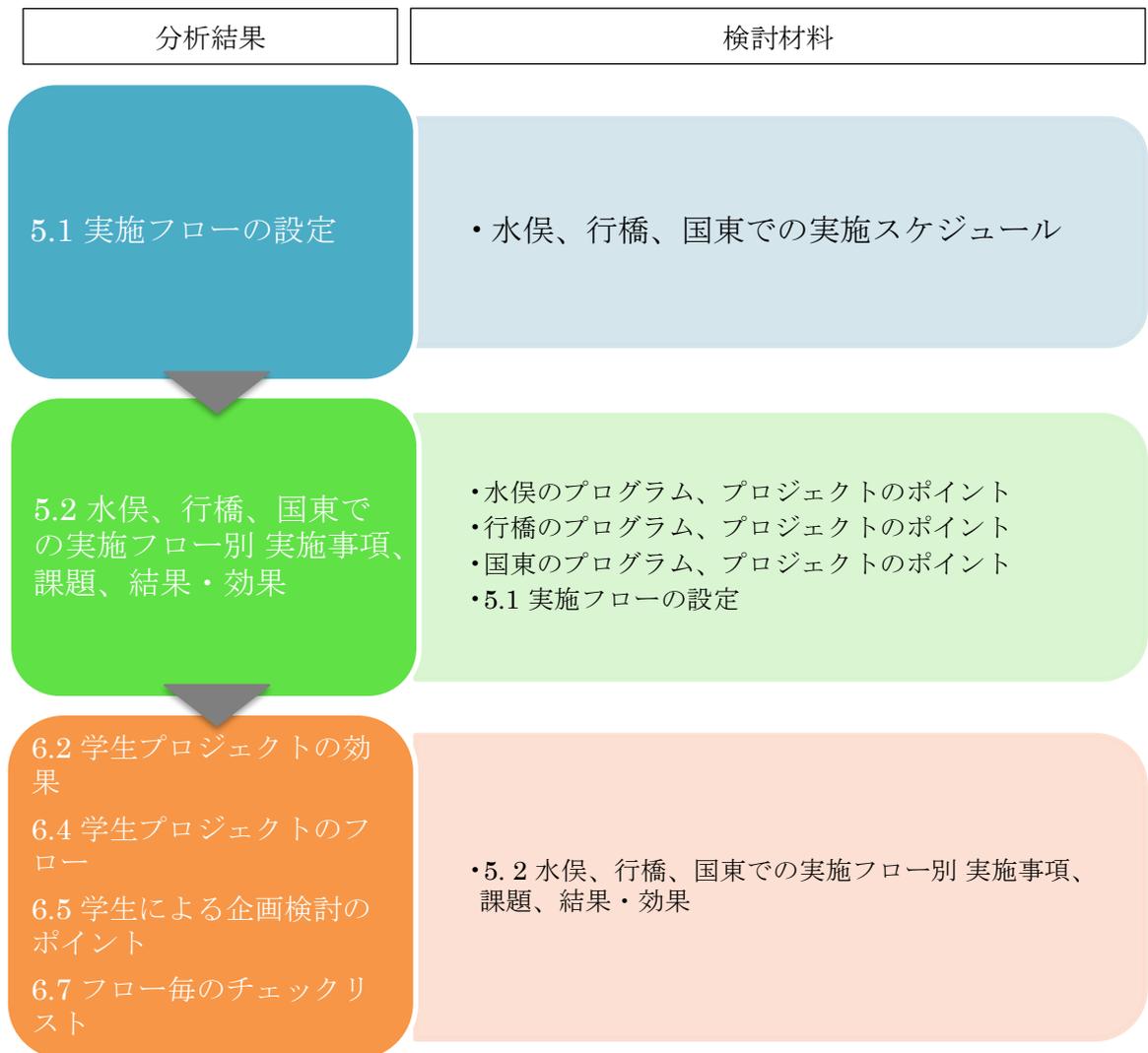
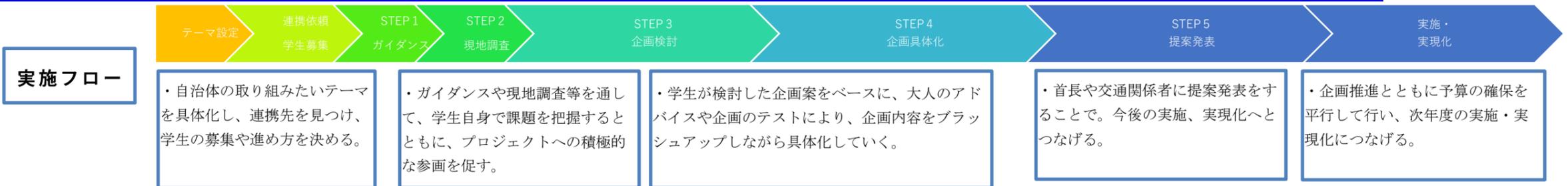


図 5-1 マニュアル作成に向けた検討材料(右)と分析結果(左)

5.1. 水俣、行橋、国東での実施スケジュール

水俣、行橋、国東でのプロジェクトの実施スケジュールを並べて、「テーマ設定・連携依頼・学生募集」「STEP1 ガイダンス」「STEP2 現地調査」「STEP3 企画検討」「STEP4 企画具体化」「STEP5 提案発表」「実施・実現化」と7段階の実施フローに整理した。

実施フロー	7月				8月				9月				10月				11月				12月				1月				2月				3月			
	1週	2週	3週	4週	1週	2週	3週	4週	1週	2週	3週	4週	1週	2週	3週	4週	1週	2週	3週	4週	1週	2週	3週	4週	1週	2週	3週	4週	1週	2週	3週	4週				
高等教育機関予定	前期・1学期								夏休み								後期・2学期								冬休み				後期・3学期							
自治体提案	■																																			
自治体ヒアリング			7/21	7/31																																
高等教育機関（連携先）ヒアリング																																				
学生の募集																																				
キックオフ会議																																				
現地調査																																				
企画検討																																				
提案・発表																																				
効果検証 結果の整理																																				



5.2. 水俣、行橋、国東での実施フロー別 実施事項、対応、結果・効果

実施フロー別に、水俣・行橋・国東のプロジェクトの実施事項、課題、結果・Point・学生プロジェクトの効果を整理した。「課題」は各地域で共通して見られた実施事項を整理する中で抽出、「学生プロジェクトの効果」は学生がプロジェクトに参加・推進することによる効果を抽出した。

実施フロー	実施事項	課題	・結果 Point ・効果
テーマ設定 連携依頼 学生募集	・自治体とコンサルタントの協議 (水保7/31,行橋7/21)	・テーマ設定と連携先の具体化	Point 協議による取り組むテーマや連携先の具体化
	・連携先へ説明するための企画書作成(水保7/31,行橋7/21)	・テーマ設定と連携先の具体化	Point プロジェクト案を可視化
	・連携先候補の検討(水保7/31,行橋7/21)	・連携先の具体化	・高等教育機関の選定
	・西日本工業大学、熊本高専、大分大学では地域連携事業に積極的に取り組んでいる(行橋・水保・国東)	・高等教育機関の地域貢献	効果: 高等教育機関の地域貢献
	・高等教育機関との事前協議(行橋8/4,9/19 水保8/10)	・連携依頼	・自治体と高等教育機関がマッチング
	学生募集方法について協議(水保8/10)	・学生募集	・募集方法によってモチベーションが異なる。 ・単位認定できれば、参加学生は集まりやすい ・有志による課外活動形式であればモチベーションの高い学生が集まりやすい ・地元出身の場合、地域へ精通している ・成果物が分かりやすければ、学生へのアピールになる ・企画の実現性が高いものであれば、学生へのアピールになる ・学生には自由時間が少ないようにも思えるが、研究室所属前の学年であれば取り組みに参加しやすい
・先生、学生の授業、長期休み、部活、テスト等のスケジュール確認(水保8/10,国東 行橋)	・作業時間の確保と進め方	・作業時間の確保と進め方の方向性を決めておく	
・先生の関わり方について協議(水保8/10)	・先生の関わり方	Point 先生の温かい見守り	
STEP 1 ガイダンス	・市の概要や公共交通について理解が浅い学生が多いためガイダンスを実施(水保9/11,行橋10/4)	・公共交通や自治体に対する学生の理解不足	効果: 公共交通の問題把握や自治体への理解 Point テーマの共有・学生のやりたい事に立ってる
	・企画案について説明(水保9/11,行橋10/4)	・テーマの説明	・自治体の想定する企画案の理解
	・企画アイデアについて自由意見交換(水保9/11)	・テーマについて自由意見交換	・学生の主体性の喚起。学生が課題を自分毎として捉え、主体的に考える
	・WS形式の授業(行橋10/4)	・テーマ設定	Point 大人のテーマ設定と学生の企画検討の自由度のバランス
STEP 2 現地調査	・夏休み等長期休暇(水保9/11)、休日に対応(行橋10/28)、平日の授業が無い時間帯(国東10/13)	・現地調査の日程調整	・夏休みであれば、現地調査の日程調整がしやすい
	・現状と課題の認識を深め、企画内容を具体化するために現地調査を実施(水保9/29,国東10/13,行橋10/28)	・現地調査の実施	・課題認識が深まり企画案が具体化 効果: 世の中にはない新たなアイデア ・当初企画に加えて新たにバス内装デザインの可能性を確認(行橋10/28)
	・コンサルタントの予算で、高等教育機関の必要経費を負担(水保9/29 行橋 国東)	・現地調査の諸経費	・高等教育機関に金銭的負担をかけずに現地調査を実施
	・自治体からバス、JRなどの事業者、観光課等関係各社へ現地調査の協力を要請。(水保9/29 行橋10/28)	・多様な関係機関との連携	効果: 大人の積極的な支援 効果: 学生が交通事業者の業態を知る ・バスの試乗、JR駅構内の見学が可能に ・企画の実施に向けて、多様な関係機関を巻き込む ・多様な関係機関による能動的な課題解決方法の検討
STEP 3 企画検討	・記者クラブ、マスコミにプレスリリース。(水保9月)	・プロジェクトの周知	効果: 学生プロジェクトはマスコミ取材を受けやすい
	・大人達が長く話すぎない(行橋11/2)	・テーマ設定	Point 大人のテーマ設定と学生の企画検討の自由度のバランス
	・ゼミ、授業、放課後など定期的なスケジュールで実施(国東、行橋)	・進め方と作業時間の確保	・進め方を決め、作業時間を確保
	・寮生メンバーで自主的に集まりながら企画検討(水保)	・学生との連絡手段の確立	・企画検討の進捗の相談、内容の確認、日程調整等
	・試験週間、長期休暇、部活などの予定調整	・専門的な検討、成果のクオリティ	効果: 専門性の向上
	・学生がメールアドレスを所持していないため、利用しない場合、LINE等のSNSを活用する(水保、国東、行橋)	・学生による企画検討	効果: 普段受け身である授業に対して実践プロジェクトによる企画検討力の向上 ・学生が面白いアイデアを考える事で成功体験を得た ・学生自身による提案となりやる気を喚起 効果: 世の中にはない新しいアイデア ・大人では思いつかないアイデア
STEP 4 企画具体化	・先生・コンサルタントによる専門的な検討方法の提示(水保 行橋 国東)	・定期的な学校の訪問	Point 定期的な学校の訪問
	・学生が提案できるように企画の自由度を高くした(行橋)	・学生による企画具体化	効果: 世の中にはない新しいアイデア 効果: インスタグラムによる学生自身の情報発信 効果: 友達を誘うことによる利用促進
	・学生自身による企画書の作成(水保10月)	・学生による企画具体化	・学生の提案をベースに大人のアドバイスにより提案内容がブラッシュアップされる ・事業者からの声が反映され実現化に向けたイメージが生まれる
	・WS型授業で学生自身が考える時間の確保	・学生による企画具体化	効果: 若い世代の興味関心・利用促進 Point 学生がインスタグラムを使い情報発信 ・提案内容が具体化される ・実現化に向けたイメージが生まれる
	・自治体・コンサルによるファシリテーションが必要(水保、行橋、国東)	・企画具体化の諸経費	・高等教育機関に金銭的負担をかけずに模型製作
	・2か月期間が空いたことによる情報共有の問題(水保12/14)	・学生によるプロジェクト推進	Point 学生自身によるプロジェクト推進
STEP 5 提案発表	・当初企画には無かったインスタグラムを使った学生自身による情報発信(水保10/19,12/14)	・提案発表	効果: 学生からの意見であれば庁内で意見が通りやすい ・企画実施へのステップ 効果: 学生プロジェクトはマスコミ取材を受けやすい 効果: 論文発表による周知
	・当初企画には無かったバス内装デザインの追加(行橋)		
	・若者をターゲットにした広域観光、大人の修学旅行の提案(国東)		
実施・ 実現化	・先生によるアドバイス	・次年度の体制	・次年度の企画実施・実現化
	・企画会議で自治体、コンサルタントとの協議(水保10/19,12/14 行橋 国東)	・次年度の予算確保	・10月-11月時点では、学生による企画内容がまだ固まっておらず、行橋市から県への補助金の申請が難しかった →プロジェクトの開始時期を早める
・事業者への中間プレゼン(行橋12/14)			
全体	・企画の具体化: 模型製作(行橋12月)		
	・企画の具体化: 案内の試験貼り、観光モデルコースの調査、インスタグラムの撮影(水保1/20)		
・企画の具体化: 高専の友人を誘ってモニターツアーを実施(水保2/25)			
・コンサルタントの予算を活用(水保、国東、行橋)			
・授業終了後も継続して企画内容をブラッシュアップ(行橋2,3月)			
・学生とのプロジェクト推進(水保、行橋、国東)	・協働体制の確立	効果: 企画を楽しく進められる 自治体と事業者の連携が円滑になり、大人の積極的な支援も得られやすい	

5.3. 水俣、行橋、国東でのプロジェクトの効果

学生が利用促進のプロジェクトに参加することで得られる効果を整理した。

学生プロジェクトの効果は、「楽しい協働体制の確立・大人の積極的な支援」「湧き上がる新たなアイデア」「プロジェクトの話題性向上」「予算取りのしやすさ・プロジェクトの実現性向上」「若い世代の利用促進・地域住民の巻き込み」「実践プロジェクトによる企画検討力・専門性の向上」の大きく6つある。

表 5-1 高等教育機関と連携した利用促進の効果

分類	●学生プロジェクトの効果	自治体	高等教育機関	交通事業者	実施フィールド
楽しい協働体制の確立・大人の積極的な支援	・企画を楽しく進められる	●	●	●	水俣、行橋、国東
	・大人の積極的な支援	●		●	水俣、行橋
湧き上がる新たなアイデア	・世の中にない新たなアイデア	●	●	●	水俣、行橋、国東
プロジェクトの話題性向上	・学生プロジェクトはマスコミ取材を受けやすい	●	●	●	水俣、行橋
	・高等教育機関の地域貢献 ・就職活動へのPR		●		水俣、行橋、国東
	・論文発表によるプロジェクトの周知	●	●	●	国東
	・学生が交通事業者の業態を知る			●	行橋
予算取りのしやすさ・プロジェクトの実現性向上	・予算取りがしやすい	●			水俣、行橋
	・学生からの提案であれば庁内で意見が通りやすい	●			水俣、行橋
若い世代の利用促進・地域住民の巻き込み	・Instagramによる学生自身の情報発信 ・友達を誘うことによる利用促進	●		●	水俣
	・参加学生は公共交通機関の利用可能性者			●	水俣、国東
実践プロジェクトによる企画検討力・専門性の向上	・公共交通の問題把握や自治体への理解	●	●	●	水俣、行橋、国東
	・普段受け身である授業に対して実践プロジェクトによる企画検討力の向上		●		水俣、行橋、国東
	・先生の指導を受けながら、専門性を活かした課題解決方法の検討		●		水俣、行橋、国東

5.4.3 地域合同意見交換会の実施

水俣、行橋、国東の3地域でのプロジェクトの振り返りと情報共有、また今後他地域に横展開するための方策について意見交換するために、3地域合同意見交換会を実施した。

(1) 意見交換会実施日時

平成30年3月16日 15:00～17:00

(2) 意見交換会実施場所

九州運輸局 7階 内閣府地方連絡室

(3) 意見交換会出席者

氏名	所属	役職等	備考
中島 浩二	西日本工業大学 デザイン学部 情報デザイン学科	教授	行橋
永見 祐一	行橋市 都市政策課	主任	行橋
橋本 淳也	熊本高等専門学校 建築社会デザイン工学科	准教授	水俣
川口 彩希	熊本高等専門学校 建築社会デザイン工学科	助教	水俣
山田 大悟	水俣市 総務課	参事	水俣
大井 尚司	大分大学 経営システム学科	准教授	国東
鈴木 圭祐	九州運輸局 交通企画課	課長	事務局
川野 一代	九州運輸局 交通企画課	企画第一係長	事務局
内田 圭亮	九州運輸局 交通企画課	企画第二係	事務局
白石 悦二	日本工営株式会社	課長	コンサルタント
高峯 高	日本工営株式会社		コンサルタント
許斐 信亮	日本工営株式会社		コンサルタント
行徳 拓宏	日本工営株式会社		コンサルタント

(4) 意見交換会での主な意見

テーマ	内容
予算の確保しやすさ・プロジェクトの実現性の向上	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 学生からの提案は自治体内で意見が通りやすい ➤ 予算取りがしやすい <p style="color: red;">→予算の確保しやすさ・プロジェクトの実現性向上</p>
学生の主体性と大人のテーマ設定	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 学生の意欲ありきのプロジェクト ➤ 大人の事情により学生のモチベーションが上がらない場合がある
実施フィールド	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 近い方がやりやすいが、遠くても学生にとって旅行気分に参加できる。
学校側のプロジェクトの位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> ➤ COC(地(知)の拠点化事業) ➤ 部活動・課外活動
学生にとっての授業の位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 公募は意欲的な学生が集まりやすい ➤ 必修科目の場合モチベーションが低い場合もある ➤ 単位認定の必要性
プロジェクトの開始時期	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 学校側は前年度から依頼が来ているのありがたい ➤ 自治体の予算執行時期も踏まえると、5～6月頃、遅くとも夏休み前までには相談してもらいたい <p style="color: red;">→高等教育機関と自治体の連携初年度は5-6月頃に相談、夏休みまでに学生募集、夏休みに現地調査、後期に事業実施が現実的</p>
プロジェクトの継続性	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 継続して取り組む事で先輩が後輩を教える関係が構築され、組織として能力が向上する ➤ 本事業を通して3地域で新しい動きを生み出すことはできた。他地域への横展開に向けて先行する3地域での継続的な実施が重要 <p style="color: red;">→継続的に取り組む中で前年度からスケジュールの調整が可能となる。</p>
高等教育機関の諸経費	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 学生、先生の実費程度の諸経費を負担してもらえれば良い ➤ 大学から学生に直接交通費等を出すのは事務処理上難しい ➤ コンサル等の第3者が仲介することで高等教育機関の事務処理上の負担は減る
学生チーム・学年	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 多様性があるチームの方が活性化しやすく、同じ学年だと活性化しにくい場合がある ➤ 大学4年生など、研究室や就職活動が始める学年は難しい ➤ 低学年はスキルがまだ高くないため、手助けの必要あり <p style="color: red;">→2、3年生が適切なタイミング</p>
成果品のクオリティと学生プロジェクトによる効果	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 成果品に求められる質と学生プロジェクトの効果のバランスをとるようにテーマ設定の工夫や学生に求める成果物の想定が重要

6. 学生プロジェクトのマニュアル

6.1. 学生プロジェクトとマニュアルについて

地域の公共交通を取り巻く環境は、利用者が減ることによる公共交通のサービス低下、サービス低下による利用者減という負のスパイラルに陥り、交通事業者だけでは改善できない状況に陥っている。そのため、自治体は補助金による事業者支援やコミュニティバスの運行に取り組んでおり、公共交通に対する自治体の役割が増大している。

しかし、平成 28 年度九州管内における公共交通基礎調査によると「公共交通の専任担当者がいない」とする市町村は 83.2%に上る。これらの専任担当者は減少傾向にあり、自治体におけるマンパワーの不足が問題となっている。このような状況下においては、公共交通施策の現状分析や評価、利用促進、企画立案等に専門的な知識を持った職員が注力していくことは困難であると考えられる。

一方、大学においては平成 19 年 6 月の学校教育基本法改正の中で大学が果たすべき役割として教育研究の成果を広く社会に提供することが新たに位置づけられており、各大学による地域貢献活動や地域に入り込んだ研究活動が活発に実施されている。また、平成 25 年度からは文部科学省が「地（知）の拠点整備事業」を立ち上げ、大学、短期大学及び高等専門学校（以下、高等教育機関という）を地域の課題解決に資する情報・技術拠点として機能強化していくことを求められている。

本マニュアルは、高等教育機関と連携することで自治体と交通事業者が抱える地域公共交通の課題を解決する、学生を主体とした地域公共交通の利用促進（学生プロジェクト）に関する参考資料である。学生プロジェクトは、高等教育機関が参加することで一般プロジェクト型よりも大きな効果があるが、課題も多い。本マニュアルを活用することで、学生プロジェクトの効果をより大きく、課題を少なくすることを目的とする。



図 6-1 3者の課題と高等教育機関と連携したプロジェクトの効果

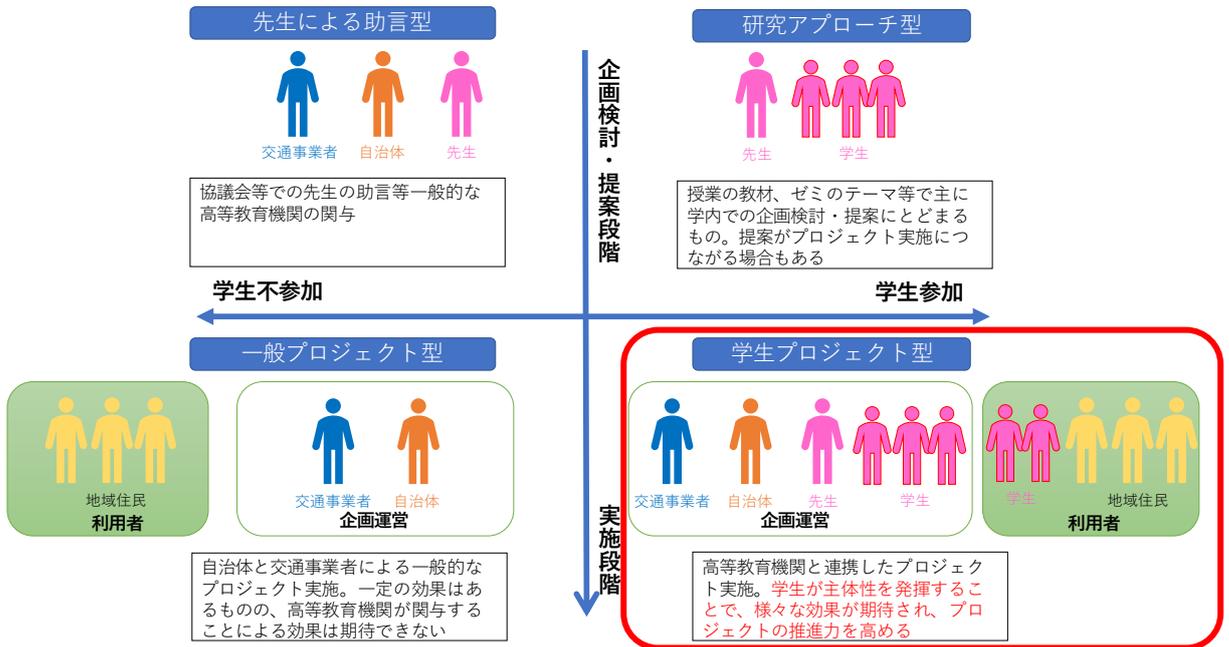


図 6-2 利用促進の4つのタイプ

6.2. 学生プロジェクトの効果

学生が利用促進に主体的に関わることによる6つの主要な効果を示す。

(1) 楽しい協働体制の確立・大人の積極的な支援

学生が参加することで、関係する大人達が楽しくプロジェクトを進められるとともに、現地調査の段階から交通事業者等の積極的な支援を受けやすくなる。学生を媒介としながら交通事業者と良好な関係を構築しておくことで実施・実現化の際に事業を円滑に進めることができる。



図 6-3 楽しい協働体制のイメージ

(2) 湧き上がる新たなアイデア

学生が企画案を自由に検討していく中で、自治体が当初想定していなかった新しいアイデアが生まれる事が多くある。これらの企画アイデアを元に、大人達がアドバイスを加えブラッシュアップしていくことで、世の中になかった新たなアイデアが実現化に向けて動き出す。



図 6-4 自治体の当初企画に無かった新たなアイデア（バス内装のデザイン）

(3) プロジェクトの話題性向上

学生プロジェクトは大人達による一般プロジェクトと比較して、マスコミの取材対象になりやすく、プロジェクトの話題性向上につながる。その結果、交通事業者・自治体には公共交通の認知度向上、高等教育機関には地域貢献の宣伝、学生には就職活動等での自己PRとして、様々な効果が期待できる。

また近年は SNS の普及により学生自身が情報を発信する側となったため、マスメディアに頼らない話題性向上の方法もある。



図 6-5 マスコミによる取材

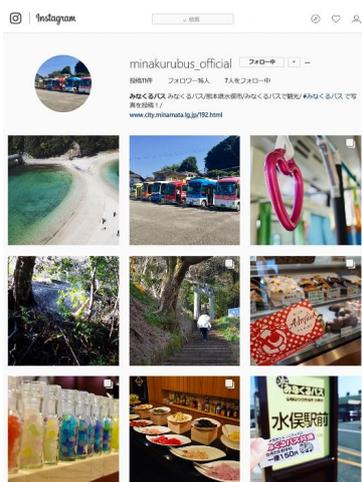


図 6-6 インスタグラムによる情報発信

(4) 予算取りのしやすさ・プロジェクトの実現性向上

プロジェクトの実施・実現化に向けて、自治体の担当者は予算取りをする必要があり、学生から提案された企画であれば予算取りや庁内調整等を推進しやすくなる。また自治体の首長や交通事業者の上級役職の方へ提案を発表する事で、プロジェクトの実現可能性も高くなる。



図 6-7 高専生による市長への提言

(5) 若い世代の利用促進・地域住民の巻き込み

プロジェクトメンバーの学生は公共交通を普段使っていない事が多いが、プロジェクトを通して公共交通に興味関心を抱き、今後利用者に転換する可能性がある。また学生が自分たちと同じ若い世代を対象とした利用推進策を企画・実施することで他の若い世代に効果のある企画内容になりやすい。



図 6-8 若い世代をターゲットにしたモデル観光ツアーと公共交通の活用

(6) 実践プロジェクトによる企画検討力・専門性の向上

普段受ける授業は「受け身」で学習するのに対して、実践プロジェクトは自分たちで課題を設定して、解決するための企画案を考え、具体化していく、能動的な学習プロセスである。先生から専門的な検討方法も教えてもらいながら、自ら実践していくことで企画検討力や専門性が向上する教育効果がある。

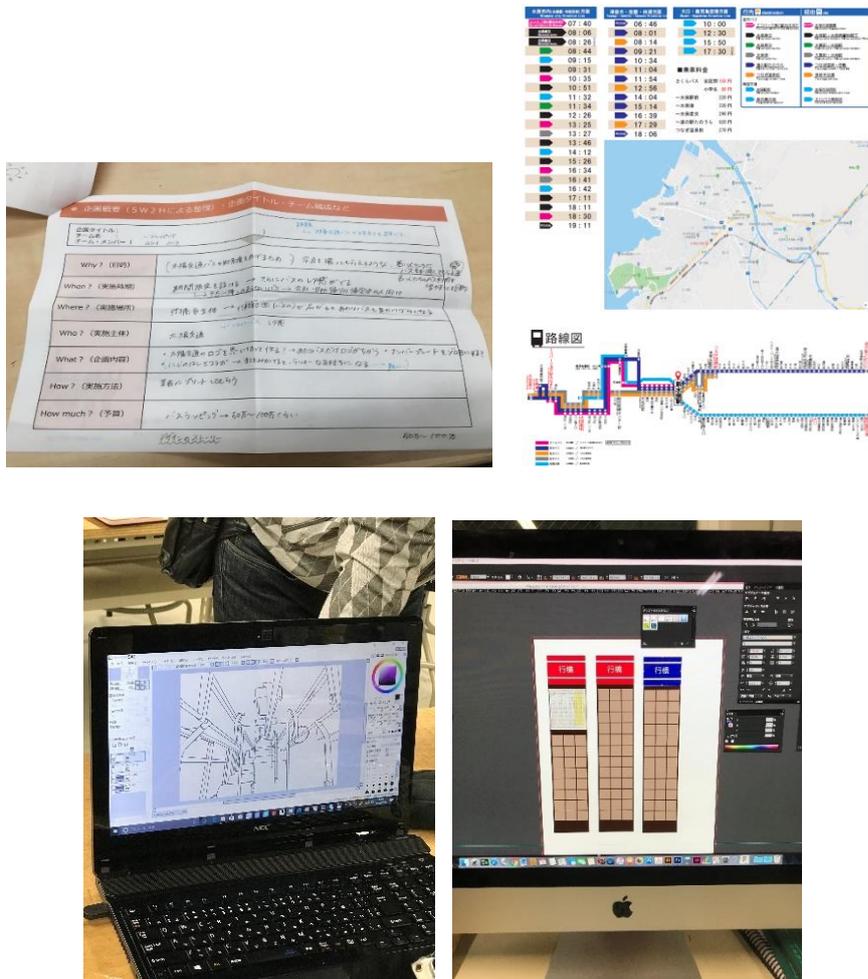


図 6-9 企画書作成・専門的な検討・PC によるデザイン作業

6.3. 実施体制

学生プロジェクトの実施体制を以下に示す。各実施フローにおいて基本的に自治体、高等教育機関、コンサルタントで進めつつ、企画案の協議、現地調査での訪問、中間プレゼン、交通会議等での発表等の大事な場面で交通事業者も巻き込みながら事業実施に向けた取り組みを進めていく。

また学生との連絡窓口について、自治体やコンサルタントは、若手担当者を実施体制に組み込むことで各関係機関の連絡調整が円滑に進む。

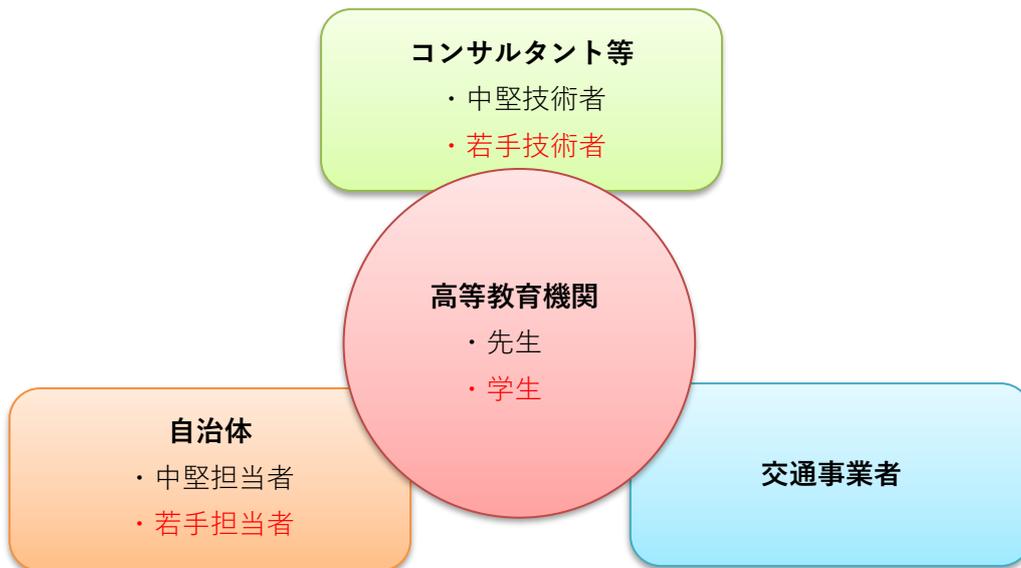


図 6-10 実施体制

6.4. 学生プロジェクトのフロー

プロジェクトのフローとそれぞれの時期における狙いを示す。

(1) テーマ設定・連携依頼・学生募集

自治体の取り組みたいテーマを具体化し、連携先を見つけ、学生の募集や進め方を協議する。

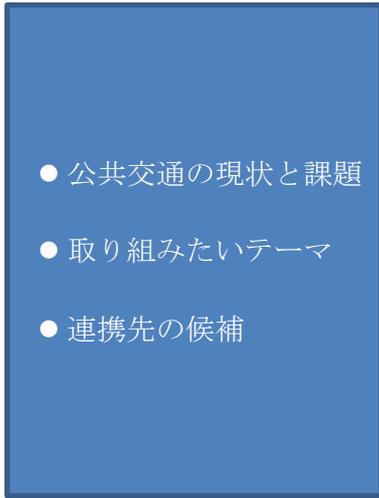


図 6-11 企画書案



図 6-12 連携依頼・学生募集

(2) STEP1 ガイダンス STEP2 現地調査

ガイダンスや現地調査等を通して、学生自身で課題を把握するとともに、プロジェクトへの積極的な参画を促す。



図 6-13 STEP1 ガイダンス



図 6-14 STEP2 現地調査

(3) STEP3 企画検討・STEP4 企画具体化

学生自身で企画案を検討することで、大人達では思いつかなかった新たな企画アイデアが生まれる。その企画アイデアを大人のアドバイスや企画のテストによりブラッシュアップしながら、企画を具体化する。



図 6-15 STEP3 企画検討



図 6-16 STEP4 企画具体化

(4) STEP5 提案発表

自治体の首長や交通事業者等に提案を発表することで、今後の実施・実現化へつなげる。



図 6-17 STEP5 提案発表

(5) 実施・実現化

プロジェクト推進に平行して自治体は予算取りを進めて、次年度の実施・実現化につなげる。

6.5. 学生による企画検討のポイント

(1) 大人によるテーマ設定と学生による企画検討の自由度のバランスが重要

大人が企画検討の幅を持たせた広いテーマ設定にすることで、学生が自由に企画アイデアや企画案を検討することができる。その結果、学生の主体性が喚起され、自分たちのプロジェクトとして進めるようになり、学生プロジェクトの効果や自身の企画検討力・専門性の向上につながる。

テーマ設定が狭すぎて企画検討の自由度が無い場合（大人が決めた企画）や、そもそも学生が興味のないテーマの場合、学生の主体性は喚起されにくい。



図 6-18 大人によるテーマ設定と学生による企画検討の自由度

(2) 学生にとって現地調査は重要（可能なら企画具体化段階でもう一度）

自治体によるガイダンス後は現地調査に行き、学生自身で公共交通の課題認識を深めることが重要。現地調査中には、当初自治体が想定していなかった新たなアイデアの種が見つかる事もある。

また企画がある程度が固まった段階で、再度現地に行き、企画のテストをすることで提案内容のブラッシュアップを図ることが可能である。



図 6-19 現地調査の効果

(3) 大人達の温かい見守り・アドバイスのバランス（成果品の質と学生参加のバランス）

学生達が自身で主体的にプロジェクトを進めるには、大人の温かい見守りが必要だが、一方で専門的な検討方法の提示や必要に応じたアドバイスも必要である。そのバランスが良ければ、成果品の質と学生プロジェクトの効果の両立も可能になる。



専門知識、検討方法の提示



温かい見守り

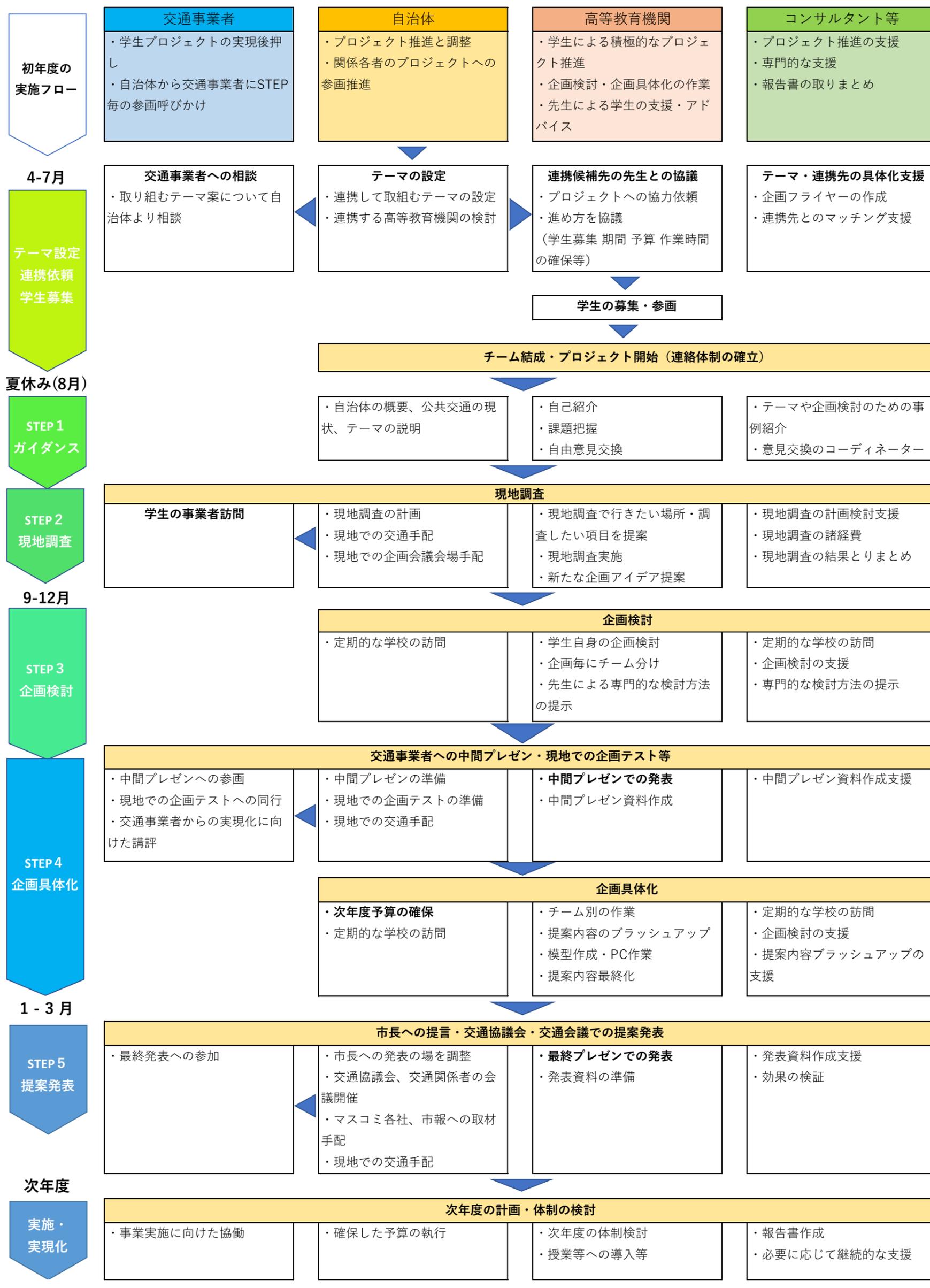


大人達から実現化を後押し・質を改善するコメント

図 6-20 大人達の温かい見守り・アドバイスのバランス

6.6. 学生プロジェクトの年間フローと役割分担

高等教育機関と自治体が連携する初年度における想定時期とフロー毎の自治体、高等教育機関、交通事業者、コンサルタント等の役割を示す。



STEP 1 ガイダンス	1	○学生へのガイダンス資料	
		・自治体の概要	(自由記述)
		・公共交通の現状と課題	(自由記述)
		・取り組むテーマや企画案	(自由記述)
	2	○学生の積極的な参加を促すためには？	【意欲的な学生達の場合】 <input type="checkbox"/> 自由意見交換（公共交通や企画アイデア） 【意見があまり出てこない場合】 <input type="checkbox"/> 指名制で全員から意見を聞く
	3	○学生との連絡手段は？	<input type="checkbox"/> メールアドレス <input type="checkbox"/> LINE等のSNS
STEP 2 現地調査	1	○現地調査の日程調整は？	<input type="checkbox"/> 夏休み <input type="checkbox"/> 休日
	2	○現地調査の目的や調査項目は？	(自由記述)
	3	○現地調査時の各種調整は？	<input type="checkbox"/> 交通手段 <input type="checkbox"/> 食事・懇親会 <input type="checkbox"/> 会議室
	4	○現地調査の諸経費は？	
	5	○交通事業者への呼びかけは？	<input type="checkbox"/> 交通事業者への呼びかけ <input type="checkbox"/> 現地調査への協力依頼・事業所訪問
	6	○プロジェクト開始の周知は？	<input type="checkbox"/> マスコミへのプレスリリース <input type="checkbox"/> 市報への掲載
STEP3 企画検討	1	○学生自身で企画を検討するためには？	<input type="checkbox"/> 現地調査の振り返り <input type="checkbox"/> 企画アイデアについて自由意見交換 <input type="checkbox"/> 企画書の作成 <input type="checkbox"/> 企画毎にチーム分け
	2	○学生で企画を検討するために提示する情報は？	<input type="checkbox"/> 網形成計画の関連事項 <input type="checkbox"/> 先進事例の紹介 <input type="checkbox"/> 専門的な検討方法の提示
	3	○高等教育機関の進捗状況の確認方法は？	<input type="checkbox"/> 定期的な訪問 (2回に1回は授業に参加する等) <input type="checkbox"/> 定期的な企画会議 (1か月に1回程度の会議開催)
STEP4 企画具体化	1	○企画内容がある程度固まった段階で	<input type="checkbox"/> 交通事業者への中間プレゼンの実施 <input type="checkbox"/> 現地での企画テスト
	2	○企画具体化の方法は？	<input type="checkbox"/> チーム毎の作業 <input type="checkbox"/> 模型作成 <input type="checkbox"/> スケッチ <input type="checkbox"/> PCの使用
	3	○次年度の実施・実現化に向けた予算の確保は？	<input type="checkbox"/> 自治体の自主財源 <input type="checkbox"/> 県の補助金の活用 <input type="checkbox"/> 国の地域公共交通調査等事業の活用
STEP5 提案発表	1	○提案発表は？	
		・誰に、どこで？	<input type="checkbox"/> 首長（市長等） <input type="checkbox"/> 交通関係事業者 <input type="checkbox"/> 地域公共交通会議 <input type="checkbox"/> 地域公共交通協議会
		・発表資料の準備は？	(自由記述)
		・プロジェクトの周知	<input type="checkbox"/> 新聞 <input type="checkbox"/> 広報誌 <input type="checkbox"/> SNSの活用
実施・実現化	1	○次年度の取り組みは？	
		・実施項目	(自由記述)
		・実施体制	(自由記述)
		・次年度の予算	(自由記述)

6.8. 学生プロジェクトの開始前における留意点

学生プロジェクトを始めるにあたって最初の課題となる、予算確保と開始時期、高等教育機関の選定、連携先との協議、高等教育機関への依頼・学生募集、コンサルタント等への委託について整理した。

(1) 予算確保と開始時期

プロジェクトを始めるにあたり、年度当初に①既に学生プロジェクトの予算を確保している場合、②利用促進の予算を確保しているが内容が決まっていない場合、③予算を確保していない場合が想定され、各パターンにおける財源と連携先への相談時期を示す。

予算の確保	財源	プロジェクトの開始時期
①既に学生プロジェクトの予算を確保	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 自治体の単独財源 ➤ 地域公共交通調査等事業の活用 ➤ 県の補助金 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前年度の予算確保と並行して前年度中に高等教育機関に相談しておくことで、次年度の前期から授業・ゼミ・課題活動としてスムーズに事業を開始することが可能。 ・ コンサルタント等へ他の利用促進事業と合わせて委託可能
②利用促進の予算を確保しているが内容が決まっていない	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 自治体の単独財源 ➤ 地域公共交通調査等事業の活用 ➤ 県の補助金 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前年度に高等教育機関に相談していない場合、5～6月等の夏休みまでに高等教育機関に相談しておくことで、後期から授業・ゼミ・課題活動として事業を開始することが可能。 ・ 既に委託しているコンサルタント等への契約変更による委託も可能
③予算を確保していない	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 自治体の単独財源による高等教育機関の実費を負担 ➤ 高等教育機関の研究費(地(知)の拠点整備事業・科学研究費助成事業等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ プロジェクトの提案・企画段階までであれば、高等教育機関の実費(交通費・諸経費等の30～50万程度)を負担すれば実施可能。 ・ 5～6月の夏休みまでに高等教育機関に相談しておくことで、後期から授業・ゼミ・課題活動として企画・提案発表まで進めて、11月頃に次年度予算を確保して、次年度の前期から事業を実施可能。 ・ 水俣、行橋、国東のプロジェクトに近い形 (注：本事業では九州運輸局が予算を支援している)

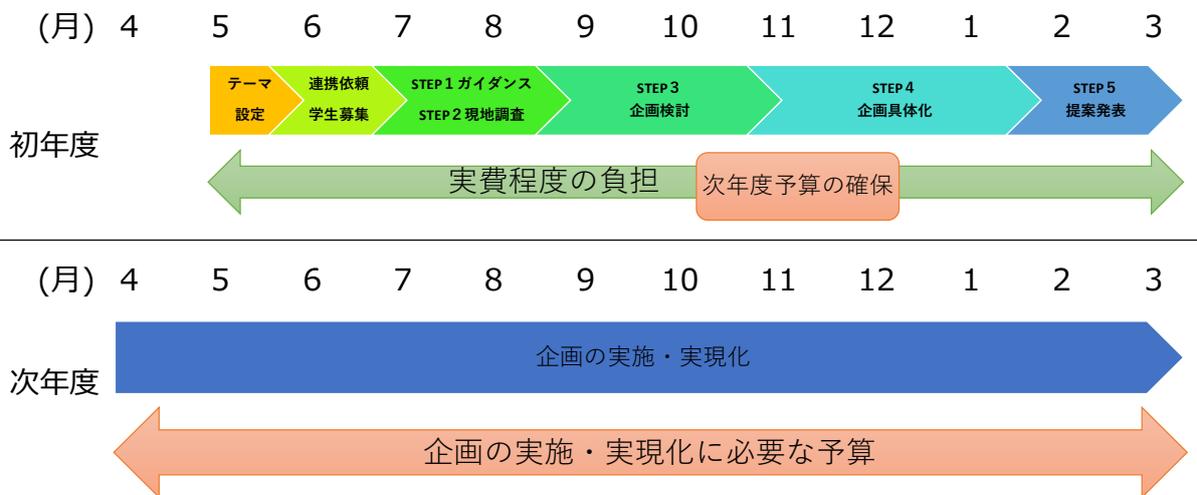


図 6-21 スケジュールの一例 (③予算を確保していない場合)

(2) 連携先の高等教育機関の選定

項目	内容
公共交通会議の学識者	交通関係の会議に学識者として参加している先生に依頼する。 その先生に他の先生を紹介してもらう。
地元の高等教育機関	地元の高校、高専、大学等に交通やデザイン等を専門に扱っている先生に依頼する。
運輸支局に相談	運輸支局から先生を紹介してもらう。
コンサルタント等に相談	公共交通や都市計画等の業務に従事しているコンサルタントは学識者との繋がりがあるため、コンサルタント等に相談して先生を紹介してもらう。

(3) 自治体から高等教育機関へ依頼する際の企画書のたたき台

自治体が高等教育機関へ連携の依頼協議する際、「目的」「取り組むテーマ」「体制」「スケジュール」等を記載した企画案を作成しておき、それを元に高等教育機関と協議する。

「高等教育機関と連携した地域公共交通の推進」
水俣市における具体的取組み・企画（たたき台） 2017.8/10

■目的

- ①自治体と高等教育機関（大学等）との連携による公共交通の利用促進（事例づくり）
- ②学生を主体とした取組みによる話題性の訴求
- ③地域の巻き込みによる持続的な活動への展開

■概要

- ①新水俣駅での新幹線と接続した路線バス・コミュニティバスのダイヤ検討とその情報提供のあり方
 - 現状では、新幹線と路線バスの接続はあまり考慮されていない
 - 新幹線とコミュニティバスは接続を図っているが、コミバスの本数が少ない
 - 接続を考慮したダイヤの検討とともに、その情報提供の検討（新水俣駅での情報提供、ネット等）
- ②バスまたはレンタサイクルを活用した市内観光モデルコースの検討及びモニターツアーの実施
 - 学生と地元住民の共同による観光モデルコースの検討（ワークショップ等）
 - 実際に、新幹線から接続したバス（またはレンタサイクル）を活用したモニターツアーの実施など

（確認・質問事項等）

- ・熊本高専（八代キャンパス）だけでご対応いただけるか
- ・広く他の大学・高専を巻き込む可能性はあるか
- ・この分野で協力してもらえる学生はいるか

■体制（案）

- 水俣市
- 熊本高専
- 産交バス（水俣営業所）
- 日本工営㈱
- 九州運輸局

■スケジュール（想定）

- 8～9月：企画内容を固める
- 10～12月：企画の実施
- 1～2月：効果検証、意見交換会（実施3自治体・地域）
- 3月：まとめ

図 6-22 高等教育機関への連携依頼書

(4) 連携先の高等教育機関との協議

企画案をもとに、連携依頼をして、高等教育機関から承諾してもらった後は、プロジェクトの進め方について協議する。

項目	内容
テーマ設定と高等教育機関に依頼したい内容	✓ 自治体が高等教育機関と連携して取り組みたいテーマと高等教育機関に依頼したい内容について説明した後、高等教育機関ができる
企画の想定スケジュール	✓ 自治体が考えている想定スケジュールを提示する。高等教育機関は、4-7月・夏休み・9-12月・冬休み・1-3月という期間で授業のスケジュールが組まれているため、どの時期にどのような事をするか協議する。
プロジェクトの進め方 ・学生の募集	✓ 高等教育機関に依頼したい内容に応じて、プロジェクトの進め方を協議する。 ✓ 授業、ゼミ、課外活動等での作業時間の確保の方法や想定する学生数に合わせて、学生の募集方法が変わる。必修の授業よりも公募の方が意欲の高い学生は集まりやすい。 ➢ ゼミ等の必修授業 ➢ 研究室の学生 ➢ 自由公募・課外活動（意欲の高い学生が集まりやすい） ➢ 部活動 ✓ まだ研究室に所属していない、就職活動を始めていない学部2、3年生の方が時間を確保しやすい。1、2年生の場合、先生の支援を多く必要とする場合もある。
先生の関わり方	✓ 学生主体のプロジェクトのため、先生には必要に応じて専門的な検討方法の提示や助言等を依頼する。
プロジェクトの予算	✓ 自治体の予算か高等教育機関の研究費を活用する。 ✓ 学内の事務処理手続き上、学生に交通費等を支払いできない場合もあり、コンサルタント等の第三者を仲介することで事務処理の負担は減る。

(5) 学生の募集

意欲の高い学生を公募する場合は、取り組むテーマが明確で「ポップで楽しい」雰囲気参加学生の募集フライヤーを作成する。フライヤーでは、学生の提案が地域を変える取り組みに繋がる事もアピールする。

「高等教育機関と連携した公共交通の推進」事業

参加者募集!

行橋市公共交通デザインプロジェクト

君のデザインが行橋市の公共交通を変える!

プロジェクトの目的

- ① 自治体と高等教育機関（大学等）との連携による公共交通の利用促進（事例づくり）
- ② 学生を主体とした取り組みによる話題性の訴求
- ③ 地域の巻き込みによる持続的な活動への展開

募集プロジェクト① 『バス停のデザイン』
※デザイン研究所のプロジェクトとして実施（予定）

- 募集定員：10人程度
- 締切：10/2
- 対象バス停の数：行橋市中心部の10基のバス停
- 対象バス停の仕様：（後日、協議・調整）

今後のスケジュール（予定）

- 10月：プロジェクト発足、メンバー決定
- 10～12月：学内の会合、地域との会合、デザインの実製作
- 1～2月：効果検証、意見交換会
- 3月：まとめ

募集プロジェクト② 『バス車両のラッピングデザイン』
※デザイン研究所のプロジェクトとして実施（予定）

- 募集定員：6名程度
- 締切：10/2
- 対象車両の仕様：長さ8.9m×高さ2.9m
- ※対象車両は最も利用の多い豊津線（行橋駅～みやこ町）をはじめ、市内のいろいろな路線で運行（予定）。

今後のスケジュール（予定）

- 10月：プロジェクト発足、メンバー決定
- 10～12月：学内の会合、地域との会合、デザインの実製作
- 1～2月：効果検証、意見交換会
- 3月：まとめ

お問合せ先

- ①西日本工業大学 担当：デザイン研究所 所長 中島浩二 ☎093-563-2018
- ②行橋市・都市政策課 担当：永見 ☎0930-25-1111（内線1372）
- ③日本工営㈱福岡支店 都市地域整備G 担当：高峯 ☎092-475-7569

図 6-23 学生募集のフライヤー

(6) 自治体からコンサルタント等に委託する際のモデル仕様書案

自治体が高等教育機関と連携した公共交通利用促進の施策を進めるに当たって、コンサルタントに発注するための仕様書案を下記に示す。

- 1) プロジェクトの準備
 - (ア) 利用促進のテーマの具体化
高等教育機関と連携して取り組む企画の内容を具体化する。その際、高等教育機関に依頼する内容や連携することで得られる効果を考慮すること。
 - (イ) 連携先の高等教育機関の選定
近隣地域の協力を依頼できる高等教育機関を選定して、連携プロジェクトの打診をすること。(事前協議2回程度)
- 2) 高等教育機関と連携したプロジェクトの実施支援
 - 選定した高等教育機関と連携プロジェクトの検討・実施の支援をする。
 - (ア) ガイダンスの実施
自治体の概要や公共交通の現状と課題、想定している企画内容について説明するためのガイダンスを1回行う。
 - (イ) 現地調査の実施
現地の現状や課題を把握、企画の検討を行うために現地調査を1回行う。
 - (ウ) 企画の検討支援
プロジェクトを進めるための時間(授業、ゼミ)を高等教育機関と調整して、定期的にモニタリング、企画進行補助をすること(3回以上)。
 - (エ) 企画の具体化支援
企画の具体化に向けて、デザイン案の模型作成、モデルツアーの実施などを実施して提案内容をより良いものにしながら具体化すること。
- 3) 地域公共交通会議などでの発表資料の作成支援
高等教育機関が上記プロジェクトの進捗及び最終成果を地域公共交通会議等で発表するための資料の作成を支援する(1回)。
- 4) 連携プロジェクトの効果検証
上記連携プロジェクトによる利用促進の効果を検証する。(利用者ヒアリング、高等教育機関ヒアリング)
- 5) 報告書作成
前述までの検討内容について、報告書に取りまとめる。

図 6-24 「高等教育機関と連携した地域公共交通の利用促進」業務委託のモデル仕様書

7. 連携推進フライヤー「学生が動かすバスプロ!! 求むまちと学校」

今後、他の自治体、事業者、高等教育機関に本取り組みに興味を持ってもらうための利用推進フライヤーを作成した。九州運輸局から当報告書の周知に活用し、高等教育機関と連携した利用促進事業の横展開を行う素材とする。

学生が動かす! 求むまちと学校
BUS Project Promotion Progress

自治体 バス会社 学生 先生

Event
 バスの試乗体験おでかけイベント

Sign
 新幹線駅でのカワイイ乗換案内

複数バス会社の統一路線図・時刻表

Design
 方向性1: 幸運を感じる回つ風のクローバーを採したくなるラッピングバス
 方向性2: インパクトのある「太陽」をイメージしたデザイン

住民との思い出のバス停づくり

バスラッピングデザイン

バス内装デザイン

Program
 Instagramでの情報発信

広域観光でのライナー活用

公共交通を使った市内観光

バスプロでまちが変わる!!



学校と連携して取り組みを!



プロジェクトのSTEP



九州各地で取り組みが始まっています!!

豊後大野市

大人の社会見学：大学生と高校生企画の試乗体験イベント
豊後大野市&大分大学・三重総合高校&コミュニティバス

水俣市

多モード結節点における総合案内と公共交通を使った市内観光
水俣市&熊本高専&JR・路線バス・おれんじ鉄道

行橋市

バスラッピング、バス内装、バス停のデザイン
行橋市&西日本工業大学&路線バス

国東半島

国東地域広域観光における公共交通の活用
大分県&大分大学&広域ライナー&乗合タクシー

お問い合わせは
九州運輸局交通企画課へ

・取り組みの詳細説明、自治体と高等教育機関のマッチング支援、マニュアルの配布等
TEL: 092-472-2315, Mail: qst-qst-kikaku@ml.mlit.go.jp